

新春



白倉南岳稜線のブナに新雪が美しい。

世界の山旅 冬の森

「一人では行けない、でも、行きたい。」
それにお応えするのが
実体験に基づいた
アルパインツアーの旅づくりです。

総合ツアーカタログをご請求ください。

イベント情報 (14:00~16:00) 大阪科学技術センター(四ツ橋駅前・うつほ公園北側)にて開催(入場無料)

●ご来場の方には素敵な贈品をもしながらプレゼント!
お問合せはアルパインツアー大阪支店へ

ヒマラヤ(ネパール・中国)の美しい 【開催日】1/14(水) トレーニング・中国植物 山の魅力をアスロを前以て詳 しくご案内します。	ニュージーランドの美しい 【開催日】1/15(木) 「地球の絶景」とも称される、 ニュー・ジーランドの自然の美 麗さを堪能します。	スイスとイタリアの美しい 【開催日】2/4(水) ヨーロッパに広がる美しい山岳 ショッピング・イタリアの山岳 自然を堪能します。
---	--	---

ツアーのご案内 掲載のツアー以外にも多くの企画がございます。お気軽にお問合せください。

リョムソンマウンテンリゾートと ボカラ、古湖バクタブル 10日間 ●11日間 ●20万円 ●440,000	ミルフォード・トラックと クイーンズタウン 9日間 ●12日 ●19万円 ●520,000	ルートバーン・トラックと クイーンズタウン 8・9日間 ●11日間 ●17万円 ●480,000 ●12日間 ●19万円 ●520,000
北欧屈指のオーロラ観測地 アビスコゆったり滞在 7日間 ●11日間 ●14万円 ●380,000	キリマンジャロ ゆったり登山とサファリ 11日間 ●11日間 ●16万円 ●400,000	海唇の最高峰、五岳山頂と七ヶ浜 ハイキング 5日間 ●11日間 ●15万円 ●380,000 ●12日間 ●16万円 ●400,000
ベトナム北部ファンシーバ山頂 とアンコールワット観光 12日間 ●12日間 ●27万円 ●680,000	冬の北海道「しかりべつ湖コタン」 湖の氷の村と長閑な散歩 3日間 ●3日間 ●10万円 ●260,000	大山スノーシュー・ ハイキング 2日間 ●2日間 ●11万円 ●280,000

アルパインツアーのホームページをご覧ください。 <http://www.alpine-tour.com>

ALPINE TOUR サービス株式会社

〒560-0203 大阪府西成区南船場1-4-1 TCFビル4F
 東京 / ☎03(3503)1911 大阪 / ☎06(6444)3033
 名古屋 / ☎052(581)3211 福岡 / ☎092(715)1507
 札幌 / ☎011(711)7100 仙台 / ☎022(252)4611 横浜
 (住リムゆう観光) 広島 / ☎082(342)1600 熊本
 e-mail:osaka@alpine-tour.com

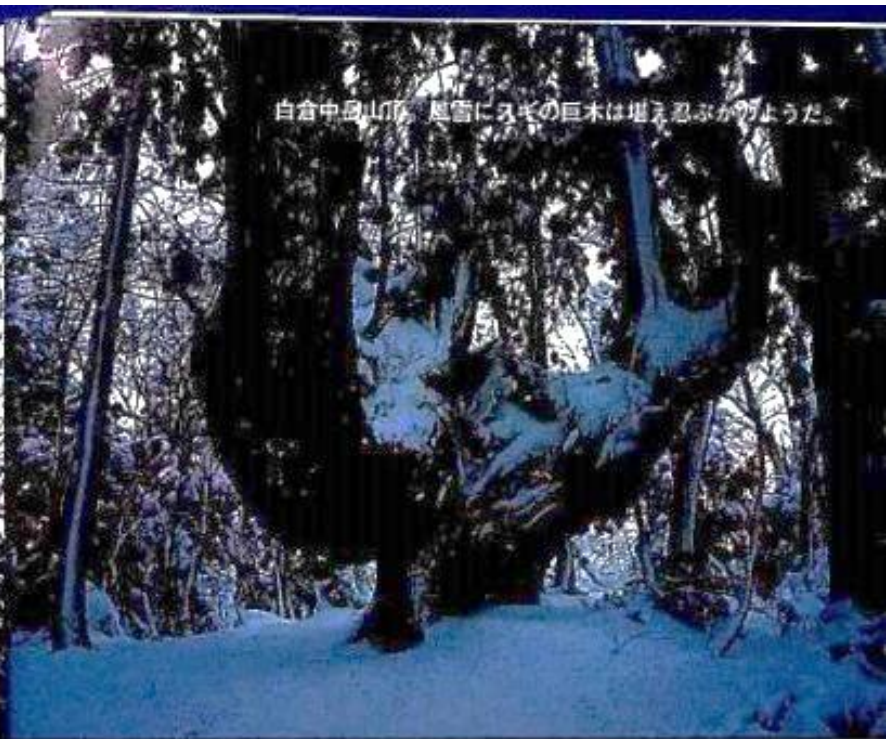
山頂まで降りリトリアルパインツアーを企画してみませんか?

山岳会、ハイキングクラブで企画
ツアーリーダーも同行し、安心の山旅
山岳会、ハイキングクラブなどで海外トレッキングやハイ
キングを企画したい、いつもの山岳会や登山の山歩き
をしてみたい、というような場合に、アルパインツアーの
ツアーリーダーが同行し、ご案内いたします。旅行ブ
ックにはついては、経験豊富なスタッフにご相談下さい。

出張説明会 山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングのライドを上映します。



雪の結晶が一面のひて見事な自然の造形美である（白倉南岳、中岳の枝幹）。



白倉中岳山頂。風雪にスギの巨木は堪え忍ぶかのようだ。

近江の山 樹木の四季 —新春—

山本 武人

朽木の山・白倉中岳スギ、白倉南岳フナなど

（高島市朽木村井・柳生）

朽木山行会が平成元年に発足するまで、白倉岳は登山者も少なかった。山行会が登山道を開いてからは多くの人達が登る。しかし、積雪期の登山者は少ない。

新雪のあと、南岳から中岳に登る。木々に雪の波紋が見事な芸術美を見せる。スギの巨木は雪とのコントラスト、フナも白一色の世界だ。

新春の雪山は無積雪期とは違う表情を見せてくれる。



菜の花 (守山・なせる公園)

春になるとやってくる風 風は
 来風解凍 冬の間は水はとどく
 流る日 風が冷たいので
 これは来風 春のさきとどろく
 水を浮かべた池もあれば
 かわらの池の花は
 ほころびはじめる
 われわれ現代人が見過ごしてしま
 ちな大自然の機微
 まさとしまけるものの魂の声を
 時に優しく 時に力強く
 伝えてくれる
 春たらける日よめる 紀貫之
 袖ひらてむすびし水のこぼれるを
 春立つ今日の風やとくらむ



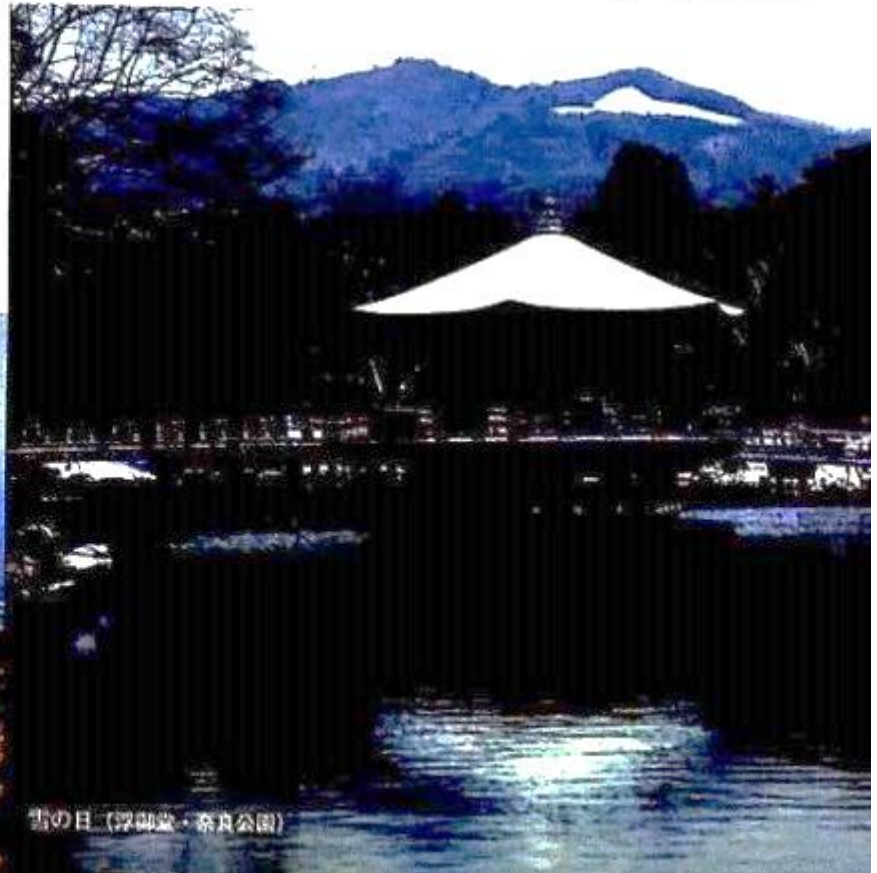
雪山 (比良山)

Photo essay

東風解凍



題字 中田 蘭 石
 撮影 由井 収
 文 松 永 恵 一



雪の日 (浮御堂・奈良公園)

季節の

実景

冬の古民家（高島市朽木）

撮影 武市通治

新春



冬仕事



朝光



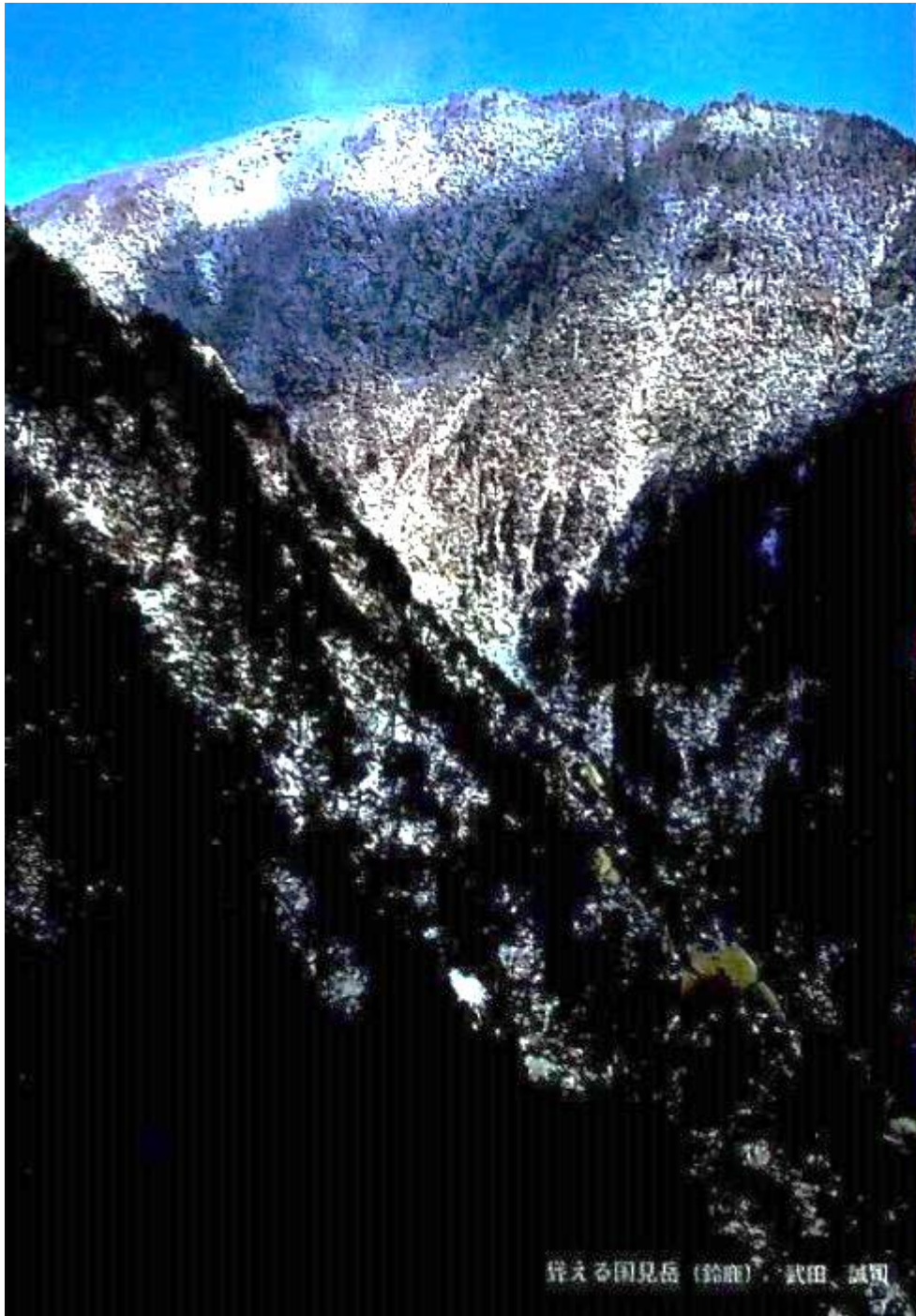
朝冷え



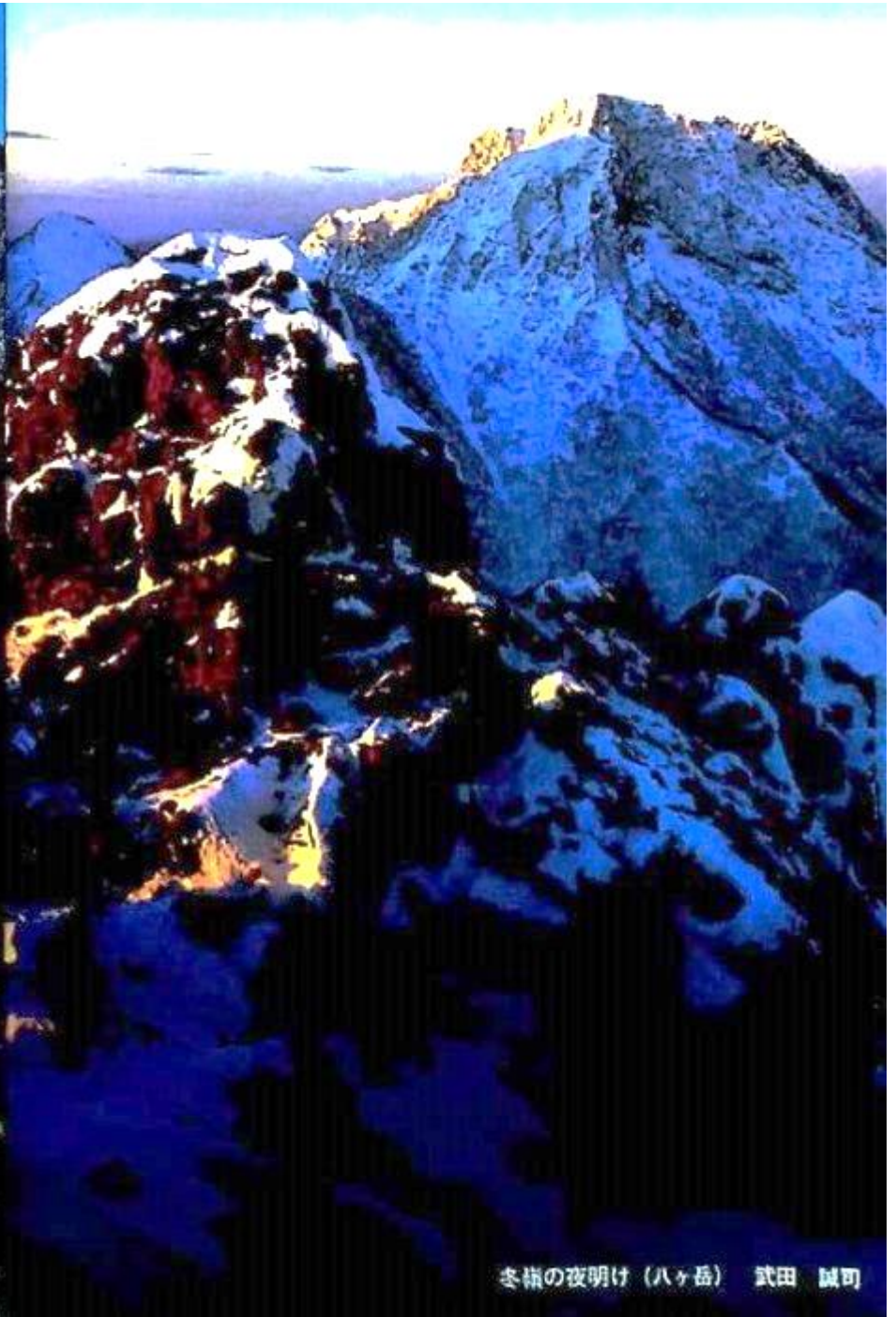
残り柿



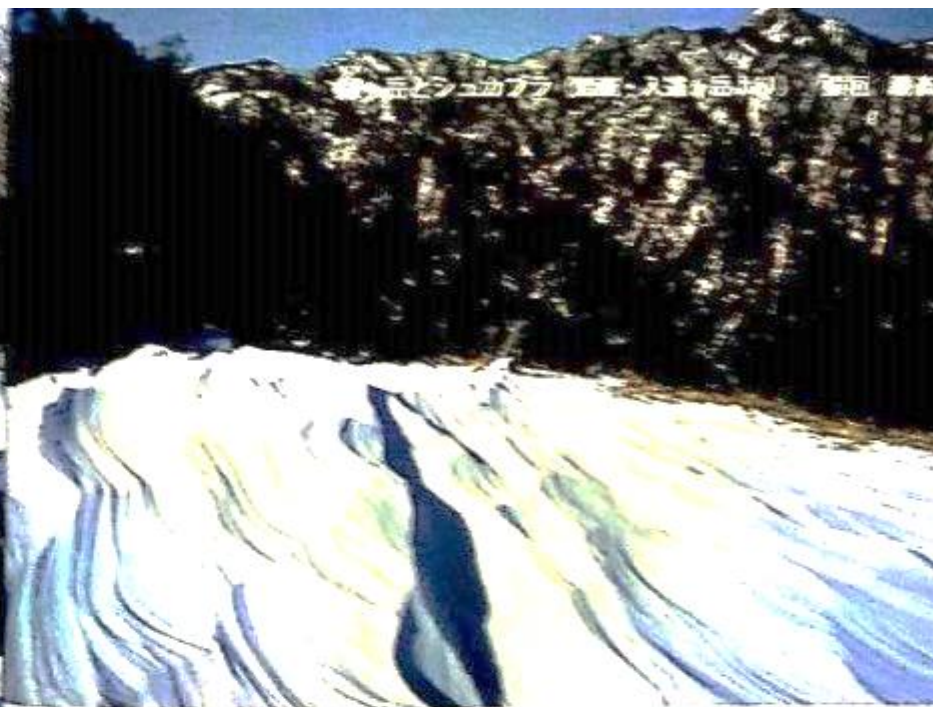
新雪



昇える国見岳（鈴鹿） 武田 誠司



冬嶺の夜明け（八ヶ岳） 武田 誠司



雪とツルカワ 雪道・入道(雪道) 雪道 雪道



雪の山花見 雪道・雪道・雪道 雪道 雪道

雪の山花見 雪道・雪道・雪道 雪道 雪道

●表紙 ●口絵
マヤ、ヒト、ワケ、人、星、空、月、日、ト、オ、イ、ル、ゾー、松田敏男
近江の山・樹林の四季……………山本武人
Photo-essay「東風解凍」……………松永恵一
季節の支那「冬の古民家」……………武市満信
・武田誠司・福垣将義・西日敏夫・高田真美子
ホリディンボカラ（ネパール）……………奥田英一郎



高見山の霧氷（西村文男）

紀行

連載紀行

権現山から小女郎ヶ池	木村 太郎
十文字峠から白雲山	山形 明
阿ノ天弁	山田 明男
アゼチ各地方陣所から小女郎ヶ池	小山 誠次
冬の冷山各陣所	長谷川智俊
標高による山の紹介 ハハロ4訂の山	松田 敏男
三角点の山・大山からお初山	藤野 純
精国登山・折廻山	菅見 英樹
精国歴史ハイイク・奈良市高畑を訪ねて	松永 恵一

情報

山

雪原の形状を眺め切れるか	西尾 勇一
自然観察トレッキング講座	菅見 守康
情報誌の川崎慶喜その他	金谷 昭
山の地名を歩く・熊鷹森（終）	西尾 勇一
十二支の山・丑年の山	生駒 登峰
精国山の山を授受・雪隠山・北瀬山	村田 智俊

コースガイド

川向山湯山から清水山	長瀬 清司	68
①桶ノ山・日和山・城山	藤本 伸人	70
②岩神山	柴田 昭彦	72
③伊弉山	金谷 昭	76
せせらぎ	入会案内・新入会員紹介	79
サービスチエーン	原稿募集・編集後記	84
山行計画・報告	広告案内	112

巻頭言

冬の登山心得について考えてみたい。
冬山でなくても滑って転落する事故、捻
挫・骨折もほとんどが下りである。冬は、
逃げなくとも山中で早い日没を迎えるこ
とが多く、夜間のゆえ込みで凍死する場合
がある。また、下山が遅くなって暗闇に迷
うこともあるだろう。
慣れた山でも特に冬は単独では登らない
こと。アイゼン・ピッケル・ストック・輪
カン、ヘッドランプのほかには強めの懐中電
灯・万一に備え、ビバークできるツェル
ト・シュラフ・断熱マット・マフチ・断熱
靴・ガスコンロ・コッヘル・非常食などを
持参しよう。防寒着にも注意し、手袋・靴
下・下着の替えも十分用意しておく。
また、日没1時間前には帰着できるように
下山を開始する。寒波の襲来が予想され、
大量の積雪が予測される時は山に入らな
いこと。吹雪に巻かれトレースはなくなり、
周辺の地形もわからなくなる。
新ハイキング案内（代表）村田 智俊

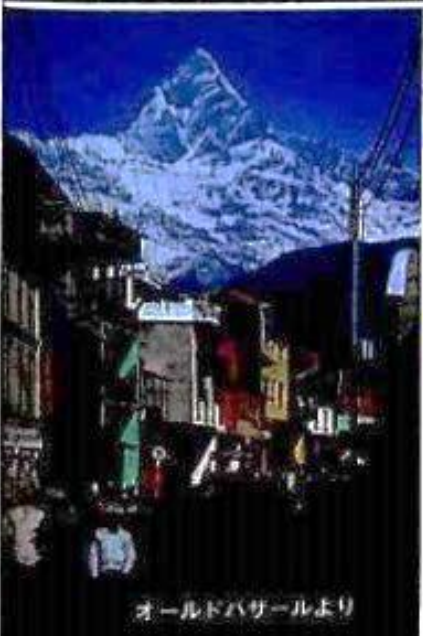
ホリディンボカラ（ネパール）

マチャプチャレイ峰（8903m）三頭

奥田 英一郎



ペワー湖上より



オールドバザールより



夜明けのサランコット(1692m)より

万葉集の歌枕を訪ねて

権現山から小女郎ヶ池

比良

木村太郎

近江八景に「比良の暮雪」と讃えられているように、武奈ヶ岳(1214m)を主峰とする比良連峰は、春遅くまで雪が残り、湖辺から美しい姿を仰ぎ見ることが出来る。

比良山について、語所藩儒学者の寒川辰清が著した、近江一円の地誌「近江輿地誌略」には、「高峰並び聯る故に並聯山と曰ふ」の文章がある。北は安曇川から南は和邇川までの間、比良連峰は屏風状に高峰が並び連なり合ひ、琵琶湖の水源を形成している。

万葉集には「楽浪の比良山」と詠まれているが、都より遠国を指した旅人に、船路の湖上より時には陸路の途上から、あこがれの心で眺められたのであろう。

権現山山頂



楽浪の比良山風の海吹けば
釣する海人の袖返るみゆ

(巻9-1715)

万葉集の別の歌では、山が連なる姿に比良山は連倉山とも詠まれている。

楽浪の連倉山に雲居れば
雨そ降るちふ帰り来我が音

(巻7-1170)



比良山が雲に覆われて雨が降りそうな空模様を見て、大切な夫が濡れないように妻が気遣っている。今風にいえば「早く帰ってきて、あなた」と詠んでいる。

比良山に雲がかかれば雨になるという天気暦が昔間に伝わるが、寒い季節は雪に変化する。この年は寒波続きでいつもの年より降雪量が多い。万葉集に八十の湖と歌われた琵琶湖を眼下に、楽浪(琵琶湖西南岸の古名)の銀嶺を歩きたくて比良山に出かけた。

J長湖西線堅田駅から朽木へ向かう江若バスに乗る。途中を過ぎたあたりで、バスの前を作業車が国道を除雪している。除雪車が空地に退避するまで、バスはのろのろと走った。

平バス停で下車。雪の積もった街道を少し後戻りして花折峠への旧道入口に廻る。比叡山回峰行の修行地として知られる葛川坊村明王堂を訪ねて行者が通ったという花折峠道は凍っている。

雲峰比叡山を出て比良裏の坊村に廻り、奥比良三溪大谷の行場を目指した行者が、手向ける橋を手折った時で花折峠の名が付いたという。「近江輿地誌略」には、「葛川流入の行者橋を手折つて斎戒す。この処にて折りとるゆえ花折峠とはいふなり」と記されている。

花折峠口へ抜ける峠道を捨てて、権現山と折立山への道標から登り出す。植林帯の景色を背後に置き去り、無雪期と様変わりした道を進めば、やがて来る芽吹き季節まで無言に静まる雑木の道になる。

雪は深さを増していくが、先行者のトレースがあつて歩きやすい。先に平バス停を通過した出町柳発の京都バスで入った登山者達の足跡のようである。雪に覆われたイブキザサのアラキ峠に着いて、そびえ立つ樹木と語り合うようにひと息入れる。

ミズナラの林のなかに坐り込む。若葉の頃、稜線の花を訪ねて歩いた時と林間の空気が違うのに戸惑いを覚え

た。黄葉の宴を終えた森はいま深い眠りに入り、夜半に間断なく降り続いた白い雪で、森の劇場ではファンタジーの幕が開いている。

ここで、輪カンジキを装着した。先行者のトレースが無ければどこが登山道か判断できないほどで、それでも時々道から外れて雪を踏み抜いてしまふ。樹木が梢の手を自由にしようとして、無理に寄せられた白いドレスを覗き詰めて雪塊を落とす。

登り着いた権現山（996m）の雪を冠した山頂では三組の小グループが食事をとっている。仲間のいない私は、山麓で踏み固めた雪面の食卓にガスバーナーを置き、ザックを椅子替わりにして昼飯にした。

眺めが良いはずの山頂だが、雪がちらつき乳白色の幕が垂れて視界がきかない。雲仙山へ連なる南嶺の尾根には踏跡が無く、入山してきた様子は無い。休息を済ませたグループが次々と出発し、私は慌てて道具を片付けカンジキの紐を締め直した。

小女郎ヶ池にミズバシコウが咲く時期の模様では、イカリソウ・イワカガミ・スマレが色を競っていた。今日は針葉樹の山塊を後にして、花色の代わりには白一色の尾根道にカンジキの輪跡を付けて蓬萊山へ向けて歩き出す。絶え間なく降る雪のおおりで、湖の風景は宙のかたに隠されている。

霧水が咲いた白銀の別天地、ホッケ山にたどり着いた。朝まだきの山頂に過冷却のガスが流れたのであろう。樺木群は眉のような細い霧水を蒸っている。中継山岳比良山タラスの霧水はすぐ消えてしまうのだが、天候が味方したのか、この日は長い時間を保っている。

縦走路を急ぐが誰の姿も見えない。先行者の足跡も無い。ささざるものない後線上は、雪が風に飛ばされてトレースが消え失せているのだ。小女郎峠の周りでは風が雪を巻き上げている。小女郎ヶ池に廻るが、池の伝説を記した説明板も雪に埋まり、雪原と化した池面を寒風が通り過ぎてゆく。

ホッケ山



山麓の南船路村のお孝は、池に棲む大蛇の化身である美貌の青年に心を奪われる。片目をくりぬいた形見を夫に残し、恋した青年を慈い池に投身したという。晩春から初夏にかけてミズバシコウが咲く小女郎ヶ池、氷雪に閉ざされたこの日は、一途に燃えたお孝の恋の吐息すら聞こえてこない。

氷雪の小女郎ヶ池と対面するのは四年振りになる。湖琴荘という旅館で職場の新年会をした翌朝に登って以来である。びわ湖アルプスゴンドラの無料券を旅館でサービスされたので楽々と山上に上がり、打見山からの白い山道を同僚達と隊列を組んで歩いたことがある。

夜の宴会は男だけだったので無礼講で大騒ぎをやり、飲み足りない面々は朝飯にビールをお茶代わりにした。何も知らない女性陣が朝の電車で合流し、みんなが澄ました顔で山を歩いていたのでおかしかった。

会社を定年で退職してから、ブライ

ベートでは単独で歩くことが多い。会社勤めの頃に、毎年夏休みにバスを借りて信州方面に遠出したことが懐かしい。時として昔の出来事を思い出すのも年のせいであらうか。

足が違者だった中村さんが、あの日の比良でもラッセルを引き受けてくれた。歩き足りない中村さんと私だけはゴンドラに乗らず、雪まろげになって志賀駅へ下山した。

比良八荒を過ぎるまでは琵琶湖の風が冴え、比良山が吹雪くのは自然のなりゆきである。今日は蓬萊山へ歩き志賀駅に出る計画だったが、天候が良くないので小女郎峠から小女郎谷を下り、蓬萊駅に出ることにした。

積雪で小女郎谷の下り口がわからなかったが斜面下に登山道が見えたので尻シールドで雪面を滑り下りた。周りに風が当たらないので吹雪は取まったが、谷間の吹き溜まりで足を取られる。スミーズに歩かず尻もちを度々つくが、滑れる所は尻で下り、カンジキの紐が

緩むことも気にしなかった。

小女郎峠から麓まで無雪期の近い時間を要したが、林道に出てカンジキを外すと、雪に苦しんだ山くんだりが無かったように自由になった。山上では飯に包まれていた琵琶湖だが、風雪の比良山より下りてきた者だけが知る希望の光景のように、湖面が視界に飛び込んできた。

万葉集に、「近江の飛れたる都を過ぐる時に」と題した、柿本人麻呂の長歌が載る。大和の国を捨て奈良山を越え、なぜ畿内を離れた都の大津に宮都を築かれたのだろうか、荒涼とした宮殿の廃墟に立ち、滅び去った栄光の都に思いを寄せていた。

柿本人麻呂は小野氏一族であり、近江の国小野神社の祭りに参詣をしていたという。その時につくられた歌であろうか、長歌に続く反歌に奈良の志賀の歌が詠まれている。

業浪の志賀の大わだ淀むとも
昔の人にまたも逢はめやも

(巻1-31)



琵琶湖を望む下山道

志賀の大わたの「志賀」は「一には比良といふ」と、万葉集の人麻呂歌には但し書きがついている。湖の西南岸

が湧出しているあたりの、比良山麓に湧入して水が澄んでいる景色が詠まれている。眼前に広がるほうらい湖と八屋戸浜、松ノ浦にかけての湖岸一帯を描いて、志賀の大わたと呼んだのであろう。

昔の人とは天智天皇か、大海人皇子のことか、ふたりが恋した額田王のことなのか。宮都が滅び去った今日、志賀の大わたは昔通りでも、昔の想い人に出逢う奇跡など起こり得ない。大津京の華やかな時代に思いを添らせている切ない感傷歌である。

風が吹き飛れ雪を舞い上げていた出来事が嘘のように、湖面はおだやかに風いで日差しが幽かに流れている。雪の山を覆っていた乳白色のガスは、日差しに溶かされて湖上の光の粒になり、舞っている。悪天候の旅路の後で光る湖の風景を見た時には、万葉の旅人も希望に満ちた気分になったであろう。草枕旅行く君を愛しむ
たくひてそまし志賀の湖邊を

（巻41566）
風に出て行く夫が帰わしく離れがたい思いで、夫のお伴をしてみた妻が、志賀の湖邊をたくひて「連れ立ってこまいている、美しい情景を歌にして好ましい」

この日の比良山では、謎・人連れ立つものがないひとりぼっちの山だった。唯一つ相棒になつてくれたストロクとカンジキを写面に突き立て、私は保護服のお茶を飲んで湖を見つめていた。

（平成17年1月21日事）

☆コースタイム☆

J 長岑田駅（バス45分）平バス停（1時間20分）アウキ峠（1時間）権現山（50分）ホッケ山（10分）小女郎ヶ池（1時間50分）薬師滝（1時間10分）J 長逢駅

△地形図▽

2万5千：花音・比良山

紀行

歴史の峠路を訪ねて

じゅうもん じ とうげ

十文字峠から白泰山

はくたい さん

奥秩父

山形 明

秩父は四方を山に囲まれた峠の国であり、秩父市街地の西に奥秩父がある。奥秩父は東西50kmに及ぶ山稜で、2000m以上のピーク二十数峰を擁し、両神山・三神山・三宝山・甲武信岳・笠取山・飛竜山・雲取山・和名倉山等に囲まれる奥深い地域であり、人里を結ぶ峠道が縦横に踏まれている。長野県側には三國峠（1718m）・十文字峠（2020m）、山梨県側には雁坂峠（2082m）・雁峠（1760m）・将藍峠（1780m）がある。

針ノ木峠・三伏峠と共に日本三峠の一つに数えられている雁坂峠は、中山道の熊谷から分岐して秩父大宮を通り、甲府にいたる秩父往還が越える峠だ。

新本関所跡



それにしても、麓の川又から峠までの標高差は1350mあり、相当な難所であったことがうかがえる。

秩父の歴史は古く、大和朝廷時代からの記述がみられるが、秩父往還が賑



見えてしまうのだ。これは驚きであり喜びである。また苦しい道のりを登ってきて峠に立った時、ヤレヤレと思う所でもあるのだ。そこから先は楽な下りばかりで登りがない。病状が回復する時には「峠を越した」と言う。

「峠」という字は希望の言葉で、オレは「峠に立つ」という言葉が好きだ。ところが峠も山もそのような文字は中国には無いと、中国人の友人から聞いて驚いたことがある。漢和辞典で調べてみると、峠も山も「嶺」という文字に集約されているようだ。山国である日本と大陸とは事情が違うようだ。

三国峠から手の届きそうな所に三国山が見えている。埼玉・群馬・長野の三県界の山で30分程で登れる。峠から長野県側は舗装道路となり、下り着いた所が梓山。小さな集落で食料調達を心配したが、JAの売店が開いていた。梓山から毛木平に入る道を行くと高原野菜の畑が広がる。ここは高原野菜の一大生産地でレタスが広大な傾斜地全面を緑に埋めている。甲武信岳の

わうのは江戸時代からである。秩父の山間部では養蚕が盛んで、江戸から商人が買い付けに来ており、そのための六斎市が開かれ、他の諸物産も共に流通していた。また秩父観音堂場三十四ヶ所巡りでも賑わい、さらに奥山の三峰山にも登り三峰神社に参詣したという。

これらの峠路はかつて物資の交流、人や文化の交流、あるいは軍事道として重要な役割を果たしていたのだが、鉄道が敷かれ、峠の下にトンネルが掘られ、自動車道が山を越えている現在では、登山やハイキングに利用されるぐらいで、細々と生き残っている。

秩父市街から西へ向かうと山上集落の橋本がある。ここは雁坂峠と十文字峠への分岐点で、善光寺、身延、三峰詣での人々や秩父札所信者、甲府から蕨を買い付けに来る商人で賑わった交通の要衝だ。戦国時代は甲州武田氏の支配下であり、後に徳川幕府はここに関所を設けた。かつて橋本は箱根・碓氷と並ぶ天下三関として重きをなし、

関所跡には当時の建物が残っている。橋本から西へのびる山稜が、三国山から甲武信岳に南北に繋がる主稜線にぶつかる所が十文字峠である。この旧街道は旧大瀧村橋本からこの主稜線上を通り、十文字峠を越えて長野県梓山集落にいたる信濃と武蔵をつなぐ古道なのだ。この道を行ってみたくかねがね思っていたので行ってきた。

橋本から荒川支流中津川沿いに車を走らせ、最奥の中津川集落から先、長い地道の林道で三国峠を越えて梓山へ行くのだが、なかなかの難所だ。この道は通行止めになっていることが多く、今は夜間通行止めになっている。三国峠に着くと、パッと長野県側のワイドな光景が広がる。峠を越すということは、こういうことなのだ。山間の閉ざされた人々が、山の向こうには何があるのだろうか、「山の彼方の向こうには辛い住むと人が言う」が、どのような世界なのだろうか、一度見てみたいと思っていることが、峠に立った時一瞬に

登山口になる毛木平には大きな駐車場があり、100台位は停められそうだが、すでに草地にテントを張っている者もいて、釣りから上がったオジサン2人は車の横で宴会を始めた。オレも食事の支度をし、缶ビールを飲みながら星の出を待った。

翌朝、4時起きで5時出発。林道が

五里観音





十文字小屋

トの横を通り、しばらくで千曲川源流への道と十文字峠への道が分かれる。左に入り、源流橋を渡ると木の根に観音さまが不機嫌な顔をして立っておられる。駐車場から20分の所だ。これは

五里観音の石像で橋本から一里ごとに据えられ、道標の役目を担い旅の安全を見守ってきたのだ。橋本からここまで五里ということは、これから橋本まで約20kmを歩くことになる。約2時間で十文字峠の十文字小屋に着いた。女主人が1人でポツンとテレビを見ている。生ビール850円とあるので頼むと、「今日は誰も来ないので冷やしていい」と言う。「下の駐車場に車は何台停まっていたか」と聞かれたので、「20台位だが、釣り客の車もだいぶあるようだ」と言うと、ガッカリしたように溜息をつき、「私は午後から帰る」と言い出した。休日ももかわらずこの峠を越える人は多いようだ。

小屋を出て甲武宿坊方向への後線を歩く。途中に橋本への分岐があるはずだが、いきなり急な岩根を登るようになった。おかしいなと思いつつ山ピークまで来てしまい、引き返すことにする。どんとんくだつて小屋の屋根が見える頃に分岐があり、1時間のロスタイムを出してしまつた。そこからは山腹をトラバースする水平道を行き、10分程で森のなかにこんもりと盛り上がった支尾根が見えてきた。支尾根を越えた所に入川沿いに登ってきたもう一つの古道との分岐がある。支尾根を捲いて次の鞍部に来ると四里観音があり、この観音さまも何やら不機嫌そうだ。次のピークも左に捲いて鞍部に出るとログハウス風の避難小屋があり、水場まで2分の表示がある。

10時だ。5時間で橋本へ着けるとなれば15時頃という計算ができる。余裕だ。いろいろな情報も聞かせてもらい、十文字小屋に着く頃は無人小屋になっているだろうと、毛木平からここまでの5時間は1時間のロスタイムがあったことを告げて別れた。

四里観音から四つのピークを捲いた鞍部の少し高い所に三里観音。この道はいくつもあるピークをことごとく捲いて徐々に高度を下けている。赤沢山と岩トヤのトンガリを北に捲いて急坂を登り切った平坦地が二里観音で、中津川へくだる道の分岐にお立ちになっている。ヤレヤレあと二里だ。

横には避難小屋があり鉄扉を開いて覗いてみると、土間に置かれたストローを囲むようにして板床があり、清潔に使われているようだ。小屋南側にはのぞき岩という垂直に切れ落ちた露岩があり、その上に立つと正面に甲武信岳・三宝山が大きく盛り上がり、それに連なる山々が取り囲むように見えた。今日の道程で展望のきくのは唯一ここ

だけで、見事な原生林のなかを歩く道だった。

白泰山に捲き道を外れて登ってみたら、山頂は樹林に囲まれていて狭く、山名板と三角点があるだけだ。山頂にいたとき、遠くで聞こえていた雷が雷雲を引き連れてこちらへやってきて、たちまち大粒の雨を落として上空で暴れまくった。20分程で通り過ぎていったが雨が小粒になりかけた頃、頭上で空が張り裂けるかと思うようなバリバリというものすごい音がして、目の前10分の林のなかの空中でパチンと大きな音がして火花が散った。雷のヤロー落ちる力がなくて空中ではじけやがったと思つた瞬間、ストックを放り投げたが、しばらくはそれを拾う気になれなかった。

その時思ひ出した。道中ですれ違ったあの老人の持っていたゴルフクラブはカーボンブラックのシャフトだったのだ。何という裏ワザの持ち主なのだ。ストックのように上を振り返さないという配慮もあつたのかも知れない、必

要のないとき引きずって歩くには先が丸いほうが都合がよいかも知れない、など思い当ることが多いのだ。道にかけていって老人の足元にひれ伏して「まいりました」と頭を下げたい思いだ。

白泰山を捲き終わると広いならだらの下り道で、このあたりは東京大学農学部の演習林になっている。一里観音を見るとこの旅も終わりに近い。あの老人も無事山旅を終えている頃だろう。下に林道が見える頃になると杉林のなかをジグザグにくだつて間所跡に着いた。最近買い換えたケータイドコモには歩数計が付いている。それを見ると四万歩をはるかに超えていた。

(平成20年7月6日歩く)

- ☆コースタイム◇
- 毛木平(2時間) 十文字峠(1時間10分) 最初の避難小屋(3時間40分) 白泰山(2時間40分) 橋本関所跡
- △地形図V
- 5万000金峰山・三峰

山行記録

洞ノ天井じょうてん

奥美濃

山田明男

洞ノ天井(二等三角点、1332・71)は長良川の支流板取川のさらに奥、川浦谷の支流の西ヶ洞谷の源頭にあるから付いた名で、昔は谷をつめて泊り日かかったと聞いていて、水に入れない私には絶対無理だと思っていた山だ。つまり山奥の奥の山で、非常に行きにくい山だったのである。

しかし近年、根尾川と西ヶ洞谷の奥に中部電力のダム計画が出来て工事用の道がつくられ、その道をたどれば簡単にに行けるようになったとも聞いていた。

ただ、簡単に歩いては登ったというだけで、登山としての価値は無いだろう。

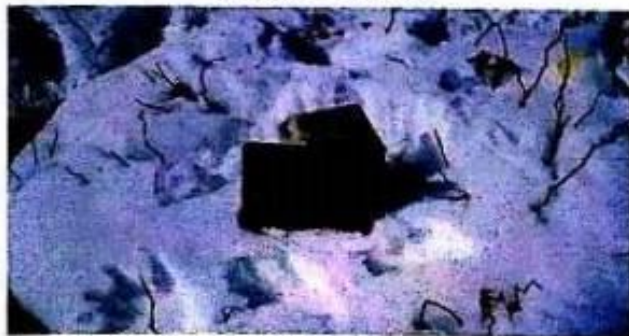
07年4月、洞ノ天井の南にある日本岳に挑戦した時はルートを間違え、西の郡界尾根から日本岳に行ったが、手前のピークからは西ヶ洞奥のコセイ洞につくられた川浦ダムがよく見えた。ここから洞ノ天井に行くには3時間はかかるだろう、やぶ漕ぎもかなり手強いだろうと思った。西から行くのは明神山經由なら行けるそうで、実際行った人も知り合いにいたが、私が考えたのは北からのルートであった。

北東の尾根を登れば川浦谷の奥の駐車場にトイレがあり、その奥には山の神が祭られた所がある。尾根下にモノレールが残されているので、これを利用して行ってみようと考えた。モノレールがあれば切り開きがあり、道が無くても上には行けるはずである。実際、鉄塔監視路がその先にあつて、その監視路にモノレールが敷設されていた。

その年11月24日、このモノレールから4人で登ってみたが地図を読み違えていて、モノレールは考えていた尾根



洞ノ天井 二等三角点



の二本南の西ヶ洞の左岸尾根を登っているのを、途中で上から地形を見て気がついた。しかし、このモノレール(監視路)が無ければ歩けないから、どこまで道があるかが山頂に立てるか

車道手前の監視路より洞ノ天井の山頂





洞ノ天井山頂近くより平家岳(中央)と岸岡山(右)

どうかの分かれ道であった。
とてもきつい600mの尾根を登っ

て少し下り、また登りにかかり2時間程経った所でモノレールは消えた。しかし道は先にも続いていて希望が持てた。やがて右手前方に中電の車道がのびてきているのが見えて、だんだん近くなってきた。1141mピーク手前から北の尾根に入ると、大きなヒノキやコウヤマキが目立ってきた。板取村の看板が「洞ノ天井」への上り口にあるが、これに「根上りの槍」と書いてある。

3時間30分かかって車道に出た。時間も12時になるので食事とした。快晴で暖かいが、道には所どころ雪があり、解けて濡れているので乾いた所に坐って食べた。

なるべく車道は歩きたくないが、3時間以上もきつい登りを来たからもうよいだろう。車道の北側は削られていて、尾根には行こうとしても行けなかった。山頂まで2.5程と見たが歩いて40分で、途中1.5程は道の北側が凍っていた。洞ノ天井下の車道には駐車場が出来ていて、車道から山頂にか

けては遊歩道の階段がつけられており、昔の深山の雰囲気は無かった。

遊歩道を5分もかからずに山頂到着。どこかの都市公園みたいで幻滅である。山頂札と三角点を写してくだりにかかるが、登りは4時間30分かかったが、3時間でくだれるだろうと思った。

帰路も三ヶ所で登りが待っていたがゆっくりと登った。下り道は気をつけながらくだる。ロープがあり手袋で持てば早くくだれるが、2人は遅かった。しかし、想定時間の16時30分には車に戻ることができた。

(平成19年11月21日歩く)

☆コースタイム☆

川浦谷車止駐車場(1時間30分) P1050m(1時間20分) p1120m(45分) 車道出合(40分) 洞ノ天井(30分) 車道分岐(2時間40分) 駐車場

△地形図▽

2万5千1平家岳・下大須

紀行

平から近畿自然歩道を経て取り付き一周して平に戻る

アゼチ谷南方尾根から小女郎ヶ池

小山 誠次

比良

本誌100号「サカ谷南方尾根から小女郎谷北方尾根」(42ページ)を歩いたとき、「サカサマ谷とサカ谷との間の尾根で、直接下からたどりうる尾根ならば、全て小女郎峠に到達しようと考えていたので、先ず一本実行に移してみたのである」と報告した。そこで、本日は二本目のルートとして、アゼチ谷南方尾根(サカサマ谷北方尾根)に取り付けてみよう、積雪の残るルートに挑んだ。

(写真1) 取付点からすぐ上の風景



平成20年3月29日の滋賀県南部の降水確率は、前日18時より30/30/20/20/10%、北部では40/40/30/30/20%で、大津の最高/最低気温は13/5℃、彦根では12/5℃だった。また、琵琶湖では北西の風がやや強いとの予報である。一方、ネット情報によれば、琵琶湖パレーの積雪は70cm、最高/最低気温は6/-1℃とのことなので、冬装束での登高となった。

7時45分出町柳発朽木学校行き京都バスの列に並ぶと、小雨がぱらついてるものの背空も覗いている。バスを待つ間に一枚上衣を脱ぎ、ゴアテックスのレインウェアを着用した。なお、今朝方の滋賀県の降水確率は昨日17時の予報と変わっていない。

46分にバスは発車したが、七割程度の乗車である。先ほどばらついていた雨は発車の頃には止んでいるが、北方は何となく暗雲が漂う。川端通りの桜は一〜五分咲きで、個体差だけでなく個体差もあるようだ。必ずしも日照時間だけの問題ではないように思う。高

アゼチ谷南方尾根・小女郎ヶ池付近図

2万5千縮 花巻・北奥山



野川ベリベリのセイヨウカラシナも今が食べ頃だ。
大原大原での外気温は5℃。再び小雨がばらついてきた。途中トンネルでは3℃。このあたりから眺める山々の残雪からは、琵琶湖パレーの積雪が70cmほどととても信じられない。
8時34分、平バス停着。筆者を含めて3人が降車し、筆者はそのまま北方

に向けて歩き出したが、夫婦連れは筆者の進む方向を訝しく思っていたようだ。北方に400m歩いて近畿自然歩道の道標を見て右に折れ、6分後に尾根取付点に到着した。ここで標高470m。
すぐ横には椎茸の栽培小屋があり、また同じく川魚料理店の看板も立っている。アスファルト路面は濡れている

が、現在雨は止んでいる。もろもろの準備を整えて、9時2分、杉の植林帯のなかを108度方向に第一歩を踏み出す(写真1)。
登路はすぐに植林帯を抜けて冬枯れの自然林に入るが、登高開始7分後に仕事の電話がかかってきた。悲しいかな、24時間携帯電話を手放せないのが筆者の立場である。11分間で連絡や指示を終えて、再び周囲の状況把握に努める。

立ち止まっていた場所はまた緩斜面だったが、間もなく地形図上の標高550mから700mの急斜面に差しかかる。141度方向に直登またはジグザグ登高で進むが、堆積した枯葉が水を帯びて滑りやすい。特に濡れた細木は、用心しても何回か滑ってしまふ。ストックを少し短くして、樹幹を把持することも多い。
9時48分、やっと急斜面を登り終えた。標高710m。ここはちよつと展望がいいのだが、見渡す限り周囲は落葉樹を通しての景色しか得られなくあ

まりいい写真は撮れない。天気予報通りの北西の風が冷たく感じられ、レインウェアは防寒用も兼ねている。このあたりからは残雪が既模様を呈してくる。ここで、いったんザックカバーを外す。

再出発して7分後、標高730mで登路上には大きな岩が横たわっている。そのすぐ横にはダンコウバイの黄色の花が不毛の山地に咲き始めている。山に入ってから、本日初めて目にする可憐な花である。一方、この頃よりまた小雨が……、と思ったら小粒子状の雪が降ってきた。

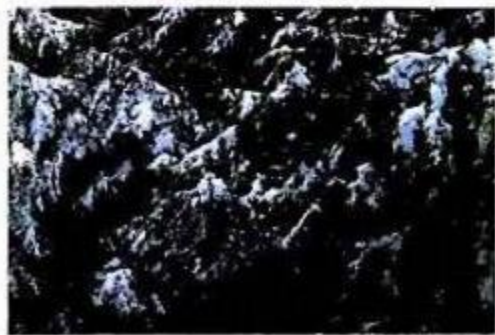
10時29分、標高880mに達した。ここから先は、しばらく丘状の傾斜となっており、ここで9分間休憩する。何と、右前方下方からは明確な浪音が聞こえてくる。サカサマ谷支流の源頭、近くの小滝なのであろうか。見れば、目前の木には「北船路共有林」との札がぶら下げてあり、浪声の方向にはマーンキングがある。ここは沢登りコースのゴールかもしれない。

10時38分、さらに上方を目指して出発する。ここからは残雪で完全に覆われ、いかにも雪を踏み締める感触で歩く。10時43分、標高890mで樹間から磁北の西35度方向下方に大きな堰堤が視認できた。これは、京都バスの新道尾谷橋バス停で下車して皆子山に向かうとき、旧道右手にそびえる堰堤である。一度、あの堰堤の上はどうなっているか見てみたいと思っていたので、思いもかけず一つの成果を得た。

5分後にはこの尾根の南側が少し展開されてきた。木立の間隔からは、ホッケ山から権現山にかけての稜線が望めない冬枯れの木々が立ち並び、山腹はまだ積雪に覆われたままである。といても、現在も北西の風に乗って小粒子状の雪が吹き付けているのだが……。

このあたりからはだいぶ締まった雪が登路上を覆い、本日最後の急斜面に向かう。すると、明白な濃状の山道が上方へと続いているのに気づいた。

(写真2) 白と緑の対比が見事



右手前方を見れば、楡木立に降雪し、日光が鮮やかな緑色の葉と白い着雪に差し込んで輝き、見事なコントラストを呈している。急斜面上がったが、角度を変えて何枚かカメラに収めた(写真2)。
11時11分、急斜面をほとんど登り切ると、いったん降雪も止み、先程よりも眺望が一層すばらしくなった。比較山・権現山・琵琶湖が一望できる。登



(写真3) 蓬萊山と小女郎ヶ池

路上は固く締まった積雪で、新雪と異なりさほど滑らなくて歩きやすいのだが、一度スボッと完全に大跳まではまっつてしまった。足を引き抜いた後を観察すると、地面の上に空間がある。ちょうど、雪渓の下のトンネルと同じなのだろう。琵琶湖バレーの積雪70センチ

十分頷ける。ここで標高1040メートル

そこから5分間歩くと、標高1070メートルで、先の「サカ谷南方尾根から小女郎谷北方尾根」のときの登路と合流した。合流地点は見覚えのあるマージキングで判明した。さすがに今日はササやぶの背丈や密度を心配する必要はないようだ。また、再び雪が降ってきたと思ったら、今度は曇りだった。雲の切れ間から青天が覗いている反面、昔子山上空には暗雲が湧き立っている。北方蓬萊山頂の独特のドーム形人工構造物は、目下のところよくわかる。

前回と同じルートをたどって東方に向かい、途中で小女郎ヶ池を確認する場所から池まで下りて行く(写真3)。池はいまだに水がほぼ一面に張っている。ここで昼食をとりたいが糞の下では食べる気もしないので、わずかの休憩後に小女郎峠に向かう。ここからは輪カンジキの跡が付いているが、途中で大きく南方に外れているので、筆者は本来のルートをたどって小女郎峠に

到着した。11時38分である。

糞が止んでくれたらと願いつつ休憩している、ホッケ山方面から夫婦連れがやって来た。筆者はあまり記憶になかったが、平バス停で降車した人達で話しかけられてやっと気づいた。やはり、筆者が北方に向けて歩き出したのを訝しがっていたようなので、ここまでのルートの概略を話した。彼らはここで昼食にするらしい。

小女郎谷への下山路すぐは積雪のためルートが全く不明で、ギリギリの所まで積雪を踏み締めて下の様子を窺う。本日の予定は今から権現山を目指すことにしているので、11時50分に出発した。どこかで糞が止んだときに昼食としたい。

12時11分、ホッケ山着。周囲を見回しているうちに空模様が一層荒れてきて、蓬萊山が視界から消えた。吹雪模様になってきている。といっても、気温も上昇している。ルート上の積雪も泥雪になったままで靴もだいぶ汚れている。

吹雪はごく短時間だったが、糞はまだ統している。ホッケ山から南はやはり残雪が少ないかなあと思いながら、時々積雪上のトレースを追って、12時46分、権現山に到着した。糞のなかで昼食をとるのも嫌だなあとしばし思案している、ラッキーマンにも糞が止んで暗れ間が広がってきた。そこで、天の恵みのもと、マツトを敷いての待望の昼食開始となった。

昼食の間に、つい先ほどすれ違った人達が戻って来て、栗原の方に下山して行った。ここからの下山路には全く残雪が無い。食後のコーヒを飲み終えて、いよいよ本日の平一周コースの最後を締め括るべく、13時29分に出発した。しかし、足を向けたのはアラキ峠へではなく、ズコノパンへである。

ズコノパンには13時51分到着した。北西の風は山体で完全に防壁している。ので、いささか暑い。レインウェアを脱いで飲水休憩をとっていると、栗原より白い上衣を着た1人の登山者が視界に入ってきた。今頃登って来て、

イモック山遊行くらぶ

教養旅行、季節を気にせず、登山・登山・登山を助けます。お気軽に御要問下さい。

詳細はお問い合わせ下さい。



IMOCK

〒160-0001 東京都文京区湯島1-1-1 湯島ビル2F

TEL (078) 621-5851

FAX (078) 621-3528

営業時間/10:00-20:00 毎日朝日7時

人気商品紹介

◆ウォーキングライト◆



オリジナルザック 登山用品専門店

神戸ザック

http://www.h2.dion.ne.jp/~kobercac

クライミングからハイキングまで使えるシンプルなデザイン。トップとフロントに大型のポケット、両サイドには、ストック等の収納に便利なワンドポケットを装備。軽量化と機能性を高めた日帰りから一泊用のノンフレームのザックです。

☆26/☆

- ・カラー フル×ネイビー・レッド×ネイビー・フリン×ネイビー・オレンジ×ネイビー
- ・重量 60g
- ・素材 ナイロンU・リップ
- ・価格 ¥12,500

今晩は打見山山頂でも宿泊するのかなど思ったが、一向に近づいて来ない。不審に思っただけ少し歩み寄ってみたが、何と誰もない。時々山では不思議なことがあるものだ。夜だったら、戦慄したかもしれない。

さて、14時ちょうど、実はここからアラキ峠を直接目指す予定だ。ズコノパンとアラキ峠とは標高差20メートルは山腹をトラバースすることになっている。このルートは初めての経験である。途中、途中方面への眺望所を過ぎてしばらく進むと、谷の源頭を迂回する箇所が山道が完全に崩壊している。はなはだ不安定なステップでいったん谷に下り、また登り返した(写真4)。なるほど、このような箇所があるため、もう利用されなくなっているのだなあと納得した。

27分後、アラキ峠に到着した。北西の風の通り道になっただけで、非常に風が強い。レインウェアを脱いでしばらく風に身を任せる。気持ちがいい。14時36分、寒く感じる前に再着

冬春号 パンフレット完成

冬から春の山旅を満載
暖かい南の島から北海道まで、豊富なツアー設定。初心者の方からの雪山ツアーも開催。海外ツアーもあります。



お電話
おはがき
FAX・HP
にて!

**送料・本体無料
ご請求ください!**

弊社カタログ
ラインナップ



総合カタログ 山歩き教室

見ごたえたっぷり国内・海外・自然観察の旅500コース以上を掲載した総合カタログ。これから登山やハイキングを始める方、初心者の方のためのための、山歩き教室カタログ。それ以外にも、世界遺産やパードウォッチングのツアーもあります！お気軽にお問い合わせください。

大好きな山の中で働いてみませんか！
社員・添乗員・ガイドを募集中

ご興味のある方は下記までご連絡ください。

アミューストラベル株式会社 国土交通大臣登録旅行業第1356号
日本旅行業協会正会員 ポンテ保証会員
〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階
ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>
E-mail amuse@amuse-travel.co.jp
06-6456-3366 FAX 06-6456-3377



(写真4) 崩壊した谷の源頭(右上から左下へくだる)

用して出発することとした。
ここからの下山路を歩いてみると、もうすぐ終点だという思いは、山中の名残を惜しむ気持ちに繋がり、森の香にも愛惜の情が尽きない。旧道まで下山して来ると、どこからか鶯の啼き声も聞こえてきた。
15時12分、平バス停着。堅田行き江若バス乗車までまだ十分に時間がある

の登山装備を解き、熱いコーヒーを飲んだ。それでもまだ時間が残るので、100メートル北にある土産物店「袖の道」に入り、食パンを買い求めると、店主がヨモギとクマザサのハーブティーをご馳走してくれた。15時59分、車中の人となった。
本日は残雪の時期にもかかわらず、二本目の小女郎ヶ池へのルートをたどった。頂上付近ではまだまだ冬景色が見られ、小宮まで降ってきたが、今年初めてのバリエーションルートが無事に達成した。

最後に、本日の山行詩情を拙くも七言絶句に託した。

拙作

季春平北欲如冥
街始桜花山雪明
巖頂弥深冬不住
朔風吹襲里閑鶯

(意)

三月、平の北では英のような天候になろうとしている。街ではやっと桜が

花さかけたが、山ではまだ雪が目立つ。頂上では一層雪深い。冬は何時までも住まっていない。北風は盛んに雲を吹き流すが、里ではもう鶯の声を聞くほどだ。

(平成20年3月29日歩く)

☆コースタイム☆
平バス停(4分) 近畿自然歩道道標(6分) 取付点(35分) 標高710m(7分) 大岩(22分) 標高880mの北船路共有林の札(5分) 堰堤遊歩地(28分) 眺望所(5分) サカ谷南方尾根との合流点(6分) 小女郎ヶ池(4分) 小女郎ヶ池(21分) ホッケ山(26分) 権現山(22分) スコノパン(27分) アラキ峠(36分) 平バス停
△地形図・地図▽
2万5千:花脊・比良山
昭文社『比良山系』

新ハイ関西104号
標高△△04mの山

茶白山 (2604m) 南アルプス
茅ヶ岳 (1704m) 山梨
松尾寺山 (504m) 鈴鹿山脈

茶白山

前号で書いた上河内岳では、霧のため期待していた南アルプス主峰群のダイナミックな展望は得られなかった。翌日はよく晴れて茶臼岳の山頂からは二枚の絵を描いた。

聖岳が奥聖岳への頂稜線を大きく広げて、実に堂々とそびえていた。まずその大きな聖岳と右の上河内岳、次に西のピークに移って聖岳と左に兜岳を描いた。茶臼岳そのものも、仁田池から手前

に池を配して突った形で見上げる茶臼岳を描いた。コンパクトながら魅力的な姿だった。

私は聖平から光岳への縦走中に山頂を踏んだが、煙囪大吊橋からの登山道があるので、茶臼小屋を利用して茶臼岳登山だけでも、南アルプスの魅力が十分満喫できると思う。

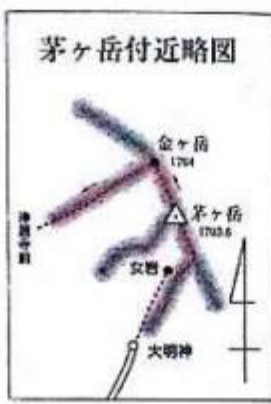
- △コースタイム▽
- 茶臼小屋 (30分) 茶臼岳 (5時間) 光小室
- △地図▽昭文社「塩見・赤石・聖岳」

茅ヶ岳

山頂で単独のテント泊という山行スタイルの楽しさを知るきっかけとなった山である。

年末、大明神登山口から歩き始める。完璧な快晴となり、シャツ一枚でも寒くない陽気だ。山頂に雪は無いかもしれないと思ひ、念のため女岩で一泊分の水を汲む。遠端に重くなった。八ヶ岳用を持ってきたビッケル・アイゼンもあり、暑くなって脱いだ嵩張る服までも詰め込んだ帆布製のキスリング姿は、どう見てもボッカ訓練のような有様だ。登り始めの時刻が遅かったから下山の日帰り軽装登山者からの視線が少し気になる。しかし登るにつれ斜面が急になり、下山者達は足元に注意が注がれ、私は気が楽になった。

周りの風景は一変し、ササ原の急斜面のなかに太い幹のブナの古木たちが、長年の風雪に耐えた美しい姿で次から次へと現れ、とても情趣豊かな登山道となった。



茅ヶ岳山頂の朝

山頂は丸い岩と雪や霜が解けてぬかるんだ泥土の台地だった。テントを張るには少し勇気がいったが、その台地の隅っこに蒔蒔の盆地がよく見渡せる所にテントを張った。甲斐駒ヶ岳が深い藍色の美しい姿でキラリと端座している。左奥には優美なスカイラインの富士山が裾を大きく広げ、その下に甲府の明かりが少しずつ増え始めた。そんな郷愁あふれる情景の背後の北側の昏い谷間から鉄砲の乾いた音が数発響き、しばらく後に車で遠ざかっていく痛々しい獣の呻きが長い長い間聞こえ、耳の奥底からその響きが取れないのがつらかった。

翌朝の日の出は荘厳だった。まず三日月がぼっかりと浮かんでいるのに気がついた。上空は青嵐を流したような夜空だが、三日月の右下に地平線近くのわずかな紅色の帯を分断した黒い三角形の富士山があった。徐々に赤味が増して御来光を迎えるまでのひとときは、これぞ絶景といえる美しさだった。変化を求めて北のピークの金ヶ岳を

經由して西南尾根をくだったが、バス停まではかなり遠かった。

- △コースタイム▽
- 大明神登山口 (2時間30分) 茅ヶ岳 (30分) 金ヶ岳 (2時間30分) 浄磨寺前バス停
- △地形図▽2万5千 茅ヶ岳・若神子

松尾寺山

雪の霊仙山を眺めるのに良い山だ。JR 醒ヶ井駅から西へ名神高速道路の下の中部自然歩道を歩き、西坂地蔵堂から地蔵峠へ上がった。峠から山頂まではわずかで、反対側の斜面をくだった。林道に下り立つと、醒ヶ井養鱒場までの林道からは巨大な霊仙山の山塊が大きく横に広がって見渡せた。

- △コースタイム▽
- JR 醒ヶ井駅 (2時間30分) 松尾寺山 (1時間30分) 醒ヶ井養鱒場バス停
- △地形図▽2万5千 彦根東部

雪庇の形状を
読み切れるか

西尾 寿一

平成12年3月5日に北アルプスの大日岳山頂付近で起きた雪庇崩落事故は多くの教訓を我々にもたらした。それは国の直轄する「文部科学省登山研修所」における「大雪山岳部リーダー冬山研修会」が大日岳で実行された際に雪庇が大規模に崩落し、11名が巻き込まれ、2名の研修生が死亡したものである。

この事故によって当時の

講師2名に対し刑事・民事の訴訟が起り裁判となった。

死亡した大学生の遺族にとっては責任の所在について明らかにされなければ納得できないのは当然であった。しかし平成13年の専門家の調査報告によれば「前期の小雷・弱風期間にしろざらめの弱層が形成され、後期の豪雪・強風期間に巨大な雪庇が形成された」(北アルプス大日岳遭難事故調査報告書)とする特異な事象により、雪庇の形成及び崩落を予見不可であったため、経験豊かな登山家で

も過去に得られた知識経験を越えていたと判断され、責任の所在を判断するに至らなかった。

国と講師(当時のリーダー2名)と遺族の三者がそれぞれの立場から対立する構図ができたが、平成18年4月26日、富山地裁は国に遺族に対し一億六千七百万円の支払いを命じたものの国は不服として控訴した。しかし同年7月26日和解が成立し、一応の落着をみたのである。

講師の1人はJAC(日本山岳会)京都支部の1員でもあったため支部一丸となって支援活動が行なわれたのは記憶に新しいし、経過についての報告書も出版(北アルプス大日岳の事故と

事件)齊藤惇生編、ナカニシヤ出版(注1)されている。

遺族の立場もわからぬわけではないが、学生の冬山登山技術向上の目的のために参加している講師の立場が極めて弱いことに改めて気づかされた。この件についてJAC会長の重廣氏は「講師の地位保全を求め国の主催する研修会で発生した事故で講師に「引率責任」が発生するようでは講師が居なくなってしまう」と訴えている。

この事件は登山者、特に組織に所属する者にとって多大な教訓を残したと思う。現場の技術向上と共に登山の社会的存在としての位置付けが必要であることが明らかになったのであった。

事件の全貌については他の報告書や研究書があるので重複を避けるが、ここでは雪庇が登山者によって正確に計量され得るか、の問題について考えてみたい。この問題は事故に直接かかわっていることなのに登山者の予見困難な部分のあることが知られたにすぎず、どう対応したらよいか不明のまま残されているかにもえる。

雪庇の大きさは過去の報告書や研究書の類は極めてあいまいである。大日岳の場合25%程度とされるが事故当時をふくめて正確なものではない。おそらく裁判においても、この前提が無状態では正しい判断が導かれることは困難であったと思う。

雪庇の計量は部分としては可能である。実在する雪庇を切り取って計測することはできて、それで雪庇の全体を示すことは不可であることは冬山経験者なら知っているはずだ。雪庇の正しい大きさは標の状態の山の稜線の分水線から雪庇の先端までの長さとする、実際の冬山では雪庇は小さく見えてしまう。つまり雪庇は風上から稜線に降り積もる雪を風下へ運び一時的に因形化する作業によって形成されるからで、最初に形成された古い雪庇は次々と稜線の風下側へ自重により移動し蓄積される。その雪庇の残骸が支えとなつて新しい雪庇の土台となり、気温低下とともに強固となつていくなかで新しく次々

と風下側に長大な雪庇が形成されていくのである。従つて目測で数センチしかない雪庇でも実際にはその倍から三倍もあって、登山者は標の山の分水線をはるかに超えて雪庇の上を歩いている場合が多い。

小生の経験でも足元から雪が割れて恐ろしい思いをしたことが何度かある。特に冬の季節風が直接吹き付ける脊梁山脈などは厳しいものがあるが、内陸の山では少ない。冬山の特に雪に対する訓練なら前者が必修である。

雪庇は地形によって左右される。特異な形状をもつ尾根や罫面の稜線では雪はキノコ状に発達し登攀者を悩ませる。雪は気温と密接

に関係しているから危険を感じたら避けるか温度の低下する時間帯を利用するのがベストで、場合によっては夜間の登攀もあり得るので、登攀者側の生活習慣など度外視してかからねばならない。

注1では事故の年の雪庇の断面を公表している。雪庇全体が42%もあり先端は刃物状ではなく、ビル壁状の垂直に近く、その15%が崩落したのであった。

それにしても雪庇は複雑で美しくも奇怪な存在である。「美しいものには刺がある」の例えの通り、十分な経験を積んでも万全の二文字にはいたらないのである。

山の情報

ちくぶ
竹生島と伊崎半島

琵琶湖の川鷺被害その後

金谷 昭

本誌85号で琵琶湖の川鷺被害についてお伝えしましたが、その後の状況を参考までに報告する。

林野庁・滋賀県、そしてボランティアの努力により川鷺の棲息数は一時減少の傾向を示したが、平成20年5月の滋賀県の調査では再び増加に転じている。

二大集団繁殖地（コロニー）である竹生島と伊崎半島を見ると、竹生島では約三万羽、営巣約一万巢（平成19年同期より約六千五百羽増加、営巣数約千四百巢増加）と増加に転じ、一方の伊崎半島では約七千羽、営巣数約四千巢

（同約三千六百羽減少、営巣数約五百巢減少）で減少しているが、琵琶湖全体での棲息数は約三万七千羽となり前年同期より約三千羽の増加を確認している。

川鷺による被害は、森林の枯損・琵琶湖の漁業被害、さらに竹生島では糞害により、真言宗の名刹西国三十番札所の宝蔵寺の観音堂や弁天堂の檜皮葺屋根の腐蝕雨漏が顕著となっている。

現在川鷺駆除のため、次の方法が試行錯誤され一部実施されているが、なかなか成果が上がっていないのが実情である。

- 1 銃器駆除。
- 2 遠隔操作の無人小型ヘリコプターにより営巣内の雛卵表面に石鹼水をかけて雛卵の呼吸を停止させ孵化を防ぐ。実験では成果があったが実際の効果の程は不明。
- 3 コロニーづくりの4～5月の夜間にライトを照らし、鷺に脅しを与えて追っ払う。

川鷺被害林を伐採して植生復旧した作業地



- 4 コロニーの営巣木の根元を木製あるいはプラスチック製木槌（掛け矢）で強打し、ストレスを与えて追っ払う。天敵の鳥にその存在を知らせ、雛卵を奪取させて駆逐させる。
- 5 営巣を長い竿で木から落とす（ただ



「川鷺の積みつかない森づくり」の看板

し高木では無理。

6 幅広いビニールテープを営巣木に掛け、川鷺の嫌う風によるテープ音を発生させて寄り付かなくする。実験では効果があったが、テープの取り付けが高木では困難。

7 最大の天敵である人間の通行を促進するため、コロニー周辺に遊歩道を設ける。伊崎半島で実施開始されて成果が上がりがつある。

これ等のうち最も効果が得られたのは1の銃器駆除であった。毎年3月から7月にかけての川鷺の営巣と繁殖時期に合わせて実施してきたが、滋賀県の財政難と同19年7月に琵琶湖学習船「うみのこ」の運航中に銃器により射

殺された雛が学習船に落下し、船上の学童に当たってショックを与えるトラブルが発生した。以降中止されたことが川鷺の最近の増加原因となっており、同20年度も銃器駆除は予算化されず、再開されていない。

伊崎半島では銃器駆除以外、関係者による被害枯木の伐採と植生復旧や遊歩道設置の努力によってやや減少したのにもかかわらず、竹生島は湖中の孤島だけに銃器駆除以外の人力駆除方法がとりにくい。

琵琶湖周辺の宅地開発によって、琵琶湖以外の棲息地である多くの溜池が埋め立てられ、営巣を銃器駆除中止となった竹生島に移動した事情等により、

新刊

京都北山から——自然・文化・人——

京都府山岳連盟編著

A5判

一八七頁

一八九〇円

「京都一風トレイル」を全コース詳しく案内、箱根山から東山、北山、西山を古寺まで、歩いて訪ねる京都の魅力を詳しく掲載。コースの付近の見所にも詳細にふれる。また京都の名人の紹介や京都府山岳連盟の歩みも掲載。

ゴローのヒマラヤ回想録

岩坪五郎著 二四四頁 四六判 二二〇〇円

今西錦司、桑原武夫、梅村忠夫らの先輩の薫陶で致々のヒマラヤ行を体験して、気がつけば京都学（色川のリーダーにもなった岩坪が、先輩と仲間たちのこと、大学や学問のあり方、そして山行の貴重な体験などを軽妙な筆致で回顧する。

★表示の価格は5%税込です

ナカニシヤ出版

http://www.nakanishya.co.jp/

京都市左京区一乗寺木ノ本町15

tel 075-723-0111 〒606-8161



琵琶湖全体としては増加の傾向にある。
 同19年3月、滋賀県と林野庁滋賀管理署は、川鶴を適正規模（四千羽）まで減らす目標で「川鶴総合対策計画」を策定している。特に被害の大きい竹生島では「川鶴被害林の植生復旧」プ

プロジェクトを、伊崎半島では川鶴の最大の天敵である人間を出入りしやすくする「川鶴と人との共生の森」プロジェクトを実施している。
 なお最近、東山三十六峰を始め京都盆地を取り巻く山々に発生している「カシノナガキクイムシ」による、ナラ類の広葉樹の枯損が伊崎半島でも発生し、川鶴の糞害に耐えたこれらナラ類を守るといった新たな問題も生じている。

半島先端の中腹に川鶴被害と共に枯木林が発生し、湖上からも濃緑の森林のなかに褐色を呈しているその異様さは容易に目視できる。現在枯木を伐採し、植生復旧の作業中である。
 ・伊崎半島の「川鶴と人の共生の森」プロジェクトについて

琵琶湖で二番目の川鶴コロニーである同半島は琵琶湖国定公園の景勝地、半島先端には比叡山延暦寺の僧侶の修行の一つである「棒飛び」で有名な伊崎寺がある。半島全体は伊崎国有林となっており、人家無く川鶴被害による

枯林と裸地発生、それに伴う汚濁水の流出、また半島の沖にある沖島住民の生業である漁業の被害も拡大しつつある。
 そこで川鶴も自然生態系の一員として共生していくことも大切で、同半島を下記のように三つに区分した森で、再生プロジェクトを発足させている。
 1 川鶴が棲息する森（限定的な区域に誘導し個体数を減少させる）
 2 川鶴被害植生回復の森
 3 川鶴被害から守る森

川鶴被害から緑の森に戻す必要のため、枯れた樹を伐採した跡に川鶴に強い樹木、主として広葉樹を植林する。また川鶴は人の近づくの嫌いな果をつくらぬとの調査報告から、半島の森のなかにハイキングできる遊歩道、展望ポイント、案内板の設置が進められている。

本誌読者及び会員の方々にも伊崎半島をハイキングされることを切望するものである（*本誌76ページ参照）。

紀行

オソマツ山行

冬の冷川谷遊行

長谷川 雅俊

鈴鹿

正月の3日、久しぶりの山行である。昨年は、5月までの前半は十八回も鈴鹿へ通うことができたのだが、後半は親の介護や仕事の関係で四回しか行けなかった。今年はそれに加えて、息子の結婚や結婚を控えている。奥方に「山へ行ってもいいのよ、親や息子を放かっていって……」と、言われては、気の弱いわたしとしては「それじゃあ、行ってくるけんね」とは、なかなか申せないのである。

2日、夜21時6分に自宅を出発。藤原簡易パーキングに22時24分に到着。三重県に入ると道路が濡れているので、コンビニでパンを買った時に聞いてみると、ミズレが降っていたらしい。

冷川谷の熊段状の滝



昨年引き続き今年も暖冬のように、ウソのように暖かい。タイヤチエーンを着けて山へ向かうなどということもなくなりました。
 藤原簡易パーキングでグッズリと眠り、朝5時起床。冷川谷へ向かう。山口浄水場横に車を停めて支度を済ませ、まだ暗闇のなか、ドアを開けて降り立

つと、炭焼きの匂いが漂っている。昔からの炭焼小屋と2、3年前に新しく出来た炭焼小屋があるので、そこから漂ってくるのだろう。

昨夜はバラバラとした空模様であったが、今は星空に三日月が美しい。

6時3分、高度計を230に、コンパスを270度にセットして出発する。左手に木和田尾への登山口を見ながら聞き馴染んだ瀬音のなかに冷川谷右岸沿いに歩き始める。6時14分、丸尾尾根への登山口に差しかかる頃、空が白み始め、瀬音が小さくなった。6時20分、右岸から左岸へ橋を渡る頃、再び瀬音が聞こえ始める。

6時25分、高度285ににて「白瀬峠 冷川岳登山口」の標識のある場所に到着。左手から合流する支谷からこちらの左岸まで浄水場への太い導水管が渡してある。この導水管の上には、人が歩けるように梯子と手すりが付いているのだが、昔はこの手すりまで雪に埋もれていたものだ。今ではそういう光景は見られなくなった。

この支谷は小生に縁があるというが、木和田尾を下山すると、なぜか迷ってこの谷に入ってしまうのである。元来、登山道の標識やテープを見て歩く習慣がないせいもあるのだが、きちんと登山道を行こうと思っても知らないうちに登山道を外れてしまつて、「やっば、この谷か……」ということになつてしまつたのである。

林道はここまでで、冷川谷に入つて進む。しばらくして右岸に渡るが、すぐに左岸へ渡り返す。

6時40分、315ににて階段状の滝が現れる。右手から支谷が合流しており、奥の方に白糸の滝が見える。本流・支谷を合わせて白糸の滝がこの冷川谷の中で一番落差があり、20に程の清楚な感じの小生の好きな滝である。

今回は、白糸の滝へは寄らずに本流をたどることにする。以前、来た時には、滝を右岸から高捲いたり、左岸から高捲いたりへつたりしたのだが、今日は左岸通しで登つて行く。

7時36分、347ににおいて左岸大

白糸の滝



岩の間をすり抜けると、立派な懸崖が現れ、その背後に滝を見る事ができる。ここでは滝の前景に懸崖を入れて写真を撮るのだが、今まで気に入つた写真を撮れたためしがない(まあ、小生の腕前はこんなものです)。

7時36分、この滝の左岸を高捲き、379ににて落差15に程の大滝をやはり左岸から高捲く。このあたりは左岸急斜面のトラバースになるのだが、結構高い所を進むので、転・滑落には細心の注意を払わなくてはならない。特に、今の時期のように、積雪が中途半端で泥雪の状態ではアイゼンを着けるわけにもいかず、滑りやすいので、藪木につかまつて(もし落ちたとしても下方

にある木に引っかかるように注意を払つて)進まなければならぬ。それができない所では、ピッケルのピックヤブレードを確実に雪面に叩き込んで登ることになる。

7時48分、高度384ににてようよう核心部を抜け、広河原のような植林帯に入ると、伏流となる。地形図上で391に標高のある地点だと思つた。こういう広い所では行く手を間違えやすいので、注意する必要がある。コンパスでチェックして228度の方向へ行く。

8時3分、高度408ににて谷が細くなり、再びせせらぎが現れる。このあたり一帯は植林帯になつており、入山者(ここで人と出会ったことはない)が少ない割には、結構手入れされているようである。8時12分、高度427ににて植林帯を抜けたのだが、443にからは、沢心から左は植林帯となり、左岸は霧圍気の良い二次林となる。

8時22分、高度459ににおいて谷は二俣となる。

左は212度、右は280度で、地形図では225度へ進まなくてはならない。とりあえず、最初の休憩をとり、チョコパンを一つ食べる。手も冷たくなってきたので、アングラーとアウトターにミドルレイヤーのグローブもつけ加えて歩き出す。ここからが小生の本領発揮……まさにオタンチンの極みである。

なぜか、左へ行かねばならぬのに、右俣(280度)へ進む。8時59分、492ににて立派な石垣を仰ぎ見る。いつもの冷川谷本流の見慣れた石垣かと思つたのだが、規模がかなり小さいし、谷の雰囲気もせこましい。「……」と思つたのだが、上まで登つてピックリ！石垣の上に石組みの炭焼き窯と倒壊した小屋がある。そんなバカな……！確かに冷川谷の石垣の上はたいらで何も無かつたはずなのに……ここで初めて己のアホさ加減を知る……正月早々「わたしバカよねえ、おバカさんよねえ」と、口ずさむ……クズン。今さら戻るのもしんどいので、その





丸尾尾根の雪庄

まま登り続けることにする。まあ、このふんならたどり着く所は丸尾尾根のどこかに通いぬいだから……。9時7分、高度506mでまたもや二俣(左244度、右324度)となる。ここは右俣へ……。もうどつちでもいいや……。と、登り続ける。谷が細く狭くなり、斜度を増す。

9時21分、高度539mで目の前に切り立った岩壁が迫ってくるようになった。ピッケルで体を確実に確保して攀じ登ったのだが、そのまま谷の直登を続けることは断念し、左側の尾根を登ることにする。コンパスで確認すると、286度へ向かっているし、地形図でもなだらかな斜面なので安心する。10時32分、高度783mにて雪に埋まった丸尾のピークにたどり着いた。尾根を見渡しても人の入った形跡は全くなかった。いつ見てもすばらしいどつしりとした新ヶ岳の山体にコンパスを合わせると、227度……。地形図と照合してみても間違いない。ここは丸尾尾根の770mピークであると確信した。

さてこれからどうするか？ 荷ヶ岳まで行きたいのはやまやまでである。しかし眼前にそびえる雄大な山容を眺めただけで軟弱なわたくしは満足してしまつたのである。それに久しぶりの山行ということもあって、そろそろ膝が痛くなりはいないかと不安がよぎる。

あつさりと思断を決定するのに時間は要しなかつた。寒山へ向かうか、673mピークから冷川谷へ下りるか決めかねたが、とりあえず下山する。

尾根東側には雪庇が張り出して、この尾根に当たる風の強さがうかがわれる。東側斜面に下りて、下から雪庇の写真を撮ったが、尾根志に戻るのに雪が深く大変な労力を必要とした。もつというんな角度から降りたかつたのだが諦める。それに攀が何となく痛みだしてきたのも感じられる。くだる途中でも登山者はおるか、気師の入った痕跡は全く無かつた。もつとも最近の気師はナマケラな素人気師が増えてきて、山中を自在に歩き廻る者は少なくなつてきているし、標物を確認せず攀つてくることもあるから、気をつけねば……。

11時10分、高度計679mにて寒山分岐に到着。高度計を地形図どおりに673mに修正する。しかし、寒山の方からしきりに鉄砲の音が聞こえてくるようになったので、このまま冷川谷

へ下りることにする。コンパスを104度に合わせてまっすぐに下りて行く。11時30分、602mで尾根が無くなり、険しい広い急斜面となる。おそろおそろ下りてみるが、木がまばらにしか生えておらず一面銀世界である。立ち止まって周りを見渡す。遠くの木におサルさんがたくさんいて、小生に気づいて逃げ出した。

昔、夜明けの薄暗い時に登っていて、サルに大きな石を二個も落とされ、体の横をブーンと音を立てて落ちていった時には心臓が飛び出るかと思つた。当たれば即死という感じだったので、またそんなことをされてはかなわないので、サルが見えなくなるまで待つ。しばらくして下の方の様子を窺うと、少しガスつてはいたが植林帯があるようである。あそこまで逃げ込めば雪崩が起きては大丈夫であろう。いまさら登り返す気力もないし……。トレースの全く無い雪の斜面をまっすぐに走ってくだる。またかまたかと気がせきがなかなかたどり着けない。ようやくたどり

り着いて木の陰に逃げ込んだ時には、正直、ホッとした。「これで家に帰れる！……単独行ではどうしてもストイックになつてしまつたが、これが実感である。」

11時41分、511mにて植林帯が終わり、立派な雪跡があつた。さらさらになり、487mから再び植林帯が始まつたが、高度が低く温度が高いのか、木から雨のように雪解け水が降り注ぐ。

しばらくして、11時53分、398mにおいて谷に下り立つ。何となく見覚えのある景観であつた。谷なりに146度へどくだつて行くが、12時3分、371mで滝の落とし口に着く。右岸に渡りそのまま滝横を高捲くと、やはり白糸の滝であつた。しばらくその美しさに見惚れていたが、あと少しと、ホッとしながら降り急ぐ。

12時16分、高度337mで冷川谷本流の階段状の滝がある所に合流。朝の高度は315mであつたが、これぐらいは誤差の範囲である。導水管を過ぎ、

橋の上に12時28分、車を停めている山口浄水場に12時41分に到着。

新年早々、相も変わらずオソマツな山行ではあつたが、充実感に包まれた満足のいく山旅であつた。

小生はピークハンターではなく、山中を彷徨うのが好きなので、これはこれで十分なのである……。と、しておこう……。

(平成20年1月3日歩く)

☆参考タイム☆

- 山口浄水場 6・03—丸尾取付の堰堤
 - 6・14—白瀬峠・冷川岳登山口 6・25
 - 階段状の滝 6・40—391m標高点
 - 7・48—二俣 8・22—石垣のある崖跡
 - 8・59—二俣 9・07—丸尾770mピーク
 - 10・10—32—673mピーク 11・10—冷川谷本流 12・16—山口浄水場 12・41
- △地形図▽
2万5千。篠立

随想

山のエッセイ

自然観察
トレッキング講座

養見 守康

10月中旬の秋晴れの日曜日、美濃の掛斐高原奥にある貝月山に20人あまりの中高年男女で登った。西側の「ふれあいの森キャンプ場」からのルートで、1時間もあれば登れる。メンバーは、岐阜市の市民自主講座、自然観察トレッキング講座の受講生である。

定年退職を数年後に控えた頃から、私は、生き甲斐

としての市民活動を模索していたが、市民自主講座のあり方は、そんな私の願望とマッチするように思えた。あえて難点を言えば、「市」という看板を背負うためか、活動する山域が限定されてしまうということだろう。

市民自主講座とは、市民が講師となって講座を企画し、受講生と共に学びつくり上げていく新しい形の講座である。市の役割は市民に対する広報で補助金などの経済的支援は無い。今年度は五十九の講座が企画、開設されたが、会場を野外とする講座はこの自然観察

トレッキング講座が唯一であり、岐阜市では初めてのことであった。

「山を歩きながら自然に親しみ、森に分け入って動物の名前や暮らし、それそれのかかり合い、さらに森の動きなどを観察し、生態系のおもしろさや大切さを学び合いませんか。」

これが自然観察トレッキング講座のうたい文句である。このような講座にどんな人がどれだけ応募してくるのだろうか。「自然観察」と銘打ち、岐阜市内の金華山と百ヶヶ峰を繰り返し登るだけだから、たとえば新ハイキングクラブのような「山屋さん(?)」が応募してくると思えなかった。

応募者はかなり少ないだろうという予想に反し、32

人の応募があった。しかし、自然観察会と誤解し、山に登ると聞いて驚いてキャンセルした人もいた。最終的に25人の講座となったが、その中に山歩きの経験がほとんど人は少なかった。

貝月山後編の樹木は色づき、くっきりとした青空に鮮やかな色彩を見せていた。番外貝月山トレッキングの一番の狙いはブナの木である。「ブナ科の樹木は森の主役であり、ふだん私達が暮らしている、冷温帯、温暖帯」と呼ばれる気候帯の土地では、原生林も二次林も、その森を構成する樹木の多くは、「ブナ科です」などと説明しながら、岐阜市内の山に限定した講座の中では、ブナ科の中心であるブナ属

ブナの「顔」を見ることはできない。それではいかにも残念なので、岐阜市から一番近い貝月山のブナ林に案内したのだった。

標高が上がるとやがてブナが姿を現した。早速、わが国の樹木の中で唯一のブナの葉の倒戻の特徴と、5、6年周期で豊凶作を繰り返すブナの生き残り戦略を解説した。

そして山頂での昼食。「ああ、やっぱり、ビール飲んだあ!」私の前に置かれた500mlの缶を見つければ、本日のメンバー中もつとも若い女性の2人組がうれしそうに声を上げた。「ノンアルコールだけれど、よかったらどうか」と勧めると、「ニコニコ顔で応じた。」「山で食べるものは何で

もおいしい」という声があちこちから聞こえ、さわやかな青空の下、山頂は和やかな空気に包まれていた。

自然観察トレッキング講座に集ったのは、植物などを通して自然というものに関心を寄せ、自然と親しむ山歩きというものに興味を示した人や、山歩きに一定の経験を重ねた結果、これまでの山歩きのスタイルを見直してみようと思いついた人達であった。

そんな人達との山歩きに私は自然観察トレッキングというもののあり方や伝えるべきメッセージの中味を改めて探求することとなり、自分なりの望みとやりがいをもたらすことになったのである。



雪山 西村文男 HP「花の山頂」より

三角点を訪ねて ⑤⑥

連載 おおやま
大山からお菊山

紀泉

磯部 純

久しぶりの山行だった。年が改まって、正月3日に恒例の愛宕参詣を行い、7日に岩野さんの鈴鹿山行に参加する。20日過ぎに、慶事が近付き忙しくなった日々の合間をぬって大文字山をうろついで以来、全く山から遠ざかっていたが、ついにたまらず、娘の佳き日を一週間後に控えたこの日、妻に何とかお許しを得て、西上リーダーの例会へ参加できた。歩く山は紀泉の里山、大山から、お菊伝説で知られるお菊山への縦走だった。

家を出る時に曇っていた空も、南へ向かうにつれて雲間が広がり、富田林駅に着く頃には陽まで顔を出していた。駅に着いたのは8時45分。



大山・お菊山付近図

小さな黄色い花を付けた木が道の両側に点々と続いている。今まで見たことのあるシロモジやクロモジと違って、アオモジの花だと教えていただいたが、アオモジの花を見たのは初めてだ。池は細長く、歩く前方にはこれから向かう殿尾山からお菊山にかけての稜線が、ドッシリと横たわっている。

池奥の道分岐を左へとり、道なりにS字を登ると、右下に流ノ池が現れる。

この池の南奥の分岐を左へ入ると幅2.5m程の地道に変わり、樹林の浅い谷脇をゆるく登って行く。

道が右手へ曲がり、道脇の木にこれもかと思うほどにテープが巻いてある所が大山への取付点。テープが無ければ行き過ぎてしまいそうな場所だったが、左手の尾根が低くなっている地点が取付点だと知っておれば、間違うことはないのだろう。

ひと息入れ、左手の山道に取り付く。斜面を切つて小尾根ののり、急斜面をジグザグに登ると平坦尾根に変わる。松の混じる灌木の尾根で展望は全く無かったが、送電線鉄塔まで来ると北東・西南の林が切れ、左手には泉佐野市の町並、右手には殿尾山からお菊山への稜線が間近に見えた。そこから斜面を切るように東へ登って主尾根へのり、ウラジロが数きつめる灌木林の尾根道を登ると、すぐ山頂に着いた。

前回より一つ早い電車で到着できたので幾分ゆっくりできるかと喜んでいたら、大阪の彼女が古市駅を通り越して尺土駅まで行ってしまったとか、彼女の到着を待って出発を30分遅らせることになってしまった。せっかく、古市駅で1分の待ち合わせで乗り換えるのに、階段を走って上り下りしたのに何か損をしたように思えてならない。

9時35分、二台のバスに分乗して富田林駅を出発する。この日の参加者は31名で、あまり南方の山へは足を向けたことがないと言っていた大久保の兄が、珍しくもこの例会に参加している。バスはどこをどう走ったのかわからないが、関西空港を右手に見て、阪和自動車道に乗ってすぐ降り、新滝ノ池の北ゲートに着いたのが10時35分。

ゲート広場で準備を整え、個々にストレッチをして出発を待つ。花の無いワギクが黄色い花を咲かせていた。

10時50分、予定より10分遅れで出発。新滝ノ池の東岸を南へ向かって行くと、

このピークが大山で、狭い山頂広場には三角点が埋められている。標高は383.2mで三等三角点。点名は「大山谷」、標石は南から15度西へ振っている。標石の東と北には立派な保護石が残っている。時間はすでに11時55分。ここで昼食となった。

いつもの山行なら、まず真っ先に喉を潤し、ひと息入れてから食べ始めるのだが、西上さんの例会は昼食タイムが短くゆつくりする時間が無い。まず三角点の写真を撮ってから、握り飯をお茶漬けにして胃の中へ流し込む。それからおもむろに飲みだす。山頂には日が差していたが風は冷たく、まだ2月だと実感させられた。

12時30分に出発となる。山頂からゆるくくだって灌木の林の尾根を南へ向かう。400mも歩くとササ峠からの道と出合い、西へと方向を変える。道は小松の混じる尾根にシッカリと付けられているが、左手にはテープや有刺鉄線が張られ、所どころに「松茸山につき入山禁止」の看板が下がっている。

取っているのを見つけた場合には数取金1万円、その先では3万円と書いてあったが、林は特に手入れされている様子はなく、そんなに多くの松茸が採れるとは思えない。灌木に覆われて展望の無い尾根道を小さなアップダウンを繰り返して、左へ右へと三回も降りながら歩き、急な斜面を登り返した所から10分も南へ入った所が殿尾山。コンタリ(約3700)のピークだ。展望は無く、山名標識が下がっているだけだったが、少し南へくたると展望が開け、堀河谷を挟んで正面に無縁中継塔が立つボンテン山が間近に見える。このあたりの南斜面にも松が見られ、リーダーは、「秋には食用キノコであるヌメリイグチ等も採れる」と言う。

小さなピークを二つ越え、登り返すと三角点ピークへの分岐。よく地形図を見ていないと通過してしまいうるな地点であった。ここから南へ30分も行く。展望の無い平坦な広場に三角点が出来ている。標高3541.8で、点名は「於菊山」。以前は二等三角点だったと聞くが、今では三等三角点になっている。標石は北西向きで西から北へ30度傾いている。リーダーは三角点のあるこの山は無名の山だと言っていたが、ある本には「ピロコ山」と載っていた。

ここから西へ尾根を歩く。後線へは至る所から道が登ってきており、この山が里山でよく登られていることがうかがえる。下山路となる高野へくだる分岐を過ぎ、いったんくだって登り返すと、標高3200のお菊山。山頂の北面は広く切り開かれていて、眼下には泉南市の町並と海に浮かぶ開空がクッキリと見える。広場には二つもベンチが置かれ、広場の中央に「烈女菊見の遺跡」と彫られた石碑が建っ

ている。その側には小さな松の木が生えているが、この松は伝説の松ではない、二代目の松だと聞く。

お菊山は、正式には納経山(なつげりやま)という。お菊とは豊臣秀次と側室小督局の間に生まれた子供の名前である。秀次が秀吉に連れられ切腹した後、秀次の正室子供を合わせて20人が三茶川原で処刑されたが、生後1ヶ月であったお菊は後藤明義へ預けられた。ここで成長し、1615年お菊が20歳の時に、山口氏内紀朝安のもとへ嫁ぐが、大坂夏の陣が始まり、夫朝安は辛式後5日にして大阪城入りをする。お菊のいる山口の城も徳川方浅野の軍勢に包圍され、お菊は援軍を呼ぶために農夫に変装して敵方の包圍網を脱し、間道を行く。途中、納経山で黒髪を断ち切り、髪と鏡を山頂の松の根本に埋め、男装して大阪城へ入り任を果たしたが、その帰路に密書を奪われてしまう。大阪城に入った義父と夫朝安は、後の合戦で討ち死にしてしまい、お菊は後藤家にか



お菊山山頂にて

くまわれていたが、浅井家に捕まり、紀州阿蘇湖の川原で7月1日に20歳の若さで処刑された。後にお菊の義母の静が、後藤家の菩提寺である法福寺にお菊の木造を収め冥福を祈ったという。地元ではお菊を徳び、お菊の髪と鏡を埋めた納経山をお菊山と呼び、髪を埋めた松をお菊松と呼んでいる。

この伝説に浸りながら時を忘れていくと、「セツかく来たのだから、四等三角点を見に行こう」とのリーダーの声。ピークから西へ少しくだつた堀河ダムへくだる分岐で、標石を見に行ったりリーダーが戻る間に多少モタモタしたが、リーダーが戻つた後、三角点に關心のある十数人だけが西へ向かう。400mもゆるくくだると展望の良い尾根の突端に三角点が出来ている。標高2861.1で、点名は「於菊山」、四等三角点である。標石は新しく、埋められたのはそんなに古くないのかも知れない。

お菊山まで戻り、二回に分けて集合写真を撮った後、15時30分下山開始し、高野へくだる分岐まで戻る。下り始めてすぐ右手のやぶのなかにピンクの花一輪を見つけた。山道に入ってコウヤボウキの残花は見たが、花が咲いているのを見たのは初めてだった。まだ2月だというのは、ミツバツツジが花を開いているとは信じられない気がする。昨年は雪が多過ぎて花の時期は半月から1ヶ月遅れたが、今年は雪が無く花

が咲くのが早く、ボンボン山のフクダユソウも早や花を開いたと聞いている。高野の分岐から縦走路と分かれて北へくだる。下り始めてすぐ幅2.5m程の林道へ下りた。林道を小走りのような速さで25分もくだって行くと、池の南端に着いた。そこにバスが待つてくれた。15時30分の予定が15分早い到着だった。

富田林駅には16時30分に戻り、解散となる。珍しくも有志数人が反省会に向かったが、早く帰らなくてはならない私は榎原神宮前駅で寺田の彼と2人で海ビールを飲み、さきやか反省会をおこなった。(平成19年2月16日歩く)

☆コースタイム☆
新滝ノ池(30分) 大山登り口(45分) 大山(20分) 殿尾山(35分) 点名「於菊山」(30分) お菊山(10分) 点名「於菊山」(10分) お菊山(20分) 高野下山分岐(30分) 池の南端
△地形図▽
2万5千 博井・岩出

歩き遍路の独り言

— あなたも歩ける四国遍路みち 1200キロ —

A5判・176頁 定価1200円(税込)

後藤 典重 著

私は「歩き遍路」を十八年五月に終えて、歩いた遍路旅の喜怒哀楽など数多い思い出を日記風にまとめました。歩かなければわからない四国の素晴らしさ、地元の人々との関わりを通じた体験・体得を多くの方々にお伝えできればと思い、出版しました。

四国には、人との会話、心のふれあいなど、今忘れられている心暖まる貴重な何かが残っており、豊かな心の旅になりました。

歩き遍路の独り言



- 第1回 おへんろを知る歩行の苦悩旅 (第1～23巻)
- 第2回 土佐人の心に触れた喜びの旅 (第24～36巻)
- 第3回 猛暑を体験し、克服した努力の旅 (第37～40巻)
- 第4回 紅葉を楽しみ、歩行行を見直す旅 (第41～50巻)
- 第5回 早春に芽吹きを求めた触れ合い旅 (第60～83巻)
- 第6回 新緑と花の美しい結願・感激の旅 (第84～88巻と高野山)

その他、歩くための参考になる四国遍路の歴史・コースタイム(距離・時間・歩数等)・宿泊先一覧(住所・電話)など必要な資料を掲載。

「遍路とは」「お接待とは」何か?と疑問に思う方、また四国遍路に興味のある方、そして「歩き遍路」を実行したい方は、是非お読みください。

四国遍路を発心されるよう念願しています。

●本誌の振替でのご注文は送料当社負担

新ハイキング関西

〒610-0121 城陽市寺田大野10-10 Tel/Fax 0774-53-2754

韓国登山シリーズ⑦

連載

大田市近郊の国立公園を歩く
ソニン
俗離山
サン

ヨシミスポーツ 吉見英樹

韓国

韓国の中央部、演歌テジョンブルースで有名な大田市からバスで東へ1時間40分の所にある。

俗離山(1058m) 自体国立公園であり、名刹法住寺が山麓に鎮座する。多くの参拝者が全国から訪れ、とても有名な山である。

当ヨシミスポーツのお客さんの中にも行かれた方が多く、「とても良い山だ!」と、評判も上々。私も前々から機会を見つけて行きたかった山である。

基本的なルートは、ほとんど岩と石の階段道になっているので歩きやすいだろう。その理由は、高麗・朝鮮時代からの名刹であり、山麓の法住寺のみならず、山全体に仏教施設が点在し、お参りの対象になっているからだ。古来からの王様も遊山に訪れている。

俗離山ピロ峰



山容

小金剛(北朝鮮の山)の異名があるぐらいダイナミックな岩稜の山である。ムンチャン台・ソニン台・ピロ峰・チオンハン峰などの峰々から成り、鶏が羽を広げた鶴翼陣形に峰々が陣取

っている。特にシンソク台・ピロ峰からの展望は圧倒的であり、これらを一望するキョンオプ台だけに登山してくる人も多い。

山中には宿泊兼用の休憩所が何ヶ所もあり、2日ばかりでゆつくりと回峰することを勧めます。全峰々を歩くとなると、日本人なら10時間かかるようだ。私は今回、道が凍っている時間がかかることを考慮し、短縮コースをとることにした。

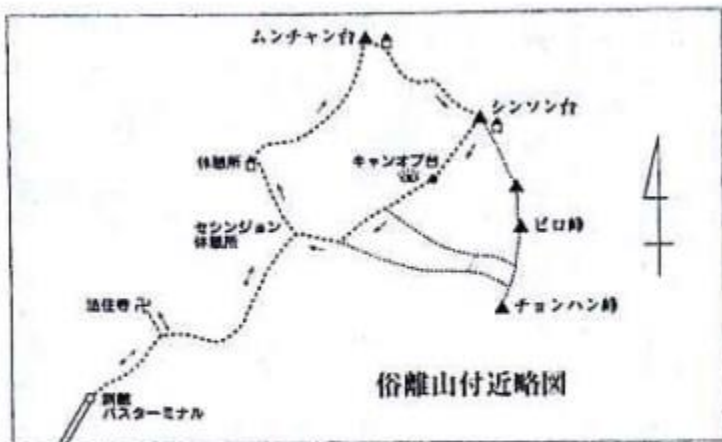
交通アクセス

ソウルからソンニ山へは名刺故にシヤトルバスも多く、日帰り登山も可能である。

私は仁川、空港、清州、ソンニ山と高速バスを乗り継いだ。朝9時半に開空を出て、ソンニ山バスターミナルに着いたのが16時15分であった。

コース

今回も韓国観光公社に情報をもらって、清州経由でソンニ山に入ることに



いる。気温はそう低く感じないので分厚く凍っているのだ。多分一日の平均気温が低いのだと思うが、流れ込む支

流の雫も全て凍っている。当然遊歩道もカチコチに凍っているのだから歩くに骨が折れる。「コースタイムが稼げないな」と少し不安になってくる。

15分歩くとなれば分岐があり、これを右にとると登山道になっていく。セシンジョン休憩所までは平坦道であり、山中にある小屋運搬用の道になっている。

約40分でセシンジョン休憩所に到着。ここでムンチャン台とチョンハン峰への分岐となり、ここより本格的登山道となる。私はムンチャン台へと左へ道をとり、溪谷沿いの岩道を登って行った。

もう日が昇り、暖かくなってきたが、標高6000になると、道は雪と水が増えてくる。しかし岩と石段には水も付いていないので、アイゼンを着けなくて行くことにした。結局その日は最後までアイゼンを着けなかった。

その最大の理由は、韓国人トレ

さて、バスは2時間で清州に到着。待ち合わせ10分で乗り継ぎ、夕方にソンニ山国立公園に到着した。

標高は4000、名刹法住寺門前町は大きく、四車線の道路がお寺まで続き、両側には多くの食べ物屋、旅館が揃っている。その日は日曜日なので、広い駐車場も登山専用のチャーターバスで満杯。登山を終えた人々で溢れかえり、とても賑やかである。夕刻18時まで下山してくる人が絶えなかった。

その夜の宿は、一番こまやかな旅館に決めた。宿泊代は負けてもらって2000円、日曜夜の宿泊は私1人であった。

翌朝7時起床。門前食堂でしっかりと腹こしらえを済ませ、昨晩予約しておいた昼飯用キンパブ(韓国風海苔巻き)を取りに行った。女将さんが「今日は天気良いわ、楽しんできて」と励ましてくれた。

8時半門前を出発。売票所で入山料を払い、法住寺までの遊歩道を歩く。横にある小川は真っ白に分厚く凍って

ツカーは、この程度ではノーアイゼンなのである。本当に男女共に100%ノーアイゼンだ。私自身、本当は着けたい所が何ヶ所もあったが、女性がノーアイゼンでガンガン歩く姿を見ると、格好悪くて羨望できないのだ。

雪道の歩行時間は三割増のように感じたが、慎重に足場を選んで歩けばそれほど問題はなかった。アイゼンを着けたり外したりするほうが、面倒に感じないからだ。

頂上のムンチャン台までに三ヶ所の休憩所兼山小屋がある。水や食べ物も多く売っている。季節によってはお金と水だけ持って登るといふ手もある。山小屋の汚なさを我慢すれば、山中1泊2日で全峰を征服するのもよいのではないだろうか。

二番目の小屋が見えると、道は谷筋から尾根に飛び出し、頂上まで尾根を捲いたりしながら、展望を楽しんで歩きとなる。谷筋と異なり日が差しているのだから寒さは感じなくなり、快適な日だまり登山になった。

三番目の小屋を過ぎると、眼前に頂上ムンチャン台が現れ、もうひと息の急勾配が終わると、大きな広場に飛び出した。分岐から2時間であった。

ここには大きな小屋があり、食事できるスペースがとってある。ムンチャン台は、もうその上だ。10分歩けば巨大な岩塊があり、岩に取り付けられた鉄階段を頑張れば頂上になる。

展望は360度、ソニニ山国立公園群の山々が一望できる。3月中旬といえど、山々は雪で覆われている。寒さで長居はできず、来た道を引き返し、小屋前の日だまりで休憩をとっていると、反対側の登山口からも大勢の登山者が次々と上がってきた。

山所食の人々だが、韓国人は男女限らず減茶苦茶に声がかい。それはもう賑やかで、ちよと12時ということもあり、派手に昼食を取り出した。私は弾き出されるように、次の目的地ソニニ山に向かうことになった。

道は尾根を伝うようになっていたが、鉄階段、急勾配のアップダウン。おま

けに尾根の北側になるので、道が水と雪に覆われていてかなり歩きにくい。ところが尾根の南に回ると雪の無い岩道になり、アイゼンを着けるのが面倒になる。

ズリズリ滑ったりして歩いたので、結局30分のコースタイムが50分になり、針のようなソニニ山に上がったなら、かなり疲れてしまった。

ここにもミニ休憩小屋があり、私は岩の上で昼食キンバブを食べることにした。振り返るとムンチャン台が展望できる。腹ごしらえの後は、何も迷わず下山することに決めた。

ここよりチョンハン峰へは3時間を要するはずで無理は避けるべしだ。下山ルートは、少し歩いたコブから、岩にへばりつくように取り付けられた鉄階段をくだり、クラングン高度を下げていく。15分程くだった所からピロ峰などの特異な懸崖線が見えてくる。

ここがソニニ山で一番有名な景色であり、空に突き出たロケットのような岩塊が一際目を引く。それを仏様とし

てお参りに来るそうであるが、とても自然に出来たものには見えないのだ。本当に特異な光景である。私も気になって仕方がなく、何度もそちらを見るので、尾元が危なかつたぐらいである。そして、広い岩場に飛び出した所が、キョンオプ台という大迫力の展望場所である。恐竜後線と岩だけで構成され



法住寺

た山全体が扇のように広がっている。ここに立った瞬間、その衝撃はなかなか表現できないのが残念だが、はるばる来て本当に良かったと心より思えるのだった。いわく去り難しの状態になり、日差しの良いのも手伝って、寝ころがったり三角座りしたり、見るポイントを変えたりで、結局40分はこの場に居続けることになってしまった。

ここからのルートは、岩肌に取り付けられたワイヤーや鉄階段を頼りに下山して行く。これらの助けがないと、とても登山はできないだろう。次第に傾斜がゆるくなつていき、溪谷沿いになると、もうそこは今朝道を左にとったセシンジョン休憩所である。

後は平坦な道なので、早速荷を降ろしビールを飲ませてもらうことにした。「ネーサン、ビールもうどうよー」「あー、勝手に取って、飲んでよー」てな具合だ。「アーチョンマル、マシター、美味しいなー」

帰路の途中、高麗時代よりの名刹法住寺に立ち寄った。広い境内には、巨

アタッテ痛い靴の中広げします

OUTDOORS SHOP
とよみのヨシミ
YOSHIMI

〒543-0254 大阪市天王寺区南河原町4-70
http://www.yoshimisports.co.jp/

TEL. 06-6772-7231

JR天王寺駅 徒歩5分
南河原町駅 徒歩10分

毎週木曜日定休

大な金色の弥勒大仏像・五重塔・国宝の大雄殿(金堂)があり、さすがに天下の大名刹である。残念なことには、大方の塔頭・宝物は豊臣秀吉の倭乱、及び朝鮮戦争の内乱で壊滅している。信じがたいのは、少し前までは阿民族であった北朝鮮軍にも破壊されてしまっていることである。北朝鮮軍による破壊も激しく、山中にある高麗時代からの堂塔・石塔・石仏に至るまでも破壊されたそうである。

無事下山のお礼を大仏様に感謝し、旅館街に着いたときは、もう17時になっていた。

一日中天気に恵まれ幸せであった。食堂に上がり込んで、韓国焼酎とトルソクビビンバで、総仕上げをした。

☆コースタイム☆
法住寺(1時間) セシンジョン休憩所
分岐(1時間) チョンサチャアン(1時間) ムンチャン台(50分) ソニニ山(2時間) セシンジョン休憩所(1時間) 法住寺(合計約7時間)

奈良市高畑を訪ねて

たかばたけ

松永恵一

新薬師寺

光明皇后は夫の聖武天皇の病氣平癒を願って、天平十九年(747)に新薬師寺を建立した。西の京の薬師寺に對して新薬師寺、またの名を香薬寺と呼ばれ、七仏薬師堂(金堂)には七組の薬師三尊像とそれを囲む十二神将像が祀られた。薬師如来像と脇侍の日光・月光菩薩像が七組の二十一軀に、十二神将像が加えられた計三十三軀が安置された空間は、壮麗な眺めであった。創建当初は春日大社の南、奈良教育大学のあたりの四町(約440坪)四方の広大な敷地に、間口九間の大きな金堂、左右に東塔・西塔が並ぶ七堂伽藍を誇り、百人の僧侶が修行する南都

十大寺の一つに数えられる大寺院であった。宝龜十一年(780)の落雷で西塔が焼失し、応和二年(962)には大風で七仏薬師堂(金堂)などほとんどの建物が倒壊、当初の規模に戻ることはなかった。

次第に衰微した新薬師寺は、南都十大大寺の面影を偲ぶべきもなく、こじんまりと佇み静寂さ漂う寺院となつていく。国宝の本堂は奈良時代の他の堂を転用したものとみられ、天平彫刻の代表作として知られる伐折羅大将(国宝)などの十二神将立像など多くの文化財を伝えている。

平成二十年10月、奈良教育大学の構内で、新薬師寺の七仏薬師堂(金堂)

新薬師寺・本堂



とみられる八世紀半ば頃の大型遺跡跡が姿を現した。長い忘却を破って現れた巨大基壇は東西約51m、南北約27mと推定され、「仏殿九間」と文献の伝える通りの構造で、現存する世界最大の木造建築・東大寺大仏殿(国宝、東西57m)に匹敵する大ききだった。

志賀直哉旧居

小説の神様と呼ばれた白樺派の文豪志賀直哉は、京都の山科からあこがれていた奈良に移り住んだ。

昭和四年(1929)4月、東は春日山の原始林、北は飛火野の緑の芝生に隣接した閑静な上高畑町に、自ら設計し京都の棟梁に依頼した数寄屋造りの家を建てた。直哉は、昭和十三年までこの家に住み、「暗夜行路」を完成させ、他にも多くの作品を書き残した。「奈良」に記した。

「兎に角、奈良は美しい所だ。自然が美しく、残っている建築も美しい。そして二つが互いに溶けあっている点。他に比を見ないと云って差支えない。今の奈良は昔の都の一部分に過ぎないが、名画の残欠が美しいように美しい。御蓋山の紅葉は霜の降りようで毎年同じようには行かないが、よく紅葉した年は非常に美しい。5月の藤。それから夏の雨後春日山の樹々の間から湧く雲。これらはいっつも、奈良を憶う種となるだろう。」

入江泰吉記念奈良市写真美術館

日本人の心のふるさと奈良大和路をこよなく愛し、戦後から約半世紀にわたり、移ろいゆく大和の美を撮り続けた写真家入江泰吉。大和路のさりげない景観に漂う余情を表現した、「入江調」と呼ばれる作品に魅せられる人は、今なお多い。

そのファイインターを通した美、約八万点に及ぶ全作品の保存と公開を目的として、平成四年(1992)に開館した。

入江泰吉が幼い頃から慣れ親しみ、半世紀にわたり一貫して撮り続けたみ仏たち。長い歴史がひっそりと息づいている大和路の風景。入江泰吉の世界を堪能することができる。

入江泰吉が、本格的に撮り出したのは大和の仏像。平成四年1月に亡くなるまで大和路の風景と並んで精力的に仏像を撮り続けた。「仏像は人間の肢体に託して、みほとけの心を表された、いわば純粋美を超えた精神美あるいは神聖美」であると語っている。

白毫寺

高円山の西麓、奈良盆地の高台にある白毫寺は、優れた歌人であった志賀親王(天智天皇の第七皇子)の山荘跡を、空海の師の勅諭が寺にしたと伝えられる。親王がお亡くなりになった時、

高円の野辺の秋萩な散りそね
君が形見に見つつ偲はむ

萩の花に親王を偲んだ歌が詠まれた。自然石の美しい石段と鄙びた山門の風情ある佇まいの山寺は、春は椿の花が、秋は萩の花が咲き誇る花の寺として知られる。本堂前の紅白まだら模様美しい大輪の花びらの「五色の椿」は、天然記念物に指定されている。伝香寺の「ちり椿」、東大寺開山堂の「のりこほし」と並んで奈良三椿の一つに数えられている。

3月下旬から咲き始め、4月上旬から中旬が見頃。

1月16日と7月16日は開魔さまの縁日、えんまもうで。元々開魔堂にあった本尊開魔王坐像に般若心経を奉納し、無病息災と長命を祈る。



奈良市写真美術館

コース概観

魅力というものは人に教えられて知るものではなく、自分が発見するものだと思っている。そんな私が入江泰吉さんの写真で「奈良の魅力」に引き込まれた。思いを昔にはせるとき、眼前の風景は全く別の光彩を放ってくる。奈良は見るだけではなく感じる所だと教えてくれた。珠玉の写真に逢いに奈良市高畑に出かけてみた。



高畑町付近略図

境内南側の赤い鳥居の市都築神社は新薬師寺の鎮守として勧請された。九州で兵を起し処刑された藤原広嗣の怨霊を鎮める。本殿は春日大社の第三殿を譲り受け移築されたものである。入江泰吉記念奈良市写真美術館は、新薬師寺の西側にある黒川紀章設計の建物。新薬師寺の隣という歴史的な環境との調和に留意し、展示室は地下一階にある。外壁はガラスで囲われていて、周辺の景色が透けて見え、屋根が浮いている感じがする。入江泰吉さんの素敵な写真の後は、一階の喫茶カフェフルールで憩う。作り立てのテーブルと香り高いコーヒー。椅子とテーブル

は黒川紀章のデザイン。器はオリジナルの赤膚焼。ガラス越しに見える池と芝生に心が和む。新薬師寺から住宅地の中の道を白毫寺へ向かう。次第に道が細くなる。御蓋山、春日山に続いて高円山が正面右手に見える。白毫寺は、高円山の中腹にある寺。萩の咲き誇る頃には、肩に触れればかりの萩の間をすり抜けるようにして石段を上る。本尊は阿弥陀三尊像。向かって左側で両膝をつき合掌する勢至菩薩。右側の低い位置で両手に蓮の花を受け片膝を立てている観音菩薩。阿弥陀如来来迎の姿勢である。司宝蔵には閻魔王とその眷属である司令・司録の像が安置されている。閻魔王は怒りを顕わしながらとことなくユーモラスな感じがする。境内からは奈良盆地が一望できる。左は金剛山から碧城山、二上山、正面には信貴山から生駒山の山並がきれいに見える。南に下った白毫寺バス停に出て、バスで奈良駅に出るのが早い。便数が極めて少ないので、来た道を新薬師寺の方

近鉄奈良駅から奈良交通バス1番乗り「2」R奈良駅(市内循環・外)に乗り破石町バス停下車。案内標識がある。「白毫寺」1.8km、「新薬師寺」0.8km、「志賀直哉旧居」0.4km、「奈良市写真美術館」1.0km。東へ、ゆるやかな坂道を上って行く。敷地が広く取られ、荒れた築地塀や土塀、立派な門構えの屋敷が並ぶ。時の流れが止まったような、タイムスリップして100年前の時代に戻ったような感覚に陥る。まっすぐ東に進めば「滝坂の道」柳生街道になる。左に折れると志賀直哉旧居。敷地435坪に134坪の建物は「奈良文化女子短期大学セミナーハウス」となっている。スリッパに履き替えて内部に入る。「子どもの部屋」「夫人の居間」などの案内板が置かれている。六畳の書斎は天井が葦張りの数寄屋造り。窓から和風庭園と若草山の借景。長編小説「暗夜行路」はここで完結した。十五畳のサンルームは床に瓦が敷かれ部屋の隅に手洗いがある。武者小路実篤、小林

秀雄、尾崎一雄、梅原竜三郎など多くの文人画家の集いの場となっていた。右隣が「たかばたけ茶室」。画家・尾立源一郎が大正八年に南フランスのプロバンス地方の田舎家を模して建造した。白いテーブルと椅子のガーデンテラス。出されるものはコーヒー・紅茶とケーキだけ。古き奈良の風情に浸りながらもう少し東に向かい右に折れると新薬師寺。本堂(国宝)の入母屋造りの本瓦葺きの屋根は、ゆるやかに傾斜して軽快な印象を与える。円形の土築須弥壇が築かれている。本尊の薬師如来坐像は檜の木の一木造り。弘仁様式を代表する仏像として知られる。大きく見開いた両目に強い印象がある。眼病の御仏として篤く信仰されている。本尊を取り巻いて円形須弥壇に塑像の十二神将が並ぶ。怒髪天を突き俊折羅大将は傑出した秀作。口をかつと大きく開けて咆哮し、左手の中指と薬指の間を大きく広げて仏敵を威嚇している。近くの岩淵寺から移したと伝えられている。

へ戻り、高畑町バス停に出る。

☆コースタイム☆

近鉄奈良駅(25分・バス6分)	破石町(5分)	志賀直哉旧居(5分)	新薬師寺・奈良市写真美術館(15分)	白毫寺(20分)	高畑町バス停
近鉄奈良駅	破石町	志賀直哉旧居	新薬師寺	奈良市写真美術館	白毫寺
540円	180円	350円	600円	500円	400円
△費用▽					
近鉄奈良駅→近鉄奈良駅	540円				
近鉄奈良駅→破石町	180円				
志賀直哉旧居	350円				
新薬師寺	600円				
奈良市写真美術館	500円				
白毫寺	400円				
(高畑界隈共通割引券を利用すると300円分お得になる。3ヶ月間有効。)					
(問い合わせ先)					
入江泰吉記念奈良市写真美術館	0742(22)	9811			
志賀直哉旧居	0742(26)	6490			
白毫寺	0742(26)	3392			
新薬師寺	0742(22)	3736			

山の地名を歩く⑬

傾城森(峠)

西尾 寿一

岩手県の一戸と九戸の境の736
の峠を地形図に傾城峠とあるが、こ
れを「日本山名辞典」(三省堂)に
「ケイジョウ」とされ、さらに険所の
意と解説している。

地元では「ケイセイ」で、「岩手
地名百科」(岩手日報社)も同様であり、
どちらが正しいか不明ながら、常識的
には後者であろう。

しかし、付近には九戸城などがあり、
実際に激しい戦闘があったことから
「傾城」の可能性の残りは残っている
のかも知れない。

傾城の名称は先の辞典では、宮城県

七ヶ宿町に傾城森(440m)、鳥根
県益田市に傾城峠(180m)と三例
あり、他に高郷山の別称として傾城山
(340m)があると述べていて、い
ずれもケイセイと説明している。益田
市の傾城峠もおそらく同じで城から成
に変化した可能性が高い。

このうち岩手と宮城の山に登って
いるが、最も傾城の特徴をもつものが宮
城県の傾城森である。その特徴とは何
か、それが解ければ話は簡単に終わっ
てしまうのである。

「広辞苑」に「傾城・契情」とあり、
漢書に「一頓傾人城再頓傾入国」と中
国で古くから伝えられたもので、和意
は「美人が色香で城や国を傾け滅ぼす
意」とある通り、このようなことは
度々あったであろう。契情のほうは
音意に当て字というから、傾城の意は
男性の好奇心に支えられて広く社会に
伝播していったとみえる。

傾城の派生語は無数に存在する。特
に江戸期に盛んとなり、川柳などの

不明のものではかえって混乱するのだ
が。
この国で開拓者が北上するにつれ、
先々で目にする山河に名称を残してき
た歴史がある。アイヌ語を和名に変え
る作業が一般的で、中にはおもしろい
ものも残されている。

小生が昭和30年代、北海道に長期の
旅をしていた頃である。十勝三股とい
う石狩岳とニベソツ山に開かれた掘り
鉢の底状の所に帯広から鉄道が通じ、
木材を搬出する入夫の居住する飯場が
あった。作業の主役は馬で、専用の鍛
冶屋が一軒あり、馬の蹄鉄を打ってい
た。鉄道は糠平温泉ですべての乗客が
降りてしまい、十勝三股の終点まで行
く人はいなかった。

今日、明治期にわが国最初のレンガ
造のメガネ橋を保存すべきと運動する
人は、かつて十勝三股で鍛冶屋をして
いた赤石鉄工所の娘さんで、現在は上
士幌に住んでいる。廃線から40年近く
なるが、当時はもっぱら木材搬出の専

用で時々登山者が来るくらいだった。
その鍛冶屋に厄介になって付近の山に
登ったのだが、木材を扱う作業員達が
クマネシリ山系のピーク群を「オッパ
イ山」と呼び、ニベソツ山の裾野に広
がる台地を「軍艦山」と称していた。
なるほどうまい表現だと思ったのは直
接的な、誰が見ても納得するものだっ
たからだ。

開拓者が初めて対象の山を見て感じ
たままに表現したものであり、おそら
く今日残されている地名の大部分もこ
れと大差のない直接的なものだったの
だろう。それが少し教養のある人物の
介入によって別の凝った名称に変えら
れ、文献に載せられて定着していった
のだと思う。

「オッパイ山などという恥ずべき名
を文献に載せることなどできぬ」と謙
者は苦勞して別の名を探し、それが無
い場合には中央の類似の名称を借り受
けるなどしてしのいだのだろう。
先に挙げた傾城森の場合も、どうや

他に人情本にも登場して一世を風靡し
た感がある。

傾城は美人に留まらず、遊女・女郎
屋から一般風俗の中まで浸透していっ
た。そしてさらにドクダミという薬草
までケイセイソウと呼ばれるようにな
る。遊女が性の病にかからないように
と飲んだからだと言うが、男達が酒の
旨のように傾城の言葉をもて遊んだ時
代があったのである。

それでは、実際の山に傾城の名を使
う理由に何があったのだろうか。
山名に女性を連想する場合が少なく
ないが、大部分は女性の容姿と深く関
係してくる。

京都の東山は人が寝た姿というが性
別は明らかでない。人の寝姿は各地に
あるが最もポピュラーなのが乳房の形
状だろう。

代表的な秋田県の乳頭山は見事な
曲線を描いていて乳首まである。山名
はそのものズバリで好感をもてるが、
西日本では直接的な表現を避け難解で
凝った表現になる。教養と称して意味

らそれに近い扱いを受けたのではない
か? と感じている。

白石市から七ヶ宿街道を西進すると
米沢へ越えるが、街道中の景勝地がダ
ム湖になっている。なおも西進すると
傾城森が双峰を見せてすぐそれとわか
る。左が傾城森で三角点があり、右が
少し低い山伏森で形が崩れて見える。
しかし、横川橋を渡って裏側へ廻ると
堂々たるバストであった。なるほどこ
れなら誰が見ても女性のそれを連想す
るに違いない。

しかしながら女性の乳房を傾城とす
るには相当の時間を要したはずで、最
初の頃は十勝三股の例のようにオッパ
イ山とまでいかずとも、二子山・乳房
山くらいのところを通っていたはずだ。
それが時代と共に七ヶ宿街道を通る教
養人?の手によって、もっともらしい
凝った名が宿駅の主などに伝えられ
た。この街道は江戸開港動交代の通路だっ
た、今日に及んでいるのではあるま
いか、と考えている。

傾城森から西は古代遺跡がたくさんある所で楽しみの多い土地柄である。二井宿から高島町にかけて縄文時代から神仏習合時代の名残が随所に見られとても素通りできない場所だ。

傾城森の登山は、横川橋を渡るとすぐ左へくだる道を行くと駐車場がある。吊橋を渡って対岸の道を登ると、直進は傾城森、左へ登ると山伏森である。縦走はできない。山頂には古い祠が鳥居と共に鎮座している。木梢の間から蔵王の山並が美しい。

なお高島町には立派な神仏習合時代の建物が残り、その一角には古い校舎を利用した博物館がある。その昔、高島が湿地帯で腰まで泥に埋りながら水田を耕作していた様子がよくわかる。現在は「道の駅」が立派で、少し離れた旧街道の街並も残っている。

私見ながら、「高島」とは湿地帯の泥池から解放される希望から発した地名ではなからうか。そのことを博物館長に話しておいたが、はたしてどうか。

山のレポート

十二支の山

丑年の山

生駒 登峰

今年の干支は丑(牛)である。丑は十二支の二番で、昔の時刻では現在の午前2時頃を指す。方位としては、北から東へ30度(北北東)の方向を示す。

牛は古くから農耕や運搬に利用されていたが、現在では人間にもっとも重要な食料となっている。その味覚は最高で乳製品を始め、いろいろな加工品と共に人間には欠かせない食料である。牛といえは、山より食欲のほうに気になるくらいで、今もアメリカとの間で牛肉の輸入で問題を起している。

丑(牛)の付く山名を調べてみると、数が非常に多い。山の形が牛の背や首

の姿に似ているところから名付けられたようである。標高順に記載してみる。

- | | | |
|-------------------|----|-------|
| ● 赤牛岳 (2864) | 高山 | 薬師岳 |
| ● 牛首山 (2630) | 高山 | 白馬岳 |
| ● 牛首山 (2533) | 高山 | 十字峯 |
| ● 牛首山 (2530) | 高山 | 槍ヶ岳 |
| ● 牛首山 (2320) | 甲府 | 八ヶ岳東部 |
| ● 牛首山 (1970) | 新潟 | 大日岳 |
| ● 牛首山 (1638) | 日光 | 鎌田 |
| ● 牛首山 (1408) | 高山 | 飛騨青屋 |
| ● 牛首山 (1140) | 日光 | 松戸原 |
| ● 牛伏山 (1990) | 水野 | 春日本郷 |
| ● 牛奥ノ懸ヶ腹摺山 (1985) | 甲府 | 大菩薩峠 |
| ● 牛ヶ岳 (1962) | 高田 | 巻機山 |
| ● 牛生院平 (1800) | 甲府 | 雁坂峠 |
| ● 牛籠山 (1481) | 飯田 | 飯田 |
| ● 牛ヶ岩山 (1402) | 福島 | 川久 |
| ● 牛の寝通り (1352) | 甲府 | 七保 |
| ● 牛城 (1342) | 松山 | 越知面 |
| ● 牛形山 (1340) | 新庄 | 三界山 |
| ● 喜登牛山 (1312) | 北原 | 喜登牛山 |
| ● 六角牛山 (1294) | 一関 | 陸中大崎 |

- 牛廻山 (1207) 竜神 重里
- 小牛城 (1143) 松山 越知面
- 嶋牛山 (1031) 新庄 軍沢
- 牛岳 (987) 高山 山田温泉
- 枇杷牛山 (958) 北見 大和
- 牛ヶ首山 (919) 広島 琴谷
- 於曾牛山 (899) 夕張岳 豊糠
- 牛ノ峰 (896) 松山 中山
- 養老牛岳 (847) 摩周湖 養老牛温泉
- 乙今牛山 (770) 沢堤島 桑取
- 牛臥山 (726) 姫路 智頭
- 牛臥山 (720) 高山 久々野
- 牛頭山 (715) 山口 大原湖
- 牛釜 (714) 浜田 出雲吉田
- 牛ヶ峰山 (713) 浜坂 湯
- 積牛岳 (691) 福岡 伊良原
- 牛頭山 (673) 広島 飯室
- 牛岳 (666) 函館 七つ岳
- 牛ノ峰 (661) 松山 出海
- 牛塚山 (647) 名古屋 烏ヶ原
- 立牛岳 (639) 紋別 立牛岳
- 牛松山 (629) 京都 亀岡
- 菅谷牛山 (624) 旭川 西川温泉
- 江差牛山 (598) 旭川 中委別

- 牛橋山 (580) 福岡 金田
- 牛草山 (550) 伊勢 五ヶ所浦
- 牛伏山 (491) 長野 上野吉井
- 臥牛山 (478) 高梁 奈良
- 岐登牛山 (457) 旭川 岐登牛山
- 牛首岳 (455) 与論島 迎土名
- 戸内牛山 (450) 斜里 古梅
- 牛頭山 (448) 福岡 不入道
- 於兔牛山 (393) 札幌 川端
- 鬼斗牛山 (379) 旭川 比布
- 伊香牛山 (350) 旭川 愛別
- 牛別山 (299) 旭川 当麻
- 牛神山 (280) 高山 金川
- 牛田山 (261) 広島 祇園
- 掛牛山 (250) 徳島 由良
- 四牛山 (215) 長崎 長崎東北麓
- 牛ノ岳 (202) 長崎 川棚
- 牛潜山 (166) 新庄 新庄
- 臥牛山 (135) 村上 村上
- 牛臥山 (62) 静岡 大瀬崎

地形図を調べてみると、山名の記載の無い所、標高だけのもの、又逆に名前があっても標高が無い所などが見られる。

牛の背に似ているとすれば、どこが最高点か不明なためでもあるのだろう。改めて山を調べてみると、一等や二等の三角点が設置されている山も多く、私は牛の名とは無関係に登っている。今まで多くの牛の山に登っている。

前年の子年には、十二支会の子の泊山(三重県)に登った。ちょうど十二支の始まりの年でもあり、私も参加した。長い歴史をもつこの会は、1960年発足の第一回登山にもこの子の泊山に登っている。子の付く山が少ないので、四回目の登山になるが、何と四回り48年目である。そのためか80名近い参加者には高齢者の姿も目立っていたが、皆さんまだまだ元気いっぱいであった。

私も今後とも千支の山に参加するつもりだが、猪年まではもたないだろう。

山のレポート

韓国の山を視察

雪嶽山と北漢山

村田 智俊

10月6日、大韓航空にて開空を立ち、仁川空港へ昼前に到着し、韓国ガイドのキムさん(男性)とパクさん(女性)に出迎えられた。日本のメンバーは、東京から9人、新潟から1人、大阪からの私を含めて11人。それに中国から1人、台湾から3人が加わり、総勢17人となった。

明日は雪嶽山へ登る予定。チャーターバスで東海岸の東草へ移動する。約5時間かけて途中で東京手前の温泉に入り、東草に着いたのは19時を回っていた。ホテルへ入る前に夕食となり、東草は漁港で海鮮料理店が軒を並べ、

刺身がふんだん出ておいしかった。

7日、朝から雨。まず有名な百潭寺(ペクタン)をシャトルバスで訪ねて見学後、五色温泉登山口(イセロ口)に移動して登山開始。日本人にもよく知られた登路で、雪嶽山主峰の大青峰(1708.8)山頂までのコースタイムは4時間。石の階段が多いがよく整備されていて歩きやすい。道標はハンゲルなので全くわからない。ガイドの後をひたすら追っただけだ。紅葉真っ盛りで溪谷が美しく、カメラタイムが多くなり、私たちは5時間以上かけて山頂に到着した。しかし、雨風が強くとガスで展望は無い。「晴れたら日本海が見えてすばらしい眺望だ」とキムさんが説明するが、残念であった。

山頂から10分くだると、本日の宿泊所中、青岬小屋に到着した。韓国の山小屋は日本の小屋をモデルにしていると、中央に廊下があり、両側は二段式のベッドになっている。上下段共に番号が打っており、受付で場所を

指定される。毛布は二枚1000円で貸してくる。約150人の定員で3ヶ月前にネットで予約しておかないと泊まれないとか。自炊室にはテーブルがいくつも並べられ、用具も揃っている。この日は雨の平日にもかかわらず満員であった。

8日、晴れてきた。7時頃から下山開始。小青峰を経て千仏洞溪谷コースから下りた。V字溪谷に鉄梯子が整備され、臨瀑布・五連瀑布・鬼面岩などに紅葉が映えて美しい。日本の山では見られない特異な景観であった。約4時間のコースタイムだが、私たちは景観を楽しみながら6時間かけて下り、雪嶽公園に立ち並ぶ、溪谷沿いの土産物店兼食堂の道脇テーブルで軽い昼食となり、その後、バスでソウルに戻った頃には暗くなっていた。ホテル近くのピビンバ専門店に行き、韓国観光局から2人が来られ、楽しく歓談できた。

9日、ソウル近郊の北漢山へ登り、有名な仁寿峰を眺め、白雲台にハイキングした。下山後、登山口の温泉で汗を流し、仁川空港から帰途についた。

キムさんは日本語が堪能で、まるで日本人に案内されているかのように安心して歩けた。サブリーダー役のパク

さんは若い女性だが登山慣れしていて、急な上り下りでも元気に飛び回って回った。

雪嶽山では、紅葉のシーズンなのか韓国人登山者が賑わっていた。多くの人に追い越され、またすれ違った。雨だったが、日本のようにレインウェアを着ている者はいない。男性も女性

も簡便なビニール合羽を頭から被るだけ。ザックも小型でスニーカーで平気で歩いている。しかも迷いのである。雪嶽山でも日帰りであるように。コースタイムは韓国人の速度が基準だから、日本人は二割増しで計画する必要がある。

北漢山は有名なハイキングコースで登山者の波がずうと続いた。平日なのに仕事は無いのだろうかと思うほど、若年層に混じり、中高年の人も多い。軽装でドンドン登ってくる。登山口には登山専門店が軒を連ね、繁華街のように賑わっている。中にはモンベルショップもある。

これを機に、春(6月)・秋(10月)には新ハイ例会として「韓国の山」を企画してみたい。登る山に事欠かないのは日本と同じである。費用は、宿泊所を工夫すれば4泊5日でも10万円位だろう。



北漢山の仁寿峰



北漢山の白雲台

〔里山シリーズ48 丹波市(旧水上町)〕
日本一低い分水界を展望
向山連山から清水山

一般コース(★☆☆)
長宗 清司

京阪神地区から、JR福知山線に乗車して、加古川線と合流する谷川駅から二つ目の石生駅で下車。ホームの看板には大きく「日本一低い分水界のある駅」とある。

今回は、山裾に整備された「水分れ公園」の背後の分水嶺に登って、しばらく稜線上を歩いた後、側稜を下りて公園に立ち寄り一巡コース(分水界展望ルート向山連山登山道)を歩く。

無人の駅頭に立って東を望むと、家の背後に迫るように、これから登る連山が扇状に視野いっぱい広がっている。「向山連山」(石生奥山)は、自然

林に覆われている。ちょっとした露岩の突角や尾根の張り出しなど展望の良い所が多く楽しめる。西南から北東へ、柏原から石生、春日へと細長い地畝ながら、取り巻く平野へ突出した尾根からは周辺の丹波の山々が展望できる。秋は、黄金色に実る稲田が美しい。尾根筋には季節時、関西地方最大の群生地の一つヒカゲツツジの淡黄色の花が登山道の両側を彩る、起伏の多い魅力に富むコースである。

石生駅から正面の国道175号に突き当たり、左へ10分も北上すると、右手に大きな石燈籠が目に入る。この参道へ右折する。住宅街を歩き公民館前を通り、やがて、道が二分するあたりに「観音堂登山口・向山連山登山道」の小さな木の標識を確認して、これに従って観音堂への道に入る。

道は一気に直登する。標高2988mには「滝山古墳」の存在を示す看板があり、説明によると、昭和33年偶然発見された、古墳時代前期後半期(約1600年前)につくられた古墳と記さ

展望台(岩)から西方を望む



れている。ここが「二の山」である。「二の山」は麓山で砕石されてすでに無い。

三の山(470m)あたりから露岩が現れ、突出の展望台(岩)から下界の平野が望める。四の山(511m)から90度折れ、本稜線をたどるが、それぞれが小さなピークで、深坂北峰、向山三角点(569m)、五の山(591m)と道は上下起伏を繰り返す。



分水界



蛙子峰(552m)を過ぎて、紫雲山への分岐点から支尾根に入り、珪石山(537m)を控く。このあたりで丸く筒状に陥没する箇所を見かける。清水山(542m)には反射板が設置してある。

ここからは傾斜がきつい下り道。もろい岩盤がザレていて歩きづらい。剣爾山(413m)は三角錐の美しい形の山である。昔の人はこのような姿の山を「神奈備山」と言った。水分れ公園にある「船部神社」の御神体の山である。ここからは、午前中から歩いてきた山の稜線が一望できた。下り道には、いるか岩、博打岩、かめ岩、天狗岩など名前が付けてある。天狗岩は神社の盤座(神様が天から下りてこられる降り所)である。

鳳翔寺登山口に下り立って、高谷川の上流の水分れ公園に立ち寄り。

「日本一低い谷中央分水界」のここは、日本列島の背骨に当たる中央分水界が通っている所。ここに落ちた雨の一滴が二方に分かれ、一つは加古川

から瀬戸内海へ、今ひとつは支流から由良川、最後は日本海へ注ぐ(共に総延長70km)。

分水界は、奥向山の尾根が平地におりた所から、だいたい、高谷川右岸(北側)を通り、行者山の東端(新町)まで約125分の間、海拔1000m前後で分水界を形づくっており、日本一低い分水界として知られている。(平成20年8月31日歩く)

☆コースタイム☆

JR石生駅(10分) 観音堂登山口(20分) 二の山(滝山古墳)(20分) 三の山(20分) 四の山(30分) 向山三角点(15分) 五の山(20分) 観音堂分岐点(10分) 珪石山(10分) 清水山(15分) 剣爾山(30分) 鳳翔寺登山口(10分) 水分れ公園・船部神社(20分) 石生駅

△地形図▽
2万5千000 柏原

(問い合わせ先)
丹波市柏原町観光協会

☎0795(73) 0303

鳥羽三山

樋ノ山・日和山・城山

一般コース(★★★)
薮木 伸人

鳥羽市の市街地に、誰が呼んだのか「鳥羽三山」なる山がある。一番高い樋ノ山でも標高は1600m、日和山690m、城山は240m。三角点が設置されているのは、城山(四等・23・74m)だけだ。

その気になれば1日で廻れる三山だが、私と妻には美味しい海産物を食すという重大な目的もあったので別々の日に訪ねた。私達が出かけた順に紹介したい。

樋ノ山は、その南西にある1997・4mの相生山からのびた尾根の端に当

たる。北側の金刀比羅宮鳥羽分社が建つ斜面一帯は、扇野と呼ばれ、鳥羽の海と島々を望む景色は鳥羽十景の一つに数えられている。

解説板によると、昔、南禅寺の自然居士がこの地の水利を考え、寛を用いて沢水を導いたことから寛山の名が付けられたという。懸け樋の山、樋ノ山の山名になったのだろう。

神社から正面右手の溝道を登ると、140m付近に方形の石積みが残っている。灯台の跡だろうか。さらに尾根を登って稜線を乗り越した所を左にとれば、間もなく山頂に至る。

見晴らしはまずまずで、津や名古屋の町はもとより、三河湾の先には南アルプスと思しき山影をも認めることができた。条件が良ければ富士山も見えるかもしれない。

(平成10年1月25日歩く)

城山は、その名の通り城跡(鳥羽城跡)である。市役所の裏手にある案内板を見て石段を上る。石垣の先にある

切状壁となった。鳥羽駅を出ると、すぐに日和山案内図がある。昔、エレベーターがあった頃に訪れて以来だ。登り口に、日和山・賀多神社・常安寺への道標があったので、金で廻ろうと思った。

坂道を登り始めると、路傍にフタバアオイ・イズセリョウ、様々なシダが青々と茂り、山上には、ヤマトクタバナ・アベマキ・ツブラジイ・ホルトノキなどが見られて、豊かな植生の山となっている。

見晴台には、世界初の無線電話実用化を記念した発祥記念碑が立ち(地形図記載の地図記号はこれか)、その先の広場からは、多島海、鳥羽湾の眺めが



日和山の方位石

佳い。十二支名の刻まれた方位石や芭蕉の句碑(二重一つ見つけてうれし伊良子崎)もある。妻が「幸せの鐘」を鳴らすと思いのほか、大きく響いた。日和山最高所は鳥羽主水の岩跡で、その名も取手山。展望は無かったが、イロハモミジの黄葉が散り残っていた。イロハモミジの黄葉が散り残っていた。別方向に少しくだった展望広場(廣菜園)で、少し違う角度からの眺めを楽しんだ後、賀多神社方面に下山。民家の石垣に、ピンクの金平糖のようなポリゴナムやソシンロウバイが咲いていた。組み立て式能舞台がある神社に参り、九鬼氏菩提寺の臨濟宗常安寺を訪ねる。鐘楼、本堂、五輪塔、開慶堂、六地藏と見てから寺を後にし、鳥羽まちなみ文学館の裏を通って、昼ご飯を食べるために暖蔵をくぐった。

(平成20年1月5日歩く)

☆コースタイム▽
*短時間で登れるので挙げなかった。
△地形図▽
2万5千1鳥羽



樋ノ山・日和山・城山付近図

児童公園になっている二の丸跡で四等三角点に出会う。海側にセンニンソウの白い花が咲き誇っていた。鳥羽幼稚園下の細道を通って登り口に戻る。この日の昼食が一番よかった(大阪屋)。(平成19年9月2日歩く)

日和山には近鉄で出かけた。宮川の橋上からは、五十鈴川駅からは貝吹山、朝熊を過ぎると登川山と、前に登ったおなじみ山がよく見えた。二輛編成の正月臨時列車に乗っていたのは、ほとんどが内宮参拝客だったよう

樋ノ山から鳥羽湾展望(右下が城山)



天守閣跡は何と、鳥羽小学校の運動場になっている。一周しながら樋ノ山、鳥羽水族館、真珠島、船の往来などを眺め、写真を撮る。一段低い東の本丸跡に校舎が建っている。除草作業の人に話を聞けば、築八十年位だが史跡の上で再建できないので、移転が予定されているとのことだった。寂しいことだ。

絶好の展望台

岩神山

一般コース(★)
柴田 昭彦

JR六十谷駅の北方には、粗石山・札立山・飯盛山を巡るハイキングコースが縦横無尽にあつて、多くの人に親しまれている。

今回、紀ノ川が見晴らせる絶好の展望台として知られる岩神山へのコースを、最近、整備された鳴滝越の古道、直用観音の背後の観音尾根コースと組み合わせて歩く、手頃な回遊コースとして紹介してみたい。

六十谷駅で降りる。有功中学校の西側にある登山口へのコースは、自由自在にとれるが、巨木のある射矢止神社に立ち寄ってみよう。



岩神山付近図

山に向かう主要街道であった。地元の古老は六十谷道と呼んできたが今では、有功中学校に通じる道ということ、有功中道と呼ばれることも多い。やがて、切り通しを二カ所過ぎると、右に観音尾根への道が分岐し、その少し先で左に岩神山への道に分けるが、ここは、どちらもコースの後半で利用することにしよう。

六十谷道を北上する。やがて、右に滝谷尾根への道に分け、少し先で左に「札立山バス道」を分ける。このバス道に入る。登り着いたピークには、現地に「見返り山」の山名板があり、見嶋幸幸「和歌山県の山」(山と溪谷社、2006年)を始めとする現在のガイドにも、この山名で紹介されている。しかし、古いガイドブックを調べてみると、この山は以前には、「金剛童子山」の呼称で紹介されていたことがわかった(藤田元春「近畿の山々と史蹟巡り」博多成泉堂、昭和16年)(仲西政一郎編「近畿の山」山と溪谷社、昭和40年版)(関西ハイキングガイド)創元社、昭和41年第1版、昭和50年第3版、平成3年同版第23刷)(高田取編「中高年向き」の山100コースの山100コース関西編)山と溪谷社、昭和57年初版、平成7年改訂版4刷)。「見返り山」は俗

改札を出て、正面の道に入り、西へ進む。こんもりした森が見え、そこが目標の神社である。左に折れて、射矢止神社の境内に入る。幹の太さが1メートル以上の楠の巨木が五本もあり、荘厳な雰囲気漂う。神社の裏の神木が一番大きい。神社の説明では、射矢止とは伊弉比古の詠りで、伊弉比古(天香山命)だといふ。弥彦大神を天香山神(高倉下命)と同一視している。神功皇后が一言主神の言葉によって雄の姿で矢を射させたところ、その矢がこの地に止まったという故事がある。南側から降りて右に出て、すぐ右に折れて北に向かう。突き当たりを左に進み、次は右に出て北に歩く。狭い車道を横断してそのまま北上し、二回少し左にずれながら進む。突き当たりを左へ、細い道を歩く。

次で、このピークが無名であると思われるため、HP「シロウタンの山歩録」の管理人によって、場所の特定が必要から新たに命名されたものだということがある。管理人によると、平成5年前後頃に、奥辺峠付近で、登山者に「ガイドブックに載っている、見返れば自分の歩いてきたコースが見返れる場所はどこか」と聞かれたことがきっかけであったという(平成20年3月3日の管理人からのメールによる)。その後、奥辺峠の南方のピークで、大福山・雲山峰を見晴らせることがわかり、命名に至ったことである。ちなみに、小笠原諸島の兄島最高峰(254m)には、文久年間、幕府巡検隊が、展望良好という理由から「見返山」と命名している(小笠原学こととはじめ)南方新社、2002年、126頁)。

霊園の入口がある。そのまま上がって行き車道に出る。車に注意して横断し、正面の階段を上がる。ここが登山口である。

右に有功中学校を見て、2分幅ぐらいの山道を上がって行く。「ここは磐坂です(又はカツ坂)」という看板の所から右に上がる。この幅広の道はかつて、六十谷・大同寺から奥の院の大福

岩神山からの展望



では、336・7。岬町の2500分の1地形図（平成12年測量）では、333・8。平均値から言えば、336を採用するのが妥当と考える。

平成20年、金剛童子山の山頂では、経筒を納めていた壺（外容器）の須恵器片（紀伊風土記の丘の学芸員の鑑定によると鎌倉時代頃）が前述管理人によって採集されており、経塚があったことが判明している（平成20年5月20日の管理人からのメールによる）。

『紀伊国名所図会』卷之三（1811年）の記述によると、鳴滝不動の瀑より一里ばかり北、山の奥に、金剛童子の祠（金剛童子社）があるという。鳴滝不動から鳴滝峠経由で金剛童子山は、まさに4の位置にある。

金剛童子山の山頂で展望を楽しんだあと、礼立山方面に向かう。境界尾根を縦走すると、鞍部の鳴滝峠に着く。右をとれば、峠ノ谷をくだって、学校林小屋、岬町青少年の森を経て、淡輪駅に出られる。

鳴滝峠からは、左をとって、平成17

年頃、有志の手によってほぼ古道どおりに復元された鳴滝越の道をくだらう。道はササの生え込みが目立ち、いかにも最近開削されたかのような雰囲気。東にくだって行き、谷間に入ると、竹が倒れていて荒れた感じがする。石のガラ場がある。スチールの橋を渡ると、奥新池の少し下部の林道に出る。出てきた場所を振り返ると、ササのトンネルをくぐって来たことがわかる。その5分ほど下流に雑木橋の橋があるが、元の登山口である。

鳴滝越の道は、昭和50年頃までは、かろうじて利用者もあつたらしいが、その後、通行不能の標識が立ち、やぶ漕ぎの好きな人達やハンターを除くと、誰も通らないようになっていたという（前述管理人による）。

下り道には何ヶ所か丸太橋が設置されているが、朽ち始めている所もある。その場合、無理せず、川床に下りるなど安全には注意されたい。新池の堤に出て、ジョウベ谷（岩湧山・

紀泉高原 和泉山脈・友ヶ島 日地出版・昭和

和川年版の地図に記載された谷名）に沿ってくだる。途中、左に堰堤がある所の右手に不動尾根への登山口がある。

この「不動尾根」も、HP「ショウタンの山歩録」の管理人による命名である。別名を岩倉新道（尾崎弘幸「和歌山県の山」ともいう。開削者の名前から管理人が敬意を表して名付けたもの（平成20年3月4日の管理人からのメールによる）だが、岩倉氏は許可していないので、使わないのが礼儀である。

鳴滝林道が右岸から左岸に変わってほどなく、左手に「火の用心」という鉄塔巡視路の入口があり、「岩神観音」のプレートもある。

巡視路に入ると、ほどなく中腹をからむ道となり、やがて落ち葉を踏みしめる快い尾根道になる。鉄塔を過ぎると右に「六十谷・有功中学」への道に分けるが、尾根道を急登しよう。いったんくだって鞍部からもう一度急登すると、そこが岩神山である。

和歌山市の2500分の1国土基本

図「観音堂」によれば、岩神山の標高は240・2。見晴らしが良く、想うのに最高の場所である。この場所の南側直下に岩神観音があるのが山名の由来である。

岩神山から少し東に歩くと、道の北側に標高240・7のピークがある。北ピークまたは岩神東峯と俗称されている。倒れた桜の木を活用してつくった森の女神が設置されているが、ミスマツチだ。道の南側に下り道があって、少し下りて右へたどると岩神十一面観音を祀ったお堂が岩壁の前に建っている。



鳴滝峠

この観音は、古くから洞窟に祀られてきたが、明治4年に射矢止神社に合祀された。昭和26年に大同寺の住職によって岩神山に戻されて祠に祀られ、昭和42年にはお堂が建てられた。

平成7年の阪神淡路大震災で裏の大岩が落下して観音堂の屋根を直撃したが、奇跡的に観音様から逸れて無事であったという（詳しくは、HP「ショウタンの山歩録」の「岩神山と岩神観音縁起」の記事を参照）。その後、お堂は手入れがされず荒れ放題になっていったが、平成12年頃に整備されたので、今では訪れる人も増えている。

元の道に戻り、そのまま下降しても有功中学校へ出られるが、ここでは、登り返して縦走路に戻り、右をとって北東へ向かおう。鞍部から登り返してくだると、見覚えのある六十谷道（有功中道）に出る。正面の下り道は滝谷の沢道だが、道は荒れているのであまりお勤めできない。ここは、右に六十谷道を進む。少しだけ歩くと、左手に観音尾根コースへの入口があるので、これに入る。

最初のピークは観音山だが不明瞭だ。ほどなく分岐点で道標があり、左はアテナ尾根である。こちらでも麓に出られるが、展望が素晴らしいので右の

観音尾根をくだる。やせ尾根の鞍部から登り返すと、東側の展望が開けてくる。そこが東観音山と名付けられている地点である。ちょっと先に見晴台があつて南側に展望が広がっている。コースで最後の展望を楽しんだら、くだって行こう。

尾根をくだると登山口に出る。右へ少し行くと林道に出る。左にくだれば、千手川に沿う車道に出られる。帰り道、余裕があれば直川観音に立ち寄り、六十谷駅に向かうとよい。

（平成20年2月23日・3月16日・22日 歩く）

☆コースタイム☆
JR六十谷駅（10分）射矢止神社（20分）有功中学校（1時間20分）金剛童子山（20分）鳴滝峠（45分）巡視路入口（35分）岩神山（30分）東観音山口（50分）六十谷駅
△地形図△
2万5千：淡輪

川鶴被害の伊崎半島を歩く

伊崎山

初級向き(★) 金谷 昭

「樟飛び」で有名な伊崎寺が突端にある伊崎半島は、琵琶湖国定公園の景勝地にありながら訪れる人は少なかった。最近、川鶴被害林を植生復旧を契機にハイキングコースを整備し、大勢のハイカーが訪れるのを待っている。

半島入口にあるバス停「堀切新港」が登山口となる。登山口の案内板を見てすぐ分岐となり、右へ上がる急な道と分かれて丸太階段の遊歩道に入っていく。川鶴被害の著しかった植生が復旧され、展望の良い半島中腹を行くようになり、やがて小高い展望ポイントに飛び出す。

伊崎寺の樟飛び行場



展望ポイントから養殖イカダ



沖島を前にその奥に比良連峰がそびえ、琵琶湖を眺望する絶好の休憩地である。

展望ポイントから右(東)に鉄線をゆるやかに登って行くと、入口で分かれた歩道に出会う。ここからは幅の広い道をたどり、ゆるやかな上り下りを行くと分岐が出てくる。右は川鶴被害を見る伊崎山コース(伊崎寺まで約9

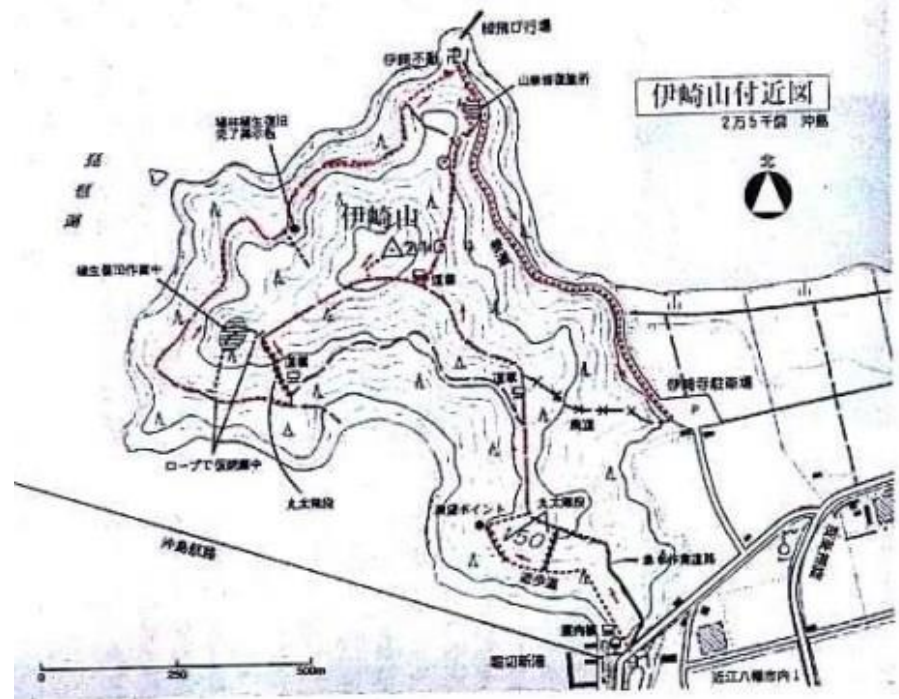
00m)、左は半島の湖岸沿いに奥まで行く周囲コース(伊崎寺まで約2.0)に分かれるが時間によって遊ばよ。

伊崎山コース

先の分岐を右(山側)に入り、ゆるくくだって登り返すと分岐となり、古い道標が立っている。右が伊崎寺への旧道(約250m)、左の伊崎山コース

伊崎山付近図

2万5千倍 沖島



をとり、ゆるやかな登りとなつて最高部の峠から右の森に入り、路跡を行くと伊崎山(210.4m)頂上の三等三角点が出てくる。

残念ながら周囲は樹林で展望は皆無。以前は激やぶで川鶴の白い糞、卵の殻や川鶴の取り落とした小魚の死体で悪臭が漂っていたが、現在は整備され、それほどでもない。時間が無ければ引き返し、伊崎寺への旧道をとればよい。

遊歩道に戻り、峠を越えてしばらく行くと分岐となり、左の丸太階段が遊歩道である。右は植林作業道で一応ロープで閉鎖されている。ここが半島の突端中腹の川鶴被害と共にカシノナガキタイムシによるナラ・シイ等の広葉樹の虫害が発生し、新たな問題となつてきている地域である。枯木林に変貌し、湖上からも濃緑の森林のなかに褐色を呈して、その異様さが容易に見てとれる。

現在、枯木を伐採して植生復旧の作業中である。苗木が矮小なため踏み付けられるおそれがあるため遊歩道から分岐する作業道は、ロープで閉鎖されて進入禁止となっている。苗木が活着し、大きく育つた際には遊歩道を設け、半島随一の展望ポイントとして開放される予定である。分岐の左の階段をくだって行くと先に分かれた周囲コースと合流する。

周囲コース

伊崎山コースと分かれて森林の山腹



沖島と比良連峰（半島突城中度の復旧作業地より）



伊崎山の三等三角点

を捲いて行くようなコースだが、木の間に越しに琵琶湖の展望が得られる。伊崎山コースと合流後、突端部を過ぎると途中に枯木植生復旧地域を右に見る。さらに山腹を捲いて行く。

山腹から極道が合流すると間もなく、伊崎寺の庫裏とポンプ小屋の狭い間を抜けて寺に飛び出す。なお、逆に周囲コースをとる際は入口がわかりにくいので要注意である。

伊崎寺は天台宗、比叡山延暦寺の支院で回廊行門別願道場として8月の第一日曜日に回廊行者の修行の一環として「樟飛び」行事が行われる。樟飛び現場は危険なので一般立入禁止となっている。

寺からは表参道を行き、山崩れ復旧箇所を過ぎ、山からくだってくる伊崎山からの旧道を見送り、25分程で湖岸道路に近い伊崎寺駐車場に出る。湖岸道路を右の国民休暇村方面に行けばバス停「堀切新港」である。

いずれのコースも家族向きで琵琶湖の眺望が楽しめるが、川瀬の異が果か

ら降ってくる場合があり注意を要する。時間に余裕があれば半島入口の堀切新港からの渡船（公営定期）で沖島廻りを加えるのも一興である。

（平成20年10月16日水）

▲コースタイム▲略

（交通） JR近江八幡駅から近江バス「国民休暇村」行きに乗車し、「堀切新港」下車（約30分）。

*マイカーの場合、湖岸道路の近くに伊崎寺駐車場がある。

△地形図▽

2万5千：沖島

（問い合わせ先）

林野庁滋賀森林管理署

☎077（544）3871

近江八幡市役所

☎0748（33）3111

近江バス

☎0748（33）3231

沖島渡船（富田）

☎0748（33）9614

やせらび

山に関する最新の情報を随時お寄せください。
1行15字詰め、30行程度です。原稿用紙下部に、
ご自分の会員番号・氏名をお書きください。都合により掲載できないことがあります。

題字 故小林政三

今年三度目の韓国山の山旅から帰ると新ハイ関西誌が届いていて、東京新ハイの前社長小林氏の計報が報じられている。

20年程前、私は一等三角点の山に熱中し始めていた。資料探しにバックナンパーを次々と購入していたが、ある時山行の帰途、新ハイ社に立ち寄ってみた。

「バックナンパーのあるだけ、無い号も何とか集められ

を持っておられた姿が目に残っている。

私の拙い文章にも目に留められ、「あそこは良かった」などの批評をいただき、嬉しかったことが思い出される。

関東方面に出かけた時は、何回も事務所立ち寄り、板橋駅前でも舟を御馳走になったこともあった。

その後、別冊「関西の山」が刊行され、私も関西版に移行して東京には御無沙汰したが、関東に出かけた時は立ち寄って、社長の元氣なお姿を拝していた。しかし、答る年波に勝てず、息子さんに譲られることとなった。

今春も事務所立ち寄った時には「元氣ですよ」と聞いていたが、100歳と聞き、私達の考えられない天寿を全うされたことに、ご冥福をお祈りすると共に、お祝いを申し上げます次第です。

（大東市 山形雄之）

昔の参謀本部の地形図5万：「四日市」に収録されている登城山（独標高）の検証。国土地理院が発行する最新版2万5千地形図には山名も標高も不掲載、それはなぜか？。彼岸も過ぎた秋の一日、四日市市南部丘陵公園の続きの山、懸案を解決したいと歩いてみる。

登城山の登り口は「日本冒険の森」と書かれた所。入口に立つ案内板には「頂上からセントレアが一望できます」とあり、期待を込めて尾根歩きを始める。薄暗い小道を上り下すること約20分。突然、断崖絶壁の上に着く。初めて伊勢湾が望まれ、眼下に密集した住宅団地が整然と広がる。手づくりの長椅子に腰を下ろし、小休止。

「セントレアが一望……」という頂上は、どうもこらしい。管制塔などが見えるかどうか、じっと眼を凝らした。

が結果はノー。また、古い三角点の標石とか針葉樹立樹の根株とか、旧図版記号の痕跡追求は全く無駄骨だった。

長椅子の頂上からさらに北へ尾根は続き、姿のよい次のピークが指呼に、我を呼ぶかと。草を分け尾を伝って着いたそのピークに、何と登山道の説明板が建っている。一説する。戦前の頂上は今よりもっと広く、付近一帯は観梅客が宴を聞くほどのたくさんの梅林があった。また、地元日水小学校の遠足には必ず登る展望の山だったとか。

疑問に思った地図上の変化は、戦後の軍用地払い下げと開発の経緯を伝えるものか。あと、竹やぶのなかをひたすらくぐり、西日野へ。

(伊賀市 高田榮久)

8月に、燕岳から徳本峠までの縦走を計画したので、その前にこれらの山々を見てお

こうと有明山と銀ノ峰に登ってきた。

案内本を見ると、「有明山は入山者が少ないので単独の入山はしないように」と書いてあるが、こんなことを言われると山はどこへも行けなくなってしまう。

中房温泉「有明荘」裏の無料駐車場に登山口がある。いきなりハシゴ・ロープが出てくる急登が始まり、急登は山頂まで続く。登山口の看板には「この登山道は整備されておらず、険しいので注意してください」と書いてあるが、緊所には真新しいロープが張られ、岩壁をへつる所にはクサリが張られ足掛かりになるピンが打ち込まれている。全山を針葉樹が支配する山で、後線に出てからは樹林のなか、シャクナゲ畑になっている。

山頂からは銀鬼岳から常念岳の大きな壁が目の前にずらり、この山も一日中独り占め

にしてしまった。

下山後、有明荘の温泉に入ると、100%掛け流しで600円だった。

銀ノ峰へは、銀鬼岳登山口からさらに約1.5ほど奥へ林道を入ると、登山口前に小広い駐車場がある。銀鬼岳登山口には五台の車が止まっていた、中房温泉の義勇登山口の賑わいに比べると寂しいものだ。

この山も結構な急登の連続で、広葉樹の山でササに覆われている。山頂からは銀鬼岳が大きく目の前、安曇野のグリーンがきれい、この山も独り占めだった。

8月の縦走開始当日は徳高町で前夜車中泊をした。徳高駅から車で8分位の市営「しやくなげ荘」横に登山者用の無料駐車場が用意されていて、中房温泉行きのバスも立ち寄ってくる。

徳本峠から下山後は、高々

からバス・電車・JRを乗り継いで徳高駅へ戻り、中房温泉行きのバス(最終は14時45分)で車を回収した。

徳高町には深夜到着になるのでしやくなげ荘は利用できず、暑くて車中泊が無理の時には近くのラブホテル泊を考えていたが、意外に涼しくよく眠れた。藤谷市 山形 明

9月13日、電車を乗り継いで、鞍馬を目指した。松阪から3時間で鞍馬駅に着く。近うて遠く参道を進み本殿に。その後、待望の山道に入る。オレンジ色のセンチコガネや朴の落葉に目を留めながら、コース最高地点の背比べ石へ。

● 徳高町の背比べ石と並び立ち別れは人の世の常と知る大杉樹現あたりの木の根道は正巻。生命の神秘。奥の院で休んでからは足早になり、昇道、西門にくだる。

● 木の根道下り来れば貴船物

聞くを持つ開鈴虫花見る川床を横に見て貴船の奥宮へ。

● 徒然に愛の形を思ひ用相生ふる杉連理の楓

貴船の高麗神に、後の日の晴天を願って拍手を打つ。昼飯を済ませ貴船口駅へ。駅手前で養蚕を見た。和泉式部が自分の魂かと読んだ養蚕の乱舞は、一度見てみたいものだ。

● 貴船川登を映す早瀬あり在りし面影浮かんで消え妻の希望で、飯山電鉄終点の出町柳あたりをぞろぞろ歩いた。

● 駅舎出て石燈道越す利那林風はらむ鹿の花姿

咲き初めた表の花に秋の訪れを感じた後、家路についた。

(松原市 藤木伸人)

9月27日、鳥取の大山に登った。

平成16年にも登ったのだが、天気があまり良くなかった。

雨は降らなかつたものの、景色が見えず、天気の良い日にもう一度登りたいと思つていたので。

今回は天気も上々で大変に気持ちのよい登山だった。高速料金の夜間割引を利用するため朝2時に神戸を出発し、登山口に6時頃に到着した。明け方で気温が上がらず寒く感じられたので、ウインドブレーカーを着てゆっくりと登り始めた。

山頂まで登りばかりで大変疲れた。しかし、ブナの森は本当に美しいと思え、六合目の避難小屋には8時頃、山頂には9時頃に到着した。

山頂は前回とは違い、遠くの景色もよく見え、宍道湖も眼下に見えて20分程じっと眺めていた。

その後、石室への道をゆっくりと歩きながら景色をさらに楽しんで。下りは、六合目を過ぎて元谷に向かい、大山

の大きな壁に感動した。大神神社と大山寺にも参拝し、神戸に帰った。

(神戸市 豊岡孝二)

10月上旬、兵庫県豊岡盆地の東に位置し、古くから但馬富士として知られる三開山(2022)へ登った。

本内バス停で全但バスを降り、瑞竜寺登山口から登り始めて頂上に到着。展望を楽しんだ後は神美小学校へ下山し、森尾口バス停へ出る一般的なコースをとった。このところ、身体が調子が良くないこともあり、標準コースタイム1時間に対し三倍以上を費やした。

しかし、登山とも「途中、さまざまな形をした石仏が十数におきかたられ、山行きを楽しくさせてくれる」ガイドブックとおどろいた。頂上では晴天の下、すばらしい展望が得られた。

前日に登った城崎の大師山

展望台にて目の前に見た来日岳を北方に遠望し、そこから西へ連なる山系、山麓に広がる豊岡盆地、さらに岡山川の美しい流れも見たのであった。

山頂は豊岡市指定文化財の三開城址であり、小公園風に整備されているのでゆっくりできたが、土曜日というのに、登山開始から下山まで誰一人にも会うことなく寂しい思いだった。豊岡市から注意されていた熊の出没に対処すべく、終始、熊ベルを鳴り響かせながらウオーキングしたのであるが、幸いにも全く問題なかった。

豊岡駅から利用した全但バスは岡山山大橋を通るものであり、橋の袂から三開山の美しい山容が眺められた。一昨年に山出石観光へ出かけた折も岡山山大橋を通っているのに、その時は三開山を認識していなかったのが残念だった。

ともあれ、これにて「ふるさと富士登山ガイド」(関西周

遊二(山と溪谷社、99年版)に記載されている51山中、44山に登頂を済ませたことになる。(枚方市 東谷 宏)

滋賀県湖南市の十二坊(二等三角点・405・1)はハイキングコースとしてあまり知られていない。

JR草津線甲西駅から北へ野洲川を渡り、花園集落から岩根山の花崗林道を登る。左の谷の斜面の絶壁に浮き彫りにされた巨大な石仏、高さ4・3mを誇る磨崖不動明王があり、その迫力に圧倒される。ここまで駅から約1時間。そして、ふるさと林道岩根線まで登り、大谷林道を十二坊まで登る。この林道からは一般登山道もある。駅から約2時間で十二坊の山頂に着く。麓の十二坊温泉と山中集落のひばりが丘台地にはバス停がある。

白山市の「しらやまひめ神社」(白山神社の本宮)に参拝した。

23日、北アルプス縦走の予定で行くが雨、槍平小屋で撤退した。槍平小屋の上で滑落事故あり、女性1人が亡くなった。

9月6・7日、例会は大雨で山に入らず中止。五箇山の高落葉山に向かうもこちらも雨で入れず。五箇山の裏山、高坪山に行き、7日は白木峰に行った。

13日、錫杖岳に行った。眺めは最高に良かったがきつい山で危険でもあった。行ったのは雨降で、北峰へはルートが崩れて行けなくなっているそう。ロープを使って危険な思いをしなければ北峰には行けないだろう。

14日、大嵐山に行った。道は無いかと思つたが踏跡があり、簡単に行けた。山林局の「次三角点」が山頂手前のピ

十二坊の山系は、竜王ゴルフ場の西奥谷越の道から林道がびびりて、尾根の横を十二坊まで続いている。中程のP385の近くには八大電

神(雨の神様、ナンダ・ハツナンダ・シヤガラ・ウシユキツ・トクシヤガ・アナバダツク・マナス・ユウバラ、シヤカの花巻の会堂に列した護法八人の石碑があり、山麓の正福寺の人達の雨乞いの持さんである。十二坊の北、山中集落に張り出した尾根先端の岩の上に岩が乗り、笠の形をした笠岩があつて大バノラマが展開する。その下には山中の人達が雨乞いしたという祠が岩の上に祭られている。山中の閉地の横からは古い山道が尾根まで続いている。

花園から磨崖不動明王、十二坊、八大電神、笠岩、山中へと這るコースは日帰りでもゆっくりと十二坊山系が楽しめる。特に八大電神と笠岩ル

ートは人に知られていない特別ルートである。

鶴い合わせ) 湖南市観光物産協会 ☎0478(71)2331 (近江八幡市 岩野 明)

本誌でおなじみの須磨園さんが実業五〇名山選定委員会長に就任され、最高峰の水ノ山三ノ丸(1464)から最低は南山(431・1)までの厳選された「実業五〇名山」を発表された。登山スタンプ台帳も用意され、完全踏破者には認定書と記念品が贈られる。多くの登山者に実業市に来てもらい、地元活性化を期待している。詳細は☎07901(63)13066へ。

丹波市観光協会から「丹波市中央分水界の程、雲海の程、五台の怪トレッキングマップ」が地元の出発愛好家たち

の協力で二千部発行された。一部300円。原色地形図使用だから非常に見やすい。詳細は☎66913396丹波市柏原町柏原1番地(丹波市観光協会) ☎07951(72)12340まで。

(大阪府 慶任次盛二)

8月10日、荒島岳の隣の軽ヶ岳に行くも、暑さで時間がかかる。途中の保月山には三角点、杓子岳には樹根点があった。

13日、神岡の天蓋山に行つたが、北アルプスはガスで見えなかった。14日、寺地山に向かい、3時間で山頂。くま淵峠と寺地山には山林局の三角点があり、山頂が主三角点、くま淵峠が補点だった。補点は初見。しかし、国土地理院の三角点は無かった。15日、石川島の一等宝連山と奥天王子山に行つた。初りに

1クにあつた。

20日、台風の前で笹ヶ峰は中止。福井市内の足羽山と佐々木小次郎の故郷、権現山を訪ねた。カリガネソウ・アキギリ・ツリフネソウ・キツリフネがきれいだった。

28日、願教寺に刈込池から行った。4・5時間の予定が登りでも時間もなかった。

10月4日、赤死山に例会で行く。大長山へも一部の方が行った。紅葉は山頂部がきれいだった。

5日、岩野さんの例会で御池岳(鈴北岳・茶野)へ行くも小雨。ここでもカリガネソウが見られた。3年前とは生育場所が変わっていた。

11・12日、風阻三山に行った。朝方の雨もやんで二日間共見晴らしは良く、紅葉とあいまって今年最高の山となった。(海津市 山田明男)

9月14日、女2人で北アル

プスの錫杖岳に登って来ました。武蔵さんと2人で、主人らが登つた翌日に行つた。前日の様子を主人らが泊まった宿で詳しく聞き、ルートを確認した。

岩場への道を登つてしまい、岩登りをしている人の真下を通ることになったが、聞いていたルートに出られたので、ササと草の踏み倒された跡をたどり、尾根の鞍部に出られた。後は多くのテープと踏跡をたどるだけ。時間は私たちが早く、20分程早く山頂に着けた。下山も早く、9時間で往復できた。主人らは10時間かかったそう。

山頂はガスで服下の鳥帽子岩など、多くの岩塔は見れなかった。雨も無く、わりと簡単に登れたので、景色は見せて貰えなかったのだろう。主人らは小雨のなかを苦労したから、山頂で雨も止んで槍・穂高は見られなかったものの、

服下の景色がきれいに見られたそう。

危険な山だが、ロープを使うことの無いルートを見つけてくれたお陰で行けました。主人らに感謝です。(海津市 山田妙子)

山行計画
(1・2月)

※マイカー利用
※マイカー利用

山行計画には、「全員に回る」と特定してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ(未婚は一括)往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を連絡のうえ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みもお断りします。

「実費費用」のはかに、本部の山行運営費として4000円をお支払いください。申し込み後参加できなかった場合は必ず申込み先に連絡してください。体調の悪い方、幼児と遊び入りはお断りします。なお、例会の参加者全員に傷害保険が掛けられています。出発直時の際、係に保険料日額50円と救護対策費日額50円合計1000円(後行日取りの場合は2日に1000円)を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。(損害保険ジャパンと提携)

- ・死亡・後遺障害保険 金額 1000万円
- ・入院保険金 日額 5000円
- ・通院保険金 日額 3000円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までには申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行。②スキー使用の山行。③沢・川・水質登山を目的とした山行。④凍結道場内の事故。⑤純元の場合(詳細は本部まで)

(記入例)
(往復ハガキを使用)

例会申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所

氏名

会員番号 (会員でない方は会員外と記入)

血液型

電話番号・FAX番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL (山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所・氏名に「様」と必ず記入しておいてください。

山行計画の実施と申し込みについて

① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので必ず実施日の7日前までに、「往復ハガキ」にて申し込みください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があるかもしれません。また、山ではいかなる事態が発生するかわかりません。緊急時の連絡先、および生年月日必ず記入してください。

② 返信の山行案内は、実施日の10日前頃にします。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはつきりしないからです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込みされた方はそれまでお待ちください。

③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに連絡します。お断りが無い場合は、定員枠に入っているものと判断ください。

④ 山行のグレードは、次の5ランクに決めています。

- (初級向き) 初心者でも安全に歩けるコース (3〜4時間コース)
- (一般向き) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山 (5時間コース)
- (中級向き) かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース (6〜7時間コース)
- (上級向き) 距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉やぶ滑ぎの連続など、ハードなコース (7時間以上)

⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜(17時発表)に当地の気象情報を確認し、返信案内の判断基準の降水確率を見て各自で判断ください。係から連絡はしません。降州山行の嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まれないようお願いいたします。

1月	行先	定員	リーダー
4日	南勢・相模連山山頂ヶ嶺	25	村田
11日	関西・大谷山	21	森脇
13日	鈴鹿・入道ヶ原スモトリコバ	*	岩野
17日	京都北山・牛松山保津峡		特谷
17日	敦賀・葦原山		高島
17日	京滋・岩間山・腰間寺		金谷
17日	京都北山・天ヶ岳・亀ヶ岳		村田
17日	美濃・相戸岳	20	岩見
18日	金剛・伏見峠・葛木岳		村田
20日	美濃・権現山	10	山田
22日	京都東山・第12峰・第19峰	23	特谷
23日	紀伊・桶尾山・三國山	26	西上
24日	平陀・日張山		村田
24日	紀伊・八鬼山・南岳峠	16	植川
25日	山城・サイクリング・嵐山殿築		山口
25日	美濃・天狗ヶ城・松平土	10	森脇
25日	鈴鹿・熊ヶ崎(お脚所平)	*	岩野
27日	京都北山・花折峠・ミタニ山		村田
28日	紀伊・雲山峠・塩石山	26	西上
28日	美濃・貝月山	20	岩見
28日	比良・蛇谷ヶ崎・富坂尾根		家
28日	京都東山・第20峰・第27峰	23	特谷
28日	湖北・山本山・鎌ヶ岳	24	村田
28日	北神戸・雄岡山・雄岡山		阪上
28日	紀伊・真善山・牛頭山	25	村田
28日	鈴鹿・豊仙山・西尾根	*	岩野
28日	大阪・釜し巻・天保山・昭和山		金谷
28日	湖南・飯道山		村田

2月	行先	定員	リーダー
3日	京都北山・地蔵山・保津峡		仲谷
5日	美濃野・白石岳・セト山	26	西上
7日	比良・西雨野・武蔵ヶ岳	25	村田
7日	美濃・笠ヶ岳	*	高島
8日	山城・サイクリング・嵐山殿築		山口
8日	湖南・阿栗山	24	森脇
8日	美濃・天狗ヶ城・松平土	10	山田
8日	鈴鹿・熊ヶ崎(お脚所平)	*	岩野
8日	京都北山・花折峠・ミタニ山		村田
11日	紀伊・雲山峠・塩石山	26	西上
12日	美濃・貝月山	20	岩見
14日	比良・蛇谷ヶ崎・富坂尾根		家
15日	京都東山・第20峰・第27峰	23	特谷
17日	湖北・山本山・鎌ヶ岳	24	村田
21日	北神戸・雄岡山・雄岡山		阪上
21日	紀伊・真善山・牛頭山	25	村田
21日	鈴鹿・豊仙山・西尾根	*	岩野
22日	大阪・釜し巻・天保山・昭和山		金谷
27日	湖南・飯道山		村田

*各計画の概要はホームページ以降に紹介している。

冬期(1、2月)の登山道は積雪があり、凍結しています。各山行計画に特記してなくても、ロングスバツツ・軽アイゼン・輪カン・ストックかピッケル・サンングラスなどの雪山を歩く装備は、まった手袋・下着・靴下は防寒・防湿層のもの、登山靴は防水してからお出かけください。
*降水確率が高くて、雪の予報の場合は実施することがあります。
(計画変更あり)

南勢
相模浅間山から局ヶ頂
(一校向き)

1月4日(日) 日帰り **1校向き**
集合 J.R.京都駅八条口団体バス
行先 京都駅(バス)相模口
相模浅間山(局ヶ頂)

「(往路)一分岐」 坂部コース(相模口)バスター
費用 約3000円(京都駅からバス代)
地図 2万5千:相模湖
集合 610-0121
行先 相模浅間山(局ヶ頂)まで

近江の山シリーズ17
湖西・大谷山(二校向き)

1月11日(日) 日帰り **1校向き**
集合 J.R.京都駅八条口団体バス
行先 京都駅(バス)マキノ
高塚 寒風山 大谷山
石壁 マキノピッケ

ランド(バス)京都駅(解散場所)
費用 約3000円(京都駅からバス代)
地図 2万5千:瓢箪口・海津
集合 610-0121
行先 相模浅間山(局ヶ頂)まで

鈴鹿を歩く302
入道ヶ原・スモトリコバ
(二校向き)

1月11日(日) 日帰り **1校向き**
集合 国道421号線水原寺
行先 段場(車)佐目・高尾
路・カクレツツ西尾根
P746(入道ヶ原)スモトリコバ

費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・高橋・伊吹」
集合 610-0121
行先 相模浅間山(局ヶ頂)まで

火曜ハイク40
京都北山
牛松山から保津峡
(二校向き)

1月13日(火) 日帰り
集合 J.R.亀岡駅8時30分
行先 亀岡駅(バス)門前
愛宕神社 牛松山
北尾根(バス)保津峡

駅(解散場所)
費用 交通費各自
地図 2万5千:亀岡・京都西北
集合 610-0121
行先 相模浅間山(局ヶ頂)

秋賀の山
旗霞山(初級向き)

1月17日(土) 日帰り
集合 J.R.秋賀駅9時00分
行先 秋賀駅(車)関崎
旗霞山(初級向き)

城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
費用 交通費各自
地図 2万5千:京都東南
集合 610-0121
行先 城陽市寺田大野10の10

1月17日(土) 日帰り
集合 J.R.石山駅前京阪バス

費用 交通費各自
地図 2万5千:京都東南
集合 610-0121
行先 城陽市寺田大野10の10

新ハイキング関西まで
費用 交通費各自
地図 2万5千:京都東南
集合 610-0121
行先 城陽市寺田大野10の10

1月17日(土) 日帰り
集合 J.R.京都駅中央改札口

費用 交通費各自
地図 昭文社「京都北山」
集合 610-0121
行先 城陽市寺田大野10の10

費用 約4500円(大塚駅からバス代)
地図 2万5千:下洞戸
集合 504-0828
行先 各務原市藤原村雨町1

1月17日(土) 日帰り **1校向き**
集合 J.R.大塚駅9時00分
行先 大塚駅(バス)白山神社

費用 交通費各自
地図 昭文社「京都北山」
集合 610-0121
行先 城陽市寺田大野10の10

金剛・伏見峠から葛木岳
(一般向き)

1月18日(日) 日帰り
集合 近鉄御所駅9時00分
行程 御所駅(タクシー)・菩提寺→伏見道→伏見峠→ピクニック広場→湯出岳→葛木岳→因見城跡→セト→青崩道→葛城登山口(バス)・富田林駅(解散17時頃)
費用 約1500円(タクシー・バス代)
地図 昭文社「金剛・葛城・紀東高原」
係 ○村田智俊
申込 〒610-0121 城陽市寺田大野10の10 村田智俊まで

伏見道から伏見峠へ登り、湖水の金剛山を羨しむ。下山はセトから青崩道をくだります。雨天中止(雪決行)

展望の山笠
茶湯・権現山 (一般向き)

1月18日(日) 日帰りマイカ
集合 JR西岐阜駅8時00分
行程 西岐阜駅(車)・寺尾ヶ原千本桜→権現山→(往路)→寺尾ヶ原千本桜(車)・西岐阜駅(解散)
費用 交通費各自(車代等)200円
地図 2万5千岩佐
係 ○山田明男
申込 〒503-0535 海津市南濃町松山62の19 山田明男まで
*定員10名程度

今年から岐阜の山を中心に登ります。時間があれば西の汾陽寺山にも行きましょう。岐阜には多くの権現山がありますが、今回は武芸用町の山です。雨天決行

火曜ハイク50
私の東山35峰(第3回)
第12峰・第19峰 (一般向き)

1月20日(火) 日帰り
集合 「北白川」バス停9時30分
行程 北白川バス停→吉田山→紫雲山→神明山→大日山→南禅寺山→若王子山→樺ヶ峰→大豊神社(解散16時頃)
費用 交通費各自、資料代100円
地図 1万国土地理院「京都御所」
係 ○仲谷礼司○沖 伸
申込 〒610-0121 城陽市寺田大野10の新ハイキング関西まで
*定員23名(全員に限り)

低山歩きですが、神社巡りもありますので変則な歩き方になります。14峰は前回済んでいます。雨天中止

紀東・横尾山から三国山
(一般向き)

1月22日(木) 日帰りマイカ
集合 近鉄富田林駅北出口8時55分
行程 富田林駅(バス)・桜の辻→地福寺→十五丁石地蔵→千本杉峠→三国山→七越峠→鍋谷峠(バス)・富田林駅(解散15時)
費用 約2800円(バス代)
地図 2万5千岩湯山・内畑
係 ○西上利和
○前川和佳子
申込 〒610-0121 城陽市寺田大野10の新ハイキング関西まで
*定員26名

西国三十三所第四番札所である知られる地福寺から旧の西国巡礼道をとどり、三国山までゆっくり歩きます。雨天中止

金剛里山ハイキング13
宇陀・日張山(初級向き)

1月23日(金) 日帰り
集合 JR・近鉄桜井駅南口9時40分
行程 桜井駅(バス)・宇賀志→青蓮寺→分岐→日張山→宇賀志区消防会館→宇賀志(バス)・桜井駅(解散15時30分頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千高見山・古市場
係 ○村田智俊
申込 〒610-0121 城陽市寺田大野10の10 村田智俊まで

山頂からの展望は期待できないが、中将姫ゆかりの青蓮寺から日張山へ登る。下山は尾根道をたどる。雨天中止

三重の山1001
紀南・伊勢路を歩く
八鬼山・三木峠・羽後峠・南母峠(やや難脚向き)

1月24日(土)・25日(日) 泊2日
集合 (24日) JR尾鷲駅10時40分 / (マイカー) 熊野古道センター11時40分
行程 (24日) 尾鷲駅(タクシー)・熊野古道センター→登山口→林道出合→荒神岳→八鬼山→三木里海岸→民宿「昭志野」(他)
(25日) 民宿→三木峠登り口→三木峠→羽後峠→賀田駅→南母峠登り口→南母峠→二本島駅(電車)・尾鷲駅(解散)
費用 約8500円(宿泊代等)
地図 2万5千尾鷲・賀田

熊野古道の三コースを2日間かけてたどります。展望良。雨天決行

サイクリングと登山
山城
自転車専用道と鹿背山

1月25日(日) 日帰り
集合 JR木津駅9時00分
行程 木津駅(サイクリング)→鹿背山登山口(駐輪)→鹿背山→鹿背山登山口(サイクリング)→本津駅→玉水橋→山城大橋→玉水橋→木津駅(解散16時頃)
費用 交通費各自(サイクリングは保険対象外)
地図 2万5千奈良・田辺

鈴鹿を歩く303
樹木の綿向山・電王山
(やや難脚向き)

1月25日(日) 日帰りマイカ
集合 西明寺バス停8時30分
行程 西明寺バス停(車)・木津林道奥の平→行者コバ→綿向山→北峰→雪原→電王尾根分岐→電王山→西明寺バス停(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・靈

仙・伊吹
○岩野 明○山田景三
○後藤康幸

申込 〒610-0121
城陽市寺田大町10の10
新ハイキング関西まで
毎年恒例の真冬の純向山山
行です。小雨(雪)決行

大峰・観音峰山(二較向き)

1月29日(日) 日帰り 11時00分
集合 近鉄橿原駅前中央
口8時05分
行程 橿原駅前(バス)
観音峰山登山口(バス)
面観音(観音平展望台)
観音峰山(往路)
観音峰山(戻り)
橿原駅前(バス)
解散16時30分

費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千・弥山
係 ○西上利和
○前川和佳子
申込 〒610-0121

城陽市寺田大町10の10
新ハイキング関西まで
*定員25名(会員に限定)
*定員20名(申込状況
により減員あり)
伊吹北尾根の国見岳に越冬
期に登ります。
*スノーシューまたは輪カン
必須。雨天中止

自修登山行262
スノーハイキング
美濃・国見岳(中較向き)

1月31日(日) 日帰り 11時00分
集合 JR大垣駅9時00分
行程 大垣駅(バス)国見岳
スキー場(バス)国見岳
スキー場(バス)国見岳
国見岳(バス)国見岳
国見岳(バス)国見岳
国見岳(バス)国見岳
解散16時30分

費用 約4500円(大垣駅
からバス代)
地図 2万5千・美濃・関ヶ
原
係 ○鷺見守康
申込 〒504-0828

各務原市藤原村雨町1
の19の5
鷺見守康まで
*定員20名(申込状況
により減員あり)
伊吹北尾根の国見岳に越冬
期に登ります。
*スノーシューまたは輪カン
必須。雨天中止

火曜ハイイク51
愛宕山シリーズ19
地蔵山から保津峡

2月3日(火) 日帰り
集合 JR八木駅8時31分
行程 八木駅(バス)越畑口
一見見峠(地蔵山)社
務所(保津峡)解散
16時00分

費用 交通費各自
地図 昭文社・「京都北山」
係 ○仲谷礼司○沖 伸
申込 〒610-0121
城陽市寺田大町10の10

新ハイキング関西まで
例年雪の多い奥愛宕で今年
も楽しみましょう。雨天中止

奥高野・白石岳からセト山
(二較向き)

2月5日(日) 日帰り 11時00分
集合 近鉄富田駅前北出口8
時05分
行程 富田林駅(バス)出屋
敷峠(白石岳)セト山
一ヶ峠(紀相トシネ
ル(バス)富田林駅
(解散16時00分)

費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千・狭谷野水池
係 ○西上利和
○前川和佳子
申込 〒610-0121
城陽市寺田大町10の10
新ハイキング関西まで
*定員25名(会員に限定)
山頂からの眺望は望めませ
んが冬枯れの雑木根を暖走
し、奥高野の里山を楽しませ

す。雨天中止

比良・西南稜から武奈ヶ岳
(中較向き)

2月7日(日) 日帰り 11時00分
集合 JR京都駅八条口団体
バスのりば7時40分
行程 京都駅(バス)坊村
御殿山(バス)坊村
南稜(武奈ヶ岳)一往
路)一坊村(バス)京
都駅(解散16時00分)

費用 約3000円(京都駅
からバス代)
地図 昭文社・「比良山系」
係 ○村田智俊
申込 〒610-0121
城陽市寺田大町10の10
村田智俊まで
*定員25名(会員に限定)

冬の西南稜は霧水が美しい。
坊村から武奈ヶ岳への御殿山
コースを往復する。
雨天中止(雪決行)

養老の山
笠ヶ岳(二較向き)

2月7日(日) 日帰り 11時00分
集合 養老公園9時00分
*電車の方は近鉄養老
駅から15分
行程 養老公園(もみじ峠)
笠ヶ岳(往路)一養
老公園(解散)

費用 交通費各自
地図 2万5千・養老
係 ○高島伸浩
申込 〒610-0121
城陽市寺田大町10の10
新ハイキング関西まで
養老山地の雪山を楽しもう。
雨天決行

サイクリングと登山
山頂
自転車専用道と嵐山散策
(二較向き)

2月8日(日) 日帰り
集合 近鉄新田辺駅9時00分

新田辺駅(サイクリン
グ)一自転車専用道
(平田)一山城大橋(流
れ橋)御幸橋(伏見酒
蔵めぐり)松尾橋(嵐
山(往路)一嵐山散
策(サイクリング)一
(往路)一)新田辺駅
(解散16時00分)

費用 交通費各自(サイクリ
ングは保険料別)
地図 2万5千・田辺・宇
治・淀・京都西南部
係 ○山口敏明
申込 〒518-0755
名張市緑が丘中144
山口敏明まで
本津川沿いの自転車専用道
路(平田)を京田辺・嵐山間
を往復して楽しみ、静かな嵐
山を散策します。時間があれ
ば伏見酒蔵見学をします。
*MTBレンタル(3000円
は2名まで。雨天中止

近江の山シリーズ
湖南・阿曇山(二較向き)

2月8日(日) 日帰り 11時00分
集合 JR京都駅八条口団体
バスのりば9時00分
行程 京都駅(バス)長寿寺
山(往路)一長寿寺
(バス)京都駅(解散16
時00分)

費用 約3000円(京都駅
からバス代)
地図 2万5千・三雲
係 ○森脇貞義
申込 〒610-0121
城陽市寺田大町10の10
新ハイキング関西まで
*定員24名
じゆらくの里の長寿寺から
林道をたどり、阿曇山を往復
する。「展望の峰」からの眺
望はすばらしい。
雨天中止(雪決行)

夏望の山53
美濃・天狗ヶ城と松平土
(一般向き)

2月8日(日) 日帰り
集合 1R西岐阜駅8時00分
行程 西岐阜駅(車) 山県市
御所神社―天狗ヶ城―
松平土―(往路)―御
岳神社(車) 西岐阜駅
(解散)
費用 交通費各自(車代等1
500円)
地図 2万5千 谷合
係 ○山田明男
申込 〒50310535
海津市南邊町松山62の
19
山田明男まで
*定員10名程度
舟伏山の南に位置する山。
低山(約700m)なので雪
があっても大丈夫でしょう。
雨天決行

鈴鹿を歩く303
真冬の熊登ヶ峰(或西平)
(やや難脚向き)

2月8日(日) 日帰りマイカ
集合 結河越川橋広場8時30
分
行程 その日の天候・雪の状
態によっていずれの山
か集合地にて決めます。
*いずれの行程もいつ
も歩くルートを予定
費用 交通費各自
地図 昭文社(御在所・雲
仙・伊吹)
係 ○岩野 明○山田景三
○後藤康幸
申込 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
どちらに登っても、真冬の
広大な雪原の尾根がのんびり
楽しめます。
小雨(雪)決行

京都北山歩き130
花折峠からミタニ山
(一般向き)

2月11日(祝) 日帰り
集合 京阪出町柳駅バスター
ミナル7時40分
行程 出町柳駅(バス)花折
峠―花折峠―P62
4―ミタニ山―県地尾
根―三谷林道入口―小
出石(バス)地下鉄国
際会館前(解散17時15
分)
費用 約1500円(バス代
別)
地図 昭文社(京都北山)
係 ○村田智俊
申込 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
村田智俊まで
花折峠から北に掛子山を望
みながら歩く。ミタニ山は8
12日のピークで冬は雪の平
原となる。下山は県地尾根を
くだる。雨天中止(雪決行)

紀伊・雲山峰から旭石山
(一般向き)

2月12日(水) 日帰り 日切バス
集合 近鉄富田林北出口8
時55分
行程 富田林駅(バス)山中
溪駅―第一バノラマ台
―雲山峰―井筒峠―法
法ヶ原―大福山―旭石
山―鳥取池(バス)富
田林駅(解散17時30
分)
費用 約2900円(バス代
別)
地図 2万5千 岩出・淡輪
係 ○西上利和
○前川和佳子
申込 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
*定員26名
気軽に登れる低山ハイイクで
展望もよし。一等三角点の旭
石山まで足をのびします。
雨天中止

自然観察山行262
美濃・貝月山(中級向き)

2月14日(土) 日帰り 日切バス
集合 1R大垣駅9時00分
行程 大垣駅(バス)掛斐高
原スキー場坂内ゲレン
デホテル駐車場―ふれ
あいの森ゲート―貝月
山登山口―貝月山―日
越峠―貝月山登山口―
ふれあいの森ゲート―
坂内ゲレンデ(バス)
大垣駅(解散)
費用 約4500円(大垣駅
からバス代等)
地図 2万5千 横山・美東
係 ○鷺見守康
申込 〒50410828
各務原市蘇原村雨町1
の19の5
鷺見守康まで
*定員20名(申込状況
により減員あり)
恒例の越冬期の貝月山です。
スノーシューまたはワカン必

比良を歩く72
蛇谷ヶ城から富坂尾根
(中級向き)

2月15日(日) 日帰り
集合 1R近江高島駅9時00
分
行程 近江高島駅(バス)畑
―林道登山口―ボボフ
グ峠(須川峠)―蛇谷
ノ頭―P752―蛇谷
ヶ峰―標高8171―
造林公社営林地看
板―富坂尾根分岐―標
高4751―蛇谷環
堤―玉津島神社―富坂
口バス停(解散16時30
分頃)
費用 約2100円(京都か
ら)
地図 2万5千 比良山(昭
文社)「比良山系」
係 ○秦 康夫
申込 〒61010121

城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
富坂尾根の輪カンくんだり
が楽しみです。積雪状況によっ
ては途中から引き返す場合も
あります。雨天中止

2月17日(火) 日帰り
集合 八坂神社・四条側朱徳
りの楼門下9時30分
行程 円山―知恩院―長楽寺
―双林寺山(双林寺)
―東大谷山(本願寺祖
廟)―高台寺山(高台
寺)―正法寺―雲山―
長楽寺山―南禅寺山―
栗田山―栗田神社(解
散15時30分頃)
費用 交通費各自、資料代1
00円
地図 1万 国土地理院(京
都御所)

◎仲谷礼司○沖 伸
申込 〒61010121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
*定員23名(会員に限る)

2月21日(土) 日帰り 日切バス
集合 1R京都駅八条口南体
パスのりば7時40分
行程 京都駅(バス)山本山
登山口―山本山―P3
60・4―賤ヶ岳―国
民宿舎余呉湖荘(バス)
京都駅(解散18時頃)
費用 約3000円(バス代
別)
地図 2万5千 木之本・竹
生島
係 ○狩野東彦
申込 〒61010121

火曜ハイイク52
私の東山36峰(第4回)
第20峰―第27峰(一般向き)

2月17日(火) 日帰り
集合 八坂神社・四条側朱徳
りの楼門下9時30分
行程 円山―知恩院―長楽寺
―双林寺山(双林寺)
―東大谷山(本願寺祖
廟)―高台寺山(高台
寺)―正法寺―雲山―
長楽寺山―南禅寺山―
栗田山―栗田神社(解
散15時30分頃)
費用 交通費各自、資料代1
00円
地図 1万 国土地理院(京
都御所)

週末ハイイク89
湖北・山本山から賤ヶ岳
(一般向き)

2月21日(土) 日帰り 日切バス
集合 1R京都駅八条口南体
パスのりば7時40分
行程 京都駅(バス)山本山
登山口―山本山―P3
60・4―賤ヶ岳―国
民宿舎余呉湖荘(バス)
京都駅(解散18時頃)
費用 約3000円(バス代
別)
地図 2万5千 木之本・竹
生島
係 ○狩野東彦
申込 〒61010121

城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
*定員24名
雪の湖北のゆるやかな里山
を歩きます。雨天中止

北神戸・雄岡山と龍岡山
(初級向き)

2月21日(日) 日帰り
集合 神戸電鉄緑が丘駅10時
00分
行程 緑が丘駅→雄岡山→神
出原山→龍岡山→愛
宕山→志保駅(解散)
費用 交通費各自
地図 2万5千・東二見・三
木・淡河
係 ○阪上義次
申込 〒574-0017
大東市津の辺町9-15
阪上義次まで
一等三角点のある山を歩き
ます。雨天中止

紀州・真美山と牛廻山
(二級向き)

2月21日(日) 22日(日)
集合 (21日) 近鉄上本町駅
1泊2日 近鉄バス
8時10分
行程 (21日) 上本町駅(バ
ス)→丹生神社(バス)
山野→農道終点→真美
山→大滝川森林公園
(バス)→御龍神社(バス)
美山温泉「愛徳荘」
(泊)
(22日) 美山温泉(バ
ス)→牛廻山→牛廻山
(往路)→牛廻山(バス)
榎原神宮前駅(解散18
時頃)
費用 約18000円(宿
泊・バス代)
地図 2万5千・御坊・吉
井・重里
係 ○村田智俊
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10

村田智俊まで
*定員25名
日高宮上の真美山は丹生郡
姫神が降り立った山。芝生の
山頂からは眺望抜群。2日に
に千支の山、牛廻山を訪ねる。
雨天決行

鈴鹿を歩く304
真冬の雲仙山西南麓
(やや難所向き)

2月22日(日) 日帰りマイカ
集合 河内線甲頭倉入口広場
8時30分
行程 甲頭倉入口広場(車)
落合→汗ふき峠→雲仙
山→最高峰→西南麓
→笹野→今堀(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「一柳在所・雲
山・伊吹」
係 ○岩野 明 ○山田景三
○後藤康幸
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10

新ハイキング関西まで
毎年恒例の真冬の雲仙山。
樹氷と雪庇の西南麓根をのん
びり楽しみます。セツブンソ
ウとフクジュソウは咲いてい
るでしょうか。小雨(雪)決行

北山ちよと歩き106
大隈渡し舟めぐり
天保山と昭和山(初級向き)

2月25日(木) 日帰り
集合 JRゆめ咲線桜島駅9
時00分
行程 桜島駅(天保山渡し)
天保山(其兵衛渡し)
千歳渡し) 昭和山(雷
台上渡し)→千本松渡し
→船町渡し→木津川渡
し) 南港ポートタウン
線平林駅(解散)
*渡し場間の移動は省
略
費用 大阪市営交通一日券8
50円(市バス・地下
鉄共通)各自購入

地図 2万5千・大阪西南部
係 ○金谷 昭
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
水の都、大阪市は以前は三
十一ヶ所の渡し舟がありまし
たが、現在は八ヶ所となり、
大阪市が渡船運行しています。
従って渡し舟は市道の一部な
ので人と自転車は無料で渡し
ます。八ヶ所のうち七ヶ所を
市営交通一日券を利用して歩
きます。途中、日本最底の山
天保山と地下鉄工事の発生土
による昭和山にも登ります。
雨天決行

金剛山ハイキング14
湖南・飯道山(二級向き)

2月27日(金) 日帰り
集合 JR貨生川駅9時40分
行程 貨生川駅→飯道山→左
羅坂→杖ノ権現休憩所
→飯道山→飯道神社→

紫香菜宮跡→信楽鉄道
紫香菜宮跡駅(解散16
時頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千・三雲・水
口・信楽
係 ○村田智俊
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
村田智俊まで
修験道の雲山飯道山へ。山
頂からの眺望は湖南の山々が
一望。下山後に紫香菜宮跡を
見学する。雨天中止(雪決行)

新ハイキング関西 ○山行係(リーダー)紹介 (平成21年1月現在・五十音順)

氏名	例会名	〒	住所	電話(PAX共)
相埒 逸夫	三重の山	519-0311	鈴鹿市大久保町2065	0593-71-0246
岩野 明	鈴鹿を歩く	523-0041	近江八幡市中小森町606-15	0748-33-7215
金谷 昭	北山ちよと歩き	607-8166	京都市山科区御止番所ヶ口町3	075-581-7947
狩野 東彦	週末ハイク	617-0006	向日市上植野町落第9-9	075-933-1458
古賀 慶二	兵庫周辺の山	675-0112	加古川市平岡町上之山684-31 17A-403	0794-26-1800
阪上 義次	神戸北部の山	574-0017	大東市津の辺町9-15	072-878-6818
須藤岡 輝	兵庫周辺の山	671-1262	姫路市全部区上全部50-2-11	079-273-3037
蟹見 守康	自然観察山行	504-0828	各務原市蘇原村雨町1-19-5	0583-83-3978
高島 伸浩	若狭周辺の山	914-0076	敦賀市元町14-29	0770-23-2443
塚元 一夢	地廻眺み山行	536-0008	大阪市城東区岡目4-14-9-901	06-6933-4125
寺井 恒夫	平日ふれあいハイク	604-8874	京都市中京区壬生天油町30	075-811-5231
仲谷 礼司	火曜ハイク	617-0817	長岡京市清ノ町1-6-4	075-952-1577
西上 利和	奈良周辺の山	586-0043	河内長野市清見台4-19-1-409	0721-63-7196 0721-63-5988 FAX
豊 康夫	比良を歩く	603-8211	京都市北区紫野上石町22	075-491-2373
村田 智俊	金曜ハイクほか	610-0121	城陽市寺田大野10-10	0774-53-2754
森脇 真美	近江の山	520-1602	高島市今津町454-1	0740-22-5088
山口 敏明	サイクリング&山	518-0755	名張市緑が丘中144	0595-64-0107
山田 明男	展望の山	503-0535	海津市南濃町松山624-19	0584-56-1406

山行報告
(9・10月号)
新ハイキングクラブ関西

三重・矢頭山

9月4日(木) くもりのち一時雨
(集合) 近鉄橋原神宮前駅8・05
10(バス) 中宮公園キャンプ場
11・00 登山口(不動滝) 11・10
大日汗展望台12・00(昼食) 12・
30 矢頭山13・00 矢頭峠14・00
中宮公園キャンプ場14・10(バ
ス) 坂石の湯(入浴・バス) 橋原
神宮前駅17・00(解散)

バスで登山口に向かう途中にコ
ースミスがあり、1時間遅れのス
タートとなった。沢あり、急登・
岩壁と変化に富む低山の魅力を案
じんだ。帰りは温泉で汗を流した。
(参加者) 沖 伸 須藤浩子
岩村春子 志水明美 渡部和美
奥田則夫 小栗大直 野末あや子
馬淵忠男 滝原良子 佐々木輝子
下野正年 岩本利子 船本裕巳子
竹田善英 藤村勝彦 佐藤優美子
渡辺いく 岡本和子 都築由美子

渡谷和代 辻 寛序 渡辺寿美江
○竹田善英 ○前川和佳子
○西上利和 (計26名)

三重・雲野山
(金曜ハイキング9)

9月5日(金) くもり時々雨
(集合) JR近江八幡駅10・10
15(バス) 羽田西10・30 15八幡
史公前古墳広場11・00 15八幡
神社 奥宮11・30 15 鉄塔展望
広場11・50 雲野山12・10(昼食)
13・00 天神社13・30 峠背の里
13・50 14・40 川守14・55
15・20(バス) 近江八幡駅15・50
(解散)

古墳を見学し、滑りやすい石段
道を奥宮へ登って社殿裏のツガの
古木を見た。雲野山(二等) 山頂
で昼食後に大雨が降ってきたので
大岩コースをやめ、天神社から峠
背の里にくだった。資料館を見て
キャンプ場を一周したが、コチー
ジが多くあり、よく整備されたキ
ャンプ場である。
(参加者) 巻田 晃 中嶋日出男
中川光郎 今泉 勲 武部美英子
堀内預智 加藤浩二 橋部和代

鮫田二郎 水宮佳子 小崎山利子
金森節子 橋本 彰 森 和久
川俣 勲 岡 茜子 藤井義治
中尾博子 川上久堅 ○村田智俊
(計20名)

三重・編笠岳と編笠湖一周
(サイクリング&登山遊)

9月6日(土) 晴れ
(集合) JR加太駅9・10(車)
下之垣内登山口9・40(駐車・サ
イクリング) 編笠湖公園 自転車
メンテナンス講習会30分 編笠湖
一周 落合の郷 湖の木編笠岳登
出口12・05(駐輪) 湖の木峠
編笠岳13・10(昼食) 13・40 分
岐 下之垣内登山口15・30(車)
湖の木編笠岳登山口16・00(解散)
編笠湖一周と雨に濡れた林道を
秋の風を受けてのサイクリングを
楽しんだ。メンテナンス講習会後
に、編笠岳に登り、午前中に走っ
た湖を見下ろしながら秋の味覚を
味わった。
(参加者) 池田 茂 船本裕巳子
長尾一令 村田はる江
○山口敏明 (計6名)

奥美濃・千回沢山と若丸山
(展望の山48)
9月6日(土) 7日(日) ○山田明男
*9月2日の大雨で国道が通行止
になり、中止しました。

飛騨・位山
(自然観察山行255)
9月6日(土) 晴れ
(集合) JR岐阜駅7・15(車)
モンテウススキー場9・35 140
リフト終点10・15 125 位山
11・45(昼食) 12・15 リフト終
点13・30 スキー場14・00(車)
ひまわりの湯14・30(入浴) 15・
30(車) 岐阜駅17・30(解散)
位山は深田クラブの二百名山に
選ばれてハイカーが多いせいか、
スキー場の中の登山道も整備され、
道標も新しくなっていた。ただ、
この日、他にハイカーは1名だけ
であった。
(参加者) 石井照雄 石川 巖
野野美紀恵 ○鷺見守康(計4名)

松尾寺山・高取山・向山
(鈴鹿を歩く294)
9月7日(日) 晴れ

(集合) 国道307号線道の駅

8・10(車) 宇曾川ダム右岸広場
8・30 松尾寺山9・30 高取山
11・20(昼食) 12・10 向山12・
30 山比古峠13・20 山比古地蔵
14・00 向山広場14・30(解散)
ママコナの咲く松尾寺山の尾根
からは眼下に黄金色に色づきだし
た箱庭のような湖東平野と琵琶湖
が広がる。高取山山頂の木陰でも
眺望を楽しみながらゆつくり昼食。
向山への後継には早春の花バイカ
オールの群落が残り、山頂の北
麓が伐採されて北鈴鹿の山々と湖
東平野の大パノラマが展開した。
吹き上げる涼風のなか、残暑を忘
れてゆつくり楽しんだ。
(参加者) 神野孝允 奥野太一郎
武村千鶴 岩本利子 西村文明
池田繁美 加藤國計 辻 寛序
北村 正 北村 梢 居原田幸弘
木下朝子 一之瀬 一之瀬知子
買家雅路 水戸鉄治 中澤興司博
大西博郎 福津謙治 森 美香子
北村正美 谷 守 石田誠山美
栗木敏夫 金谷 昭 市井ユリエ
○後藤康幸 ○山田敏三
○岩野 明 (計29名)

紀州・太田岳から白馬山

9月11日(木) 晴れ
(集合) 近鉄富田林駅8・55
9・00(バス) 白馬山登山口11・
00 P848分岐11・40 太田岳
12・10(昼食) 12・45 白馬山
13・50 林道出合14・30(バス)
富田林駅16・45(解散)
最初の登りは少し汗ばむほど眠
しかった。後半の尾根歩きは秋風
がひとときの安らぎを与えてくれ
相やかな一日だった。
(参加者) 須藤浩子 志水明美
渡部和美 奥田則夫 小栗大直
平 龍一 平 幸子 野末あや子
橋 照子 池田 茂 船本裕巳子
岩本利子 加藤浩二 岩崎健司
大和 祐 中島 隆 大西博郎
滝原良子 栗岡克子
○前川和佳子 ○西上利和 (計21名)

湖北の山・正隆峰

9月13日(土) 晴れ
(集合) 朽木支庁9・15(車) 雲
割谷登山口9・40 1 サケビ谷10・
15 1 叫峰11・05 1 正隆峰11・30
(昼食) 12・20 1 サケビ谷13・05
1 布の滝13・30 雲割谷登山口
14・00(解散)
朝までの雨も上がり秋晴れの山
行となった。北川を渡渉。サケビ
谷の大トナノキ群は旺盛。秋祭り
には桑原・平良・雲割谷の三集落
が寄り集まって相撲大会を開いた
という叫峰でヤッホーと叫んだ。
(参加者) 小林 桂 中橋エルサ
森本 勝 森本淳子 光川二美子
西村敏夫 國近正男 池田繁美
○高島伸浩 (計9名)

丹波・高山と鼓ヶ岳
(週末ハイキング8)

9月13日(土) 晴れ時々わか雨
(集合) JR京都駅7・40(バス)
ブナハウス内山10・30 1 40 駒倉
峠10・55 1 高山11・20(昼食)

栗園 11・30 (昼食) 13・00 P 6
9 6 13・25 カタコシ峠 13・35
ウグイ川林道 14・50 15・00
鮎川 15・45 58 (バス) 京都駅
17・20 (解散)

鹿の楽園で、ゆっくり昼食に
した。御在所岳や鎌ヶ岳、御所平な
どすばらしい展望だった。帰路は
カタコシ峠へ行き、西側の谷へく
だつたが、最近歩いている様子は
なかつた。ウグイ川林道を歩き鮎
川まで戻った。

(参加者) 本橋孟夫 多田 徳
志水明美 西村文男 林 正義
須藤浩子 三野 旭 市井ユリエ
武村千鶴 多賀久子 野末あや子
竹田勝美 高木忠夫 水見真砂子
前田初雄 下藤正年 船木裕巳子
島田 廣 岩佐 修 川戸せつ
牧 相夫 ○小栗大直
○森崎貞義 (計23名)

北摂・三草山から愛床山

9月15日(祝) くもりのち雨
(集合) J R京都駅 7・40 (バス)
慈眼寺 9・10 50 1ゼフィルスの森
森登山口 10・05 1ゼフィルスの森
の峠 10・20 30 三草山 10・50

(昼食) 11・45 1才の神峠 12・00
105 1長谷集落 12・30 (バス) る
り 滝原 13・10 (入浴) 14・30
(バス) 京都駅 15・50 (解散)
慈眼寺で住職から三草山の歴史
と長谷の棚田についての話を聴き、
ゼフィルスの森から広い午後の山
頂に登った。風も冷たく午後から
は雨予報で、やぶ道が続く愛床山
はカットし、橋の突つた美しい棚
田風景を見ながら下山した。ちょ
うどバスに到着したとき雨が降っ
てきた。帰路は温泉に立ち寄りつ
て、ゆっくりした。

(参加者) 塚本忠次 中嶋日出男
巻田 晃 辻中 貢 武部美英子
竹田善美 山根弘美 松上美代子
今村克美 林 信男 大畑代子
市岡晴美 小池一郎 郡築山美子
遠藤 申 木下朝子 山高多恵子
小川明美 ○安倉正勝
○村岡智俊 (計20名)

琵琶湖・沖島の蓮葉山尾山

(北山ちよと歩き 10 1)
9月17日(祝) 晴れのちくもり
(集合) J R京都駅 8・45 (バス)
堀切港 10・20 44 (船) 沖島港

ポイントである位山三山を眺める
ことはできた。登山道にはキノコ
が多く、園路から飛び出してきた
かのような見事なシロタマゴテン
グクケ (猛毒) テングクケ
(毒) ・ハナイグチ (食) を見た。
(参加者) 池田野美 石井照雄
石川 敏 荻野美紀恵
○鷲見守康 (計5名)

榎坂峠・ミクネ・大杉電王

(距離を歩く 2 9 5)
9月21日(日) ○岩野 明
*雨天のため中止しました(集ま
った14名で青土ダムのカリガネ
ソウ群落(特にビシク)の花を
見に行つた。)

北河内・交野山

(地図読み山行 8 7)
9月21日(日) ○塚元一彦
*雨天のため中止しました。
ソウ群落(特にビシク)の花を
見に行つた。

武奈ヶ岳

(比良を歩く 9 9)
9月23日(祝) 晴れ
(集合) J R近江高島駅 9・00 1
03 (バス) ガリバー旅行村 9・23

11・00 おおじろ広場 11・35 1尾
山頂上 11・47 (昼食) 12・45 1雨
湖岸弁天宮 13・05 15 1沖島港
13・42 14・25 (船) 堀切港 14・
40 1伊崎半島展望所 15・00 1伊崎
山 15・15 1伊崎不動 15・25 35 1
伊崎不動駐車場 16・00 (バス) 京
都駅 18・00 (解散)

定期便の人には時間待ちしてもら
った。残暑のなか、沖島航路は涼
しかった。登山道は地元が整備さ
れた展望広場からは琵琶湖の展望が
楽しめた。沖島から帰路後は伊崎
半島の川端菰野地の植生復旧地の
展望台に登り、會員の要望により
さらに足をのぼし、伊崎山。そし
て伊崎半島先端の柿飛び行事で有
名な伊崎不動に廻り、ここでも琵琶
湖の秋観を楽しんだ。
(参加者) 沖 伸 沖 紀子
志水明美 武田元可 塚本忠次
栗田出吉 河内正治 木下朝子
小栗大直 特谷礼司 山岸静雄
白鳥忠子 多田 徳 宮西和子
今泉 勲 入江 勲 水原律子
加藤浩二 矢谷隆子 大東 哲

40 1大瀬峠 10・20 35 1広谷
11・50 12・05 1イブルキノコバ
12・11 1武奈ヶ岳 13・05 (昼食)
13・45 1イブルキノコバ 14・25 1
八雲ヶ原 14・40 150 1北比良峠
15・05 15 1カモシカ台 15・55 1
16・00 1大山口 16・33 1広場 16・
43 17・00 1比良駅 17・40 (解散)
比良ロープウェイが廃止されて
から4年が経つが、さすが比良山
系の最高峰だけあって人気が高く
けっこう多くの登山者が訪れてい
た。新ハイウェイとしては久し振りの
武奈ヶ岳だったが、これからも
機会があればいろいろなルートか
ら登ってみたい。

(参加者) 中川光郎 堀江房雄
岩本彩子 木村 豊 前田初雄
辻 陽子 長尾一介 島田 廣
武村千鶴 後藤智之 後藤美恵子
畑 秀明 大和 敏 宮崎ちへ子
米谷建治 和田純子 並井洋子
○紀田信生 ○秦 康夫 (計19名)

等井博子 荒木光雄 渡辺いく
岡本和子 今村四郎 阪 みとえ
金森節子 大和 敏 馬場栄美子
近藤幸子 岩本彩子 光川二英子
松本忠雄 宮崎純正 渡辺美江
後藤純子 鈴木優子 加納山紀子
神野孝允 中尾博子 松上美代子
石原君子 加藤國計 細野欽也
小松志信 奥山繁三 ○磯部 純
○谷 守 ○金谷 昭 (計49名)

北アルプス
岳沢から奥穂高・瀧沢
9月19日(金) 21日(日)
○村岡智俊
*白風13号が接近のため中止しま
した。

丹波・白山から妙見山
9月20日(出) 晴れ
(集合) J R本郷田駅 10・30 1大
藏神社 10・55 1白山 12・20 (昼食)
12・50 1妙見山 13・30 1妙見堂
13・45 1峠 14・05 1首路 14・40 1
谷川駅 15・20 (解散)

(集合) 竜安寺バス停 8・50 1竜
安寺側登山口 9・00 1衣笠山 9・
15 125 1一条天皇火葬場 9・45 1
15 125 1青光山 11・35 140 1
15 125 1青光山 11・35 140 1
15 125 1青光山 11・35 140 1
13 10 15 1 P 2 8 9 13 45 1
14 100 1白砂山側下山口 14 35 1
55 1福王子バス停 15 20 (解散)
台風一過、晴天に恵まれ爽やか
な山行日和であった。衣笠山への
急登の道登った後は少々観光気
分を味わってから、桃山への山道
に挑戦する。沢山の三つの山は精
木林のなかで展望が無いのが残念
だが、人気のある山である。帰路
は白砂山の掘き道をくだり、途中
に展望のいい岩場に出会う。思わ
ず休憩したくなる場所である。下
山してから福王子バスまで足を
のびした。

(参加者) 山岸静雄 中嶋日出男
松井明忠 市岡晴美 岩田育土
金谷 昭 織田安弘 松本忠雄
園田憲章 須藤浩子 小石浩子
本間 隆 本間繁子 藤原由美子
滝谷和代 岡崎知子 大林 進
加藤浩二 橋野静子 岩村春子

衣笠山から沢山三山
(火曜ハイタ6)
9月23日(祝) 晴れ

飛騨・高尾山

(自然観察山行 2 5 6)
9月20日(出) 晴れのち雨

(集合) J R岐阜駅 7・15 (車)
久々野クリンセンター付近 10・
00 105 1林道 1登山口 10・35 1ゴ
ジラの背 1ふれあい広場 11・40 1
45 1高尾山 11・45 (昼食) 12・30
1峠のさき 1登山口 13・15 (車)
莊川の湯 14・50 (入浴) 15・30
(車) 岐阜駅 17・00 (解散)
台風一過の晴天とはならず、空
には雲が多くて北上などは望めな
かつたものの、高尾山のセーブルス

針谷邦夫 針谷静子 小川明美
吉野榮子 後藤純子 大岡加代子
多田 徳 川上久堅 今村あやの
塚本忠次 宮野哲郎 宮野純子
中尾博子 高橋貞治 奥山繁三
沖 紀子 ○沖 伸

○青木一雄 ○加納由紀子
○伴谷礼司 (計40名)

大峰・高塚山

10月2日木 晴れ
(集合) 近鉄橿原神宮前駅8・05
10 (バス) 登山口10・00 高塚
山12・10 (登山) 12・45 大塚山
分岐13・20 一のタワ14・15 ト
ンネル東口15・00 (バス) 橿原神
宮前駅17・10 (解散)

紙しかつた残暑も過ぎ、自然林
が長く大峰の稜線にも秋の気配が
あり、穏やかな1日だった。

(参加者) 沖 伸 加納由紀子
須藤浩子 友田 健 友田美保子
松村雅子 奥田剛夫 松上美代子
岩村春子 堀方由子 野末あや子
上田裕子 島田 廣 佐々木輝子
馬庭忠男 岩佐 修 船本裕巳子
多田 徳 今泉 照 佐藤優美子
岩本彩子 梶原泰彦 南井ユリエ

竹村英樹 ○竹田勝英
○前川和佳子 ○西上利和
(計27名)

レンタサイクルで大和三山
(サイクリング) 志登山
10月4日土 晴れ

(集合) JR・近鉄桜井駅10・00
(サイクリング) 耳成山登山口
10・25 (駐輪) 耳成山10・40
耳成山登山口11・00 (サイクリン
グ) 藤原宮跡 香具山登山口
11・40 (駐輪) 香具山11・50
香具山登山口12・00 (登山) 12・
50 (サイクリング) 欽徳山登山
口13・10 (駐輪) 欽徳山13・40
欽徳山登山口14・15 (サイクリ
ング) 榎原神宮前駅14・30 (解
散)

今回のコースは二度共雨天中止
となり、三日目にして秋晴れの古
都を楽しんだ。大和三山を眺めな
がらコスモス咲く藤原宮跡をサイ
クリングし、大和三山に立った。
(参加者) 池田 茂 眞比治夫
長尾 令 須藤浩子 船本裕巳子
藤村勝彦 鈴木吉和 ○山口敏明
(計8名)

白山西方・赤見山 (大長山)
(展望の山形)

10月4日土 晴れ
(集合) JR大和駅7・00 / JR
四ヶ原駅7・20 (車) 小坂峠下駐
車場9・55 10・10 小坂峠10・
50 赤見山11・30 遊園小屋東
11・50 (登山) 12・15 赤見山
13・20 小坂峠13・50 14・25
駐車場14・55 15・15 (車) 米原
駅17・30 大和駅18・15 (解散)

下の方ではまだまだの紅葉が、
山頂部は見事な赤だった。本当の
「赤」赤山が見られて良かった。
(参加者) (赤見山) 小林一俊
林 正義 竹井明雄 伊藤恵美子
高橋洋子 竹田勝英 生感恵美子
栗田明子 馬場桂子 村岡雄志郎
○山田明男

10月5日土 晴れ
(集合) 近鉄橿原神宮前駅8・05
10 (バス) 尾根不動尊登山口
9・40 50 尾根取付12・00 立
川の頭13・35 立川分岐14・00
(登山) 15・00 尾ヶ岳15・30
尾ヶ岳登山口17・10 (バス) 橿原
神宮前駅18・30 (解散)

当初、悪いの森公園から庄司峠
へ登る予定だったが落石のためバ
スが入れず、尾根不動尊登山口か
ら登ることになった。初めてのコー
スで道を間違え、庄司峠より東の
P740付近の尾根に取り付い
てしまった。庄司峠まで引き返す
わけにもゆかず、そのまま尾ヶ岳
に向かった。

(参加者) 友田 健 友田美保子
岩村春子 志水明美 野末あや子
松村雅子 渡部和美 佐々木輝子

紀北・生石高原
10月5日土 くもり

(集合) 近鉄上本町駅8・10 (バ
ス) 中田・大観寺10・30 50 不
動止11・00 生石高原生石山の家
動止11・00 (登山) 13・00 生石ヶ
13・30 植物園13・40 生石神社
13・55 14・00 林道との分岐点
14・20 尾立峠14・35 尾立峠
14・50 15・00 (バス) 大和駅
17・30 (解散)

朝からずっと雨が降っていたが、
生石高原の上空だけは明るく、大
観寺に到着すると雨は上がって
いた。生石ヶ岳へ行く途中で晴れ
てスキヤキの大展望が広がった。
植物園コースを散策してもらい、正
副してめずらしい花を多く見た。
結局、尾立峠まで降られなかった。

(参加者) 塚本忠次 中嶋日出男
渡部和美 河内正治 久保田玲子
栗岡克子 西村文男 谷内智恵美
君塚郁子 竹内正子 小川富士雄
高水忠夫 水富律子 河本美千子
林 信男 岩崎健司 森実喜美子
佐藤和子 小田潤子 熊田千夜子
嶋 和夫 宮村信夫 野末あや子
上田直代 朝倉信隆 小林博子
森田幸子 大岡陽子 ○福岡 章

10月4日土 晴れ
(集合) JR岐阜駅7・15 (レン
タカー) 位山峠9・45 50 アラ
ラギ通分岐10・50 休憩舎11・35
1輪山11・55 (登山) 13・00 位
山峠14・30 (車) 庄川の満15・50
(入浴) 16・30 (車) 岐阜駅18・
00 (解散)

スキー場、頂上部の公園化 (現
在は朽ち果てている) と電波塔群
のため、登山の対象から除外され
ている輪山であるが、位山峠から
の道は岐阜大学演習林と国有林を
通り、ブナ・ミズナラ・ヒノキ・
サワラなどの原生林がすばらしい。
(参加者) 池田勝美 栗野美紀恵
石川 敏 梶原泰彦 森 美香子
佐々木三千代 ○三井健一
○鷺見守康 (計8名)

10月5日土 小雨
(集合) 国道306号線大君ヶ畑
バス停8・05 (車) 鞍掛トンネル
手前広場8・30 (車) 鞍掛峠9・
00 鈴ヶ岳10・15 元池10・30
ヒルコバ11・25 (登山) 12・00

飯島 啓 入江 敏 船本裕巳子
今泉 照 白鳥忠子 松上美代子
須藤浩子 上田久子 佐藤優美子
岩本彩子 池田 茂 都築山美子
加藤浩二 島田 廣 森谷和代
川上久堅 奥田剛夫
○前川和佳子 ○西上利和
(計27名)

大峰奥駈道④
愛井天の森から弥山
登弥山か八尾ヶ岳・楊子宿
登楊子宿から釈迦ヶ岳・駒鬼
(紀伊山地の参詣道を歩く20)
10月11日(土) 13日(日) 2泊3日
(11日) くもり (集合) 近鉄下市
口駅9・10 15 (タクシー) 行者
廻トンネル西口10・40 11・00
奥駈道出合12・10 (登山) 12・45
1 芥天の森13・50 弥山小屋15・
40 (泊)
(12日) 晴れ 弥山7・10 18 鞋
ヶ岳7・35 15 明星ヶ岳直下
8・10 広場9・35 (コーヒータ
イム) 10・00 舟ノ坪10・25 17
面山分岐ピーク10・45 (登山)
11・30 七面山東峰12・30 (七面
山西峰12・50 13・00 奥駈道出

ウヅマキ科 (Urticaceae) の植物種

ウヅマキ科の植物種は、日本列島の熱帯から温帯にかけて広く分布する。本邦のウヅマキ科植物は、おもにウヅマキ属 (Urtica) とアザミ属 (Cirsium) に属する。ウヅマキ属には、ウヅマキ (Urtica dioica) など、アザミ属には、アザミ (Cirsium japonicum) などが知られる。これらの植物は、多くが有毒であり、皮膚に接触するとかゆみや腫れを起す。また、一部の種は食用としても利用される。本邦のウヅマキ科植物の分布は、主に温暖な地域に集中しているが、近年では分布域が拡大している。また、外来種の侵入も増加している。本邦のウヅマキ科植物の保護と持続的な利用の推進が求められる。

ウヅマキ科の植物種は、日本列島の熱帯から温帯にかけて広く分布する。本邦のウヅマキ科植物は、おもにウヅマキ属 (Urtica) とアザミ属 (Cirsium) に属する。ウヅマキ属には、ウヅマキ (Urtica dioica) など、アザミ属には、アザミ (Cirsium japonicum) などが知られる。これらの植物は、多くが有毒であり、皮膚に接触するとかゆみや腫れを起す。また、一部の種は食用としても利用される。本邦のウヅマキ科植物の分布は、主に温暖な地域に集中しているが、近年では分布域が拡大している。また、外来種の侵入も増加している。本邦のウヅマキ科植物の保護と持続的な利用の推進が求められる。

アザミ属 (Cirsium) の植物種

アザミ属の植物種は、日本列島の熱帯から温帯にかけて広く分布する。本邦のアザミ属植物は、おもにアザミ (Cirsium japonicum) に属する。アザミは、多くが有毒であり、皮膚に接触するとかゆみや腫れを起す。また、一部の種は食用としても利用される。本邦のアザミ属植物の分布は、主に温暖な地域に集中しているが、近年では分布域が拡大している。また、外来種の侵入も増加している。本邦のアザミ属植物の保護と持続的な利用の推進が求められる。

アザミ属の植物種は、日本列島の熱帯から温帯にかけて広く分布する。本邦のアザミ属植物は、おもにアザミ (Cirsium japonicum) に属する。アザミは、多くが有毒であり、皮膚に接触するとかゆみや腫れを起す。また、一部の種は食用としても利用される。本邦のアザミ属植物の分布は、主に温暖な地域に集中しているが、近年では分布域が拡大している。また、外来種の侵入も増加している。本邦のアザミ属植物の保護と持続的な利用の推進が求められる。

ウヅマキ科 (Urticaceae) の植物種

ウヅマキ科の植物種は、日本列島の熱帯から温帯にかけて広く分布する。本邦のウヅマキ科植物は、おもにウヅマキ属 (Urtica) とアザミ属 (Cirsium) に属する。ウヅマキ属には、ウヅマキ (Urtica dioica) など、アザミ属には、アザミ (Cirsium japonicum) などが知られる。これらの植物は、多くが有毒であり、皮膚に接触するとかゆみや腫れを起す。また、一部の種は食用としても利用される。本邦のウヅマキ科植物の分布は、主に温暖な地域に集中しているが、近年では分布域が拡大している。また、外来種の侵入も増加している。本邦のウヅマキ科植物の保護と持続的な利用の推進が求められる。

ウヅマキ科の植物種は、日本列島の熱帯から温帯にかけて広く分布する。本邦のウヅマキ科植物は、おもにウヅマキ属 (Urtica) とアザミ属 (Cirsium) に属する。ウヅマキ属には、ウヅマキ (Urtica dioica) など、アザミ属には、アザミ (Cirsium japonicum) などが知られる。これらの植物は、多くが有毒であり、皮膚に接触するとかゆみや腫れを起す。また、一部の種は食用としても利用される。本邦のウヅマキ科植物の分布は、主に温暖な地域に集中しているが、近年では分布域が拡大している。また、外来種の侵入も増加している。本邦のウヅマキ科植物の保護と持続的な利用の推進が求められる。

アザミ属 (Cirsium) の植物種

アザミ属の植物種は、日本列島の熱帯から温帯にかけて広く分布する。本邦のアザミ属植物は、おもにアザミ (Cirsium japonicum) に属する。アザミは、多くが有毒であり、皮膚に接触するとかゆみや腫れを起す。また、一部の種は食用としても利用される。本邦のアザミ属植物の分布は、主に温暖な地域に集中しているが、近年では分布域が拡大している。また、外来種の侵入も増加している。本邦のアザミ属植物の保護と持続的な利用の推進が求められる。

アザミ属の植物種は、日本列島の熱帯から温帯にかけて広く分布する。本邦のアザミ属植物は、おもにアザミ (Cirsium japonicum) に属する。アザミは、多くが有毒であり、皮膚に接触するとかゆみや腫れを起す。また、一部の種は食用としても利用される。本邦のアザミ属植物の分布は、主に温暖な地域に集中しているが、近年では分布域が拡大している。また、外来種の侵入も増加している。本邦のアザミ属植物の保護と持続的な利用の推進が求められる。

朽木・経ヶ岳から三國岳

(週末ハイキング)

10月25日(土) くもり

(集合) J市民会館7:40 (バス) 金原橋9:20 30 1 釜屋路10:40 50 1 経ヶ岳11:20 30 1 入多越11:55 (昼食) 12:40 1 三國岳13:25 1 35 1 岩谷峠14:25 1 35 1 保谷林道集合15:10 1 30 1 吉尾・秀尻尾15:55 1 16 1 05 (バス) 京都駅18:55 (解散)

ブナは黄葉を始めたところ、カエデ類が紅葉の見頃を迎えていた。鳥島トレイルポイント(標高)は奈良橋の3630(トレイル最終ポイント)、三國岳の3620(岩谷峠の3620と三つを数えた。なお、黄色のトレイルテープはあまり見かけなかった。

- (参加者) 沖 伸 須藤浩子 林 正義 三野 昭 奥田剛夫 渡部和美 小栗大直 村田はる江 塚本忠次 上田裕子 武部美美子 堀江勇樹 島田 誠 辻中 貞 和田純子 君塚郷子 大岡加代子 野間起夫 高木忠天 船越みよ子 多田 徳 後藤智之 入江 勲 堀内慎吾 加藤浩二 高橋幹治

具比根美 岩田哲士 長沢佑美 岡田恵那 小石浩子 入保田一 牧 和夫 畑 香明 小川富士道 松村輝子 (計28名) ◎野野原彦 (計28名)

越美・龍崎白山 (自然観察山行256) 11月1日(土) 晴れ *前夜の雨で龍崎西谷川が増水していたため、龍崎白山に変更した。

(集合) J市民会館7:00 (バス) 温見峠11:30 55 龍崎白山13:20 (昼食) 14:00 温見峠15:15 25 (バス) 大川駅18:00 (解散) 急ぎと温見峠にバスを走らせ、龍崎白山を後援した。見晴らしがきき、越美の山々、白山、御座、乗鞍、北アが遠望できた。

- (参加者) 池田繁美 石井照雄 石川 敏 岩崎賢治 大塚剛夫 沖 伸 上島秀夫 神谷恵美子 小松志信 佐々木三千代 竹田勝英 深澤保一 堀田輝子 牧 和夫 松村輝子 森 美香子 ◎野野原彦 ◎鷺見守敏 (計18名)

大雄鷹駆逐隊 海七重湯から前東東行場三重湯 湯前駅から地蔵湯・平治湯 北平治湯から行仙湯・笠懸山 (紀伊山地の歩道道を歩く) 11月1日(土) 3日 2泊3日 (1日 晴れ) (集合) 近鉄大橋上 市駅9:30 (タクシー) 七重湯温泉11:05 15 (タクシー) 林道ゲート11:20 1 35 1 前道ガレキ12:15 (昼食) 12:40 1 前東・小仲坊13:00 1 10 1 別荘敷地13:30 1 別荘敷地14:00 1 三重湯14:20 1 30 1 (往路) 小仲坊16:00 (返)

(2日 晴れ) 小仲坊6:00 1 太古ノ辻8:10 20 1 大岡山9:30 1 天狗の橋古湯10:30 (昼食) 11:00 1 地蔵湯11:15 1 滝川止12:00 1 剣先門12:20 1 30 1 湯船13:00 1 05 1 湯船風呂13:30 1 阿婆湯14:10 1 30 1 持軒ノ指14:50 1 30 1 千年湯15:00 1 ナラ入木15:30 1 平治湯15:50 (返) (3日 曇り) 平治湯6:45 1 松法輪湯7:20 1 湯前温泉7:50 1 8:00 1 惣田温泉9:20 1 行仙湯9:35 1 45 1 分岐9:50 1 白

谷トシキル 奥口10:30 (昼食) 11:30 (バス) 下北山温泉「さぐりの湯」12:00 (入浴) 13:30 (バス) 龍崎温泉16:50 (解散)

- (参加者) 小栗大直 村田はる江 朝倉依雄 高橋幹治 佐々木輝子 高木忠天 竹内正子 野木あや子 多賀入子 多田 徳 武部山美子 下山 登 小川富士道 ◎村田哲俊 (計14名) (9・10月参加者 69名)

会 員 募 集

当会は雑誌「新ハイキング関西」の山(二隔月刊、年6号発行)の定期購読者を中心としたハイキングの集いです。山の知識を深め、健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和21年発足以来、関東を中心に60年間に、好評のうちに活動しています。関西は平成3年秋発足して18年目に入りますが、すでに数千名の会員で活動しています。会員は当会のイベントに優先して参加できます。多くの仲間達とハイキングを楽しみましょう。

会員には「新ハイキング関西」の山一を毎月お届けします。紙「リーダー」はすべて無償の奉仕で、各自で郵券を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。会員が何回も参加されるには、山行運賃として、400円を支出していただきます。四季の自然に触れながらの山歩きから、ウォーキングまで、若々しい心に健康をいっしょに

持続するのはずばらしいことです。これから始めてみたい方、すでにベテランの方もみなさんご入会いただきます。

年会費 5000円(ラッペン共) 入会費 3000円(送料共) 入会の申し込み(随時)は、この雑誌に挿入の返信用紙をご利用ください。第何号からの返本かを忘れずに記入ください。なお、定期購読を希望される方も会員になっていただきます。お友達の住所・氏名をハガキで紹介くだされば、「新ハイキング関西」の山一最新号を見本誌として無料で送ります。

○山行係(リーダー)募集 係は2ヶ月に1、2回程度山行回会を実施していただきます。経験のある方、やっつみいたと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。「新ハイキングリーダー志望」を応募にお送りします。

新入会員(定期購読者)紹介

- 会員番号5409番から5425番まで(敬称略)
- (埼玉) 渡辺幹子
- (愛知) 大入保 茂
- (滋賀) 前川正彦 居原田幸弘
- (京都) 西澤弘通 守田光太郎 三角清美 山崎みよ子
- (大阪) 山田俊雄 信吉 優
- (奈良) 糸賀珠志 井上まら子 杉本多美雄
- (和歌山) 福田玲子
- (兵庫) 庄司信夫 庄司なおみ 橋本圭之輔 (17名)

○10月号(敬称略) *17ページ上段17行目「気」→「風」。 *16ページ上段8・9行目「出街乗車」→「出町乗車」。 *15ページ下段2行目「明るい平地」→「明るい平地」。 *14ページ「岩盤」→「岩壁」。 *13ページ付近中の「地蔵湯」→「地蔵谷」。 *12ページ「田石島」→「田石島」。 *11頁「山中」→「山中」。

●「京阪石坂線」→「京阪石坂線」。 *付近中の船尺座席表示を間違えて掲載していたものが数点ありました。今後からは正しい船尺を掲載します。

編集者からのお願い

●もっとたくさんの方の原稿を募集しています。「紀行」「コースガイド」「随想」「せせらぎ」を対象にした原稿をお送りください。文章を書くのは苦手でも気持ちがあれば十分です。口絵ページも増やしました。よい写真が撮れましたらお送りください。

●昨年度、会員のみならず「ハイキング手帳」を新春号に同封しましたが、使い勝手が悪いようで評判は芳しくありません。もっとも最近はお知らせが多くよりパンコで記録する人が多いように思います。辞書も増えますので一年限りで止めることにしました。ご利用されていた方はご了承ください。

●「京阪石坂線」→「京阪石坂線」。 *付近中の船尺座席表示を間違えて掲載していたものが数点ありました。今後からは正しい船尺を掲載します。